

インテル(R) サーバ マネージャ 8.40 スタート ガイド

著作権情報

本インテル(R) サーバ マネージャ 8.40 スタート ガイドおよび記載されているソフトウェアは、ライセンスの元で提供されており、本ライセンスの条項に基づいてのみ使用または複製できるものとします。本マニュアル内の情報は情報目的でのみ提供されており、予告なしに内容を変更することがあります。また、インテル コーポレーションが責任を負う義務があるとは解釈しないものとします。インテル コーポレーションは、本文書、または本文書と関連して提供される任意のソフトウェアにおいて起こりうる、いかなるエラーまたは不正確さについて、その責任を保証したり、義務を負うことはありません。

かようなライセンスにおいて許諾される場合を除き、本文書のいかなる部分も、インテル コーポレーションの書面による明示的な許諾を得ることなく、複製、検索システムへの保存、いかなる形態または手段の送信もできないものとします。

このドキュメントの情報は、インテル (R) 製品に関連して提供されております。このドキュメントによって、すべての知的所有権は禁反言またはその他によって明示的または黙示的に許諾されるものではありません。インテル製品の販売に関する条件および条項の記載事項を除き、インテルは一切の責任を負いかねます。また、インテルは特定目的に対する適合性、商品性、いかなる特許権の侵害、著作権、またはその他の知的所有権に関する責任および保証も含め、インテル製品の販売および (または) 使用に関する明示的または黙示的な保証を負うものではありません。インテル製品は、医療、人命救助、人命維持、重要管理や安全システム、核施設アプリケーションにて使用されるものではありません。インテルは、予告なしにいつでも仕様および製品の説明を変更することがあります。

Intel、Xeon、および Pentium は、米国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の、商標あるいは登録商標です。

サードパーティ Web サイトへのリンク: リンク先のサイトはインテルが管理するものではないので、リンク先のサイトやそのサイトに含まれているリンクについて、インテルは一切責任を負いません。インテルは、リンクやリンク プログラムを随時停止する権利を保有します。インテルはリンク先の会社や製品を保証するものではなく、Web やドキュメントのページにその旨を通知する権利を保有します。このドキュメントにリンクされているサードパーティ サイトにアクセスする場合のリスクは、すべてユーザ自身の責任となります。

* その他の製品名またはブランドは各所有者に帰属します。

Copyright © 2004, 2005 Intel Corporation

Copyright © 2004, 2005 LANDesk Software, Ltd.

改訂履歴

日付	改訂番号	改訂内容
2005 年 8 月 8 日	1.0	本書の初版

はじめに

第 1 章:インテル(R) サーバ マネージャの概要

第 2 章:インテル(R) サーバ マネージャの配備

第 3 章:インテル(R) サーバ マネージャを使用してサーバを管理する

第 4 章:インテル(R) サーバ マネージャ セットアップのトラブルシューティング

付録 A:セットアップに関する参照情報

付録 B: Red Hat Enterprise Linux セットアップ

付録 C:インテル® EM64T プラットフォーム セットアップ

付録 D: インテル(R) サーバ マネージャのアンインストール

用語集

インデックス

[このページは意図的に空白にされています]

目次

はじめに	ix
本書について	ix
インテル(R) サーバ マネージャの新機能	ix
本書の構成	ix
追加情報とソフトウェア	x
関連ソフトウェアの場所	xi
参考仕様	xiii
詳細情報の場所	xiii
表記規則	xv
第 1 章:インテル(R) サーバ マネージャの概要	1
インテル(R) サーバ マネージャの標準的な配備	1
サーバ管理とは	2
インテル(R)サーバ マネージャ の 3 つの使用例	2
例 1. ハードウェア センサの監視	3
例 2: リモート サーバ上のシャーシ侵入	3
例 3: ハード ドライブ空き容量の監視	4
インテル(R) サーバ マネージャのコンポーネント	4
第 2 章:インテル(R) サーバ マネージャの配備	5
インテル(R)サーバマネージャ セットアップについて	6
最小限必要なシステム要件	8
リモート Web コンソールを実行する	8
インテル® サーバ マネージャ セットアップを実行する	9
管理者コンソール (Microsoft Windows) をインストールする	10
サーバ (プライマリ エージェント) (Microsoft Windows) をインストールする	11
ISM サーバ (ミニマル エージェント) (Microsoft Windows) をインストールする	12
ISM サーバ (エージェントなし) (任意のオペレーティング システム) をインストールする	13
管理者コンソール (Linux) をインストールする	14
ISM サーバ (プライマリ エージェント) (Linux) をインストールする	15
ISM サーバ (ミニマル エージェント) (Linux) をインストールする	16
ネットワーク要件 (すべてのオペレーティング システム)	17
一般的なセットアップ手順	20
インストールに関する重要事項	21
Windows へのインストール	21
Linux へのインストール	22
インテル(R)サーバ マネージャのアップグレード	22
インテル(R)サーバ マネージャ インストール手順の例	23
管理者コンソールを Microsoft Windows にインストールする	23

インテル(R) サーバ マネージャ 8.40 サーバコンソール (プライマリ エージェント) を Red Hat Linux にインストールする.....	36
その他のセットアップ オプション.....	50
サイレント インストール.....	50
カスタム インストール	55
複数システムのリモート インストール:	55
特別考慮事項	55
オペレーティング システムに関する考慮事項	55
インテル(R) マネージメント モジュール.....	56
インテル(R) サーバ ボード上の BMC 無しでのセンサの読み値.....	57
SNMP	57
Intel® Server Maintenance and Reference Training (SMaRT) ツール.....	57
スイッチ上でスパニング ツリーを設定する.....	57
LAN (SOL) の BIOS 設定.....	58
第 3 章:インテル(R) サーバ マネージャを使用してサーバを管理する	60
インテル(R) サーバ マネージャの起動	60
Microsoft Windows からインテル(R)サーバ マネージャを起動する	60
Linux からインテル(R)サーバ マネージャを起動する	61
インテル(R) サーバ マネージャを使い始める	62
第 4 章:インテル(R) サーバ マネージャ セットアップのトラブルシューティング	67
セットアップがインテル(R) サーバ マネージャをインストールできませんでした.....	67
アンインストールですべてのファイルまたはフォルダが削除されませんでした	67
ネットワークの名前解決に関する問題	67
付録 A:インテル(R) サーバ マネージャ セットアップに関する参照情報	69
サポートされているハードウェア	69
レガシー インテル(R) サーバ ボードのサポート	73
インテル(R)サーバ マネージャ 8.40 の機能.....	75
インテル(R)サーバ マネージャ 8.40 管理エージェント	76
Microsoft Windows でのインテル(R)サーバ マネージャサービスのリスト	76
Linux でのインテル(R)サーバ マネージャ サービスのリスト	77
インテル(R)サーバ マネージャ セットアップ ログ ファイル.....	77
パスワード.....	78
付録 B: Red Hat Enterprise Linux セットアップ	80
複数システムのインストール.....	80
Linux に 管理者コンソールをインストールする	80
Red Hat Linux 上でインテル(R)サーバ マネージャ セットアップを実行する方法	81
Linux パッケージのインストール.....	81
Red Hat Linux インストール中にインストールするパッケージ	82
perl-CGI-2.81-88.7.i386.rpm	82

w3c-libwww-5.4.0-5.i386.rpm パッケージ.....	83
「開発ツール」パッケージ.....	83
カーネル開発ツール パッケージのインストール.....	83
レガシー ソフトウェア開発パッケージ.....	83
グラフィカル インターネット パッケージ.....	84
システム ツール パッケージ.....	84
kernel-hugemem-unsupported-2.4.21-15.EL.i686.rpm パッケージ.....	84
レガシー サーバ パッケージ.....	84
FTP サーバ パッケージ.....	85
MySQL パッケージのインストール.....	85
mysql-3.23.58 パッケージ.....	85
lm_sensors パッケージ.....	85
設定ファイルの編集.....	86
snmpd 設定ファイルの編集.....	86
ユーザを FTP グループに追加する方法.....	87
サービスの起動.....	87
vsftpd サービスの起動方法.....	87
xinetd サービスが起動されたことを確認する方法.....	87
snmpd と snmptrapd サービスが起動されたことを確認する方法.....	88
MySQL サービスの起動方法.....	88
新規の MySQL ユーザを追加する方法.....	88
付録 C:インテル® EM64T プラットフォーム セットアップ	89
Red Hat Packages (インテル® EM64T エディション) のインストール.....	89
SuSE LINUX パッケージのインストール.....	91
付録 D: インテル(R) サーバ マネージャのアンインストール	93
ローカル Windows システムからインテル(R) サーバ マネージャ をアンインストールする	
ローカル Linux システムから ISM をアンインストールする	
リモート システムから ISM をアンインストールする.....	93
用語集	95
インデックス	97

図一覧

図 1. 標準的なインテル(R) 開発ツールキット CD	x
図 2. 標準的なインテル(R) サーバ マネージャ CD	x
図 3. インテル(R) サーバ製品サポート Web サイト	xi
図 4. インテル(R) サーバ マネージャの標準的な配備	1
図 5. さまざまなインストール オプションを示すインテル(R) サーバ マネージャ の配備	6
図 6. サイレント インストール設定ファイルの例	68
図 7. インテル(R) サーバ マネージャ セットアップ	83

表一覧

表 1. 関連ソフトウェアの場所	xi
表 2. 参考仕様	xiii
表 3. 追加情報	xiv
表 4. 表記規則	xv
表 5. リモート Web コンソールに最低限必要なシステム要件	8
表 6. セットアップを実行するコンピュータに最低限必要なシステム要件 (すべてのオペレーティング システム) ..	10
表 7. Microsoft Windows での管理者インストールに最低限必要なシステム要件	11
表 8. Microsoft Windows 上のサーバ (プライマリ エージェント) インストールに最低限必要なシステム要件 ..	11
表 9. Microsoft Windows 上のサーバ (ミニマルエージェント) のインストールに最低限必要なシステム要件 ..	12
表 10. 任意のオペレーティング システム上のサーバ (エージェントなし) のインストールに最低限必要なシステム要件 ..	13
表 11. Linux 管理者コンピュータに最低限必要なシステム要件	14
表 12. Linux サーバ (プライマリ エージェント) コンピュータに最低限必要なシステム要件	15
表 13. Linux コンピュータ上のサーバ (ミニマル エージェント) のインストールに最低限必要なシステム要件 ..	16
表 14. サイレント インストール パラメータ	54
表 15. インテル (R)サーバマネージャ セットアップでサポートされているプラットフォーム	69
表 16. コンポーネントでサポートされているインテル (R)サーバボードとプラットフォーム	70
表 17. インテル (R)サーバマネージャ 8.40 CD 同梱のインテル (R) サーバ ボード	72
表 18. サポートされている管理コントローラのサーバ ボード別リスト	73
表 19. インテル (R) サーバ マネージャ 8.40 のレガシー製品との互換性	74
表 20. インテル (R)サーバマネージャ 8.40 でサポートされているインテル (R) レガシー プラットフォーム	74
表 21. サポートされている Intel® Server Manager 8.40 機能 (オペレーティング システム別にリスト)	75
表 22. Windows コンピュータにインストールする際インテル (R)サーバマネージャで必要なパスワード	78
表 23. Linux コンピュータにインストールする際 インテル (R)サーバマネージャで必要なパスワード	79
表 24. Red Hat Enterprise Linux に必要なパッケージのリスト	81
表 25.Red Hat Enterprise Linux 3 パッケージ (インテル® EM64T エディション) に最低限必要なバージョン ..	90
表 26.SuSE LINUX 9 パッケージ (インテル® EM64T バージョン) に最低限必要なバージョン	91

はじめに

本書について

インテル(R) サーバ マネージャ搭載のインテル サーバ ボードをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

本書は、インテル サーバ マネージャ バージョン 8.40 をインストールして使用するシステム管理者を対象に書かれています。本書には、インテル(R) サーバ マネージャ の機能の概要、システム要件のリスト、インテル(R) サーバ マネージャのインストール手順、およびインテル(R) サーバ マネージャの使用の手引きが記載されています。

読者は、ネットワーク管理と使用オペレーティング システムの実務的な知識を持っていることが前提とされます。また、インテル サーバ マネージャで管理するインテル サーバ プラットフォームのハードウェア コンポーネントに使い慣れていることも必要です。

インテル(R) サーバ マネージャの新機能

このリリースのインテル(R) サーバ マネージャでは、次の新機能がサポートされています。

- インテル (R)サーバ コンピュート ブレード SBXL52、SBX82 及び SBX44 (インテル ブレード サーバ シェア管理モジュール SBCECMM を使用する場合)のサポート
- インテル キャリア グレード サーバ TIGPR2U と TIGPT1U のアウトオブバンド サポート
- インテル(R) SE7525RP2, SE7320EP2, SE7230NH1-E サーバボードのインバンド サポート.
- インテル(R)サーバマネージャ コンポーネントのドイツ語、簡体中国語、ロシア語、日本語へのローカリゼーションの追加。
- RHEL3u4 および SLES9sp1 上でのインテル® エクステンデッド メモリ 64 テクノロジ (インテル® EM64T) のサポート

本書の構成

第 1 章 インテル サーバ マネージャの概要。この章では、インテル(R) サーバ マネージャ の基本用語について説明し、ユーザがインテル(R) サーバ マネージャ セットアップで正しいオプションを選択するために必要な背景情報を提供します。

第 2 章 インテル(R)サーバマネージャ を配備する方法を説明します。インテル(R) サーバ マネージャ インストールの手順書としてご使用ください。

第 3 章 インテル(R)サーバマネージャ を使用してサーバを管理する方法を紹介します。インテル(R) サーバ マネージャ を起動する手順を説明し、インテル(R) サーバ マネージャ による標準的なタスク実行例をいくつか挙げます。

第 4 章 トラブルシューティングについて説明します。この章では、インテル(R) サーバ マネージャ のセットアップで起きやすい問題およびエラーの解決方法について説明します。

付録 A インテル(R) サーバ マネージャ セットアップの参照情報および補助情報を提供します。

付録 B Red Hat Linux コンピュータにインテル(R) サーバ マネージャ をインストールするための追加情報を提供します。

付録 C インテル EM64T 対応の Linux コンピュータにインテル(R) サーバ マネージャ をインストールするための追加情報を提供します。

付録 D インテル(R) サーバ マネージャ のアンインストールに関する補助情報を提供します。

追加情報とソフトウェア

この製品の詳細情報、またはインテル サーバ ボードまたはプラットフォームで使用できる付属品についての情報は、**表 3. 追加情報**に掲載されているリソースを参照してください。インテル サーバ ボードまたはプラットフォーム用のソフトウェアやマニュアルは インテル(R)サーバマネージャ 8.40 CD と Intel Deployment Toolkit CD に収録されています(これらの CD はインテル サーバ製品のボックスに同梱されています)。また、インテル サポート Web サイトからダウンロードできるマニュアルやソフトウェアもあります。これらの CD は、**図 1** および **図 2** でご確認ください。



図 1. 標準的なインテル(R) 開発ツールキット CD



図 2. 標準的なインテル(R) サーバ マネージャ CD

インテル サーバ製品サポート Web サイトは

<http://support.intel.com/support/motherboards/server/>

特定のインテル サーバ ボードまたはプラットフォームの情報を探すには、そのボードまたはボード セットの製品コードを選択してください。(サポートされているインテル サーバ ボードおよびプラットフォームのリストは、“**サポートされているハードウェア**” 69 ページを参照してください。) **図 3** には、インテル サーバ製品の Web サイトが表示されています。

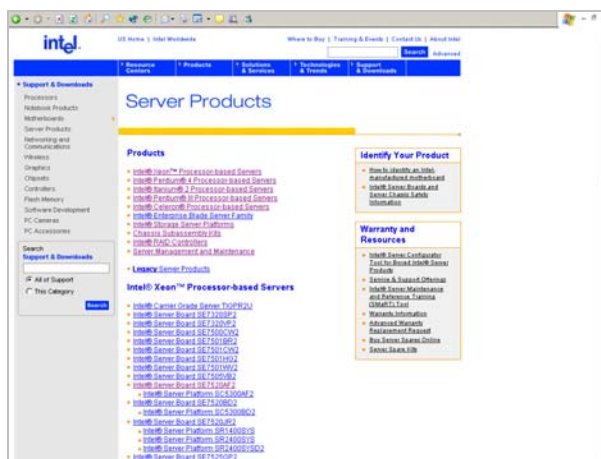


図 3. インテル(R) サーバ製品サポート Web サイト

関連ソフトウェアの場所

表 1. 関連ソフトウェアの場所

ソフトウェア	場所
インテル(R) サーバ マネージャ セットアップ	インテル サーバ マネージャ 8.40 CD Windows:CD のオートラン Linux:/mnt/cdrom/ism/Software/Setup
インテル サーバ マネージャ セットアップのヘルプ	Windows:<drive>/ism/help/ <language>/install/install.htm Linux:/mnt/cdrom/ism/help/ <language>/install/install.htm ここで、<language>は中国語、英語、ドイツ語、日本語、またはロシア語です。ヘルプ ファイルは、インテル(R)サーバマネージャ 8.40 をサポートするブラウザで、直接 CD から開くことができます。
コマンドライン インタフェース (CLI)	インテル(R)サーバマネージャ のセットアップで DPCCLI (Direct Platform Control Command Line Interface) プロキシをインストールする必要があります。
SNMP サブエージェント	サーバの管理に必要な SNMP サブエージェントと MIB ファイル (ベースボード、NIC、SATA RAID、SCSI RAID サブエージェントを含む場合がある) は、インテル(R)サーバマネージャ セットアップでインストールする必要があります。
ワンブート フラッシュ アップデート (OFU)	OFU は インテル(R)サーバマネージャ セットアップで インストールするかインテル ワンブート フラッシュ アップデートの“インストールと使用説明書”の指示に沿って手動でインストールする必要があります。
アドバンスドリモート サーバ コントロール (ARSC) ビューア	ARSC は インテル(R)サーバマネージャ セットアップで インストールする必要があります。
インテル サーバ マネージャ	インテル サーバ マネージャは インテル(R)サーバマネージャ セットアップで インストールする必要があります。

ソフトウェア	場所
Save and Restore System Configuration Utility (syscfg)	DOS syscfg ユーティリティは、インテル サーバ ボードまたはパフォーマンスのボックスに同梱されているインテル デプロイメント ツールキット CD に入っています。syscfg はすべての製品に同梱されているわけではありません。このユーティリティが同梱されているかは、製品ガイドで調べてください。
SMaRT ツール	SMaRT (Server Maintenance and Reference Training) ツールは、インテル サポート Web サイト (http://www.intel.com/design/servers/smarttool/) からダウンロードでき、また一部のインテル サーバ ボードとプラットフォーム向けのインテル デプロイメント ツールキット CD に同梱されています。SMaRT ツールがご使用のインテル サーバ製品でサポートされているかは、サポート Web サイトでご確認ください。このツールは、インテル エクスプレス インストーラではインストールされず、サポート Web サイトから自己解凍パッケージとしてダウンロードすることもできません。インテル(R)サーバマネージャ セットアップではインストールされません。
ドライバ	<p>ベースボード ハードウェアをサポートするために必要なドライバは、インテル サーバ ボードに同梱のインテル デプロイメント ツールキット CD に入っています。ドライバのアップデートは、インテル サポート Web サイトでご使用のインテル サーバ ボード向けのサポート ページをご覧ください。</p> <p>Windows ドライバをインストールするには、インテル デプロイメント ツールキット CD を挿入して、インテル エクスプレス インストーラを起動してください。(インテル デプロイメント ツールキット CD を使用してシステムを起動すると、ソフトウェア設定ウィザードが開きます。)</p> <p>Linux ドライバは、Linux のインストール中に、インテル デプロイメント ツールキット CD から直接インストールすることができます。</p> <p>インテル(R)サーバマネージャ セットアップでは、インストール中に選択したセットアップ オプションに応じて、必要なドライバがインストールされます。</p>
ファームウェアと BIOS アップデート	最新のアップデートは、インテル サポート Web サイトでご使用のインテル サーバ ボード向けのサポート ページをご覧ください。
診断テスト ソフトウェア	インテル サーバ ボードまたはプラットフォームに同梱のインテル サーバ デプロイメント ツールキット CD に入っているプラットフォーム コンフィデンス テスト (PCT) をご覧ください。PCT のマニュアルも、PCT ソフトウェアといっしょにこの CD に入っています。
ソフトウェア設定ウィザード (SCW)	インテル デプロイメント ツールキット CD を使用してシステムを起動すると、ソフトウェア設定ウィザードが開きます。(Windows が起動した後インテル デプロイメント ツールキット CD を挿入すると、インテル エクスプレス インストーラが起動します。)
組み込み CLI	インテル マネージメント モジュール—アドバンスド エディションには組み込みコマンドライン インタフェース (CLI) サーバが装備されています。このサーバに接続するには、アドバンスド エディション モジュールに接続されているジェネラル コミュニケーション モジュール (GCM) NIC の IP アドレスに telnet 接続します。有効な BMC ユーザ名とパスワードを入力する必要があります。

ソフトウェア	場所
組み込みウェブ サーバ	インテル マネージメント モジュール—アドバンスド エディションにはベースボード管理専用の Web サーバが組み込まれています。このサーバに接続するには、アドバンスド エディション モジュールに接続されているジェネラル コミュニケーション モジュール (GCM) NIC の IP アドレスを、ブラウザの URL 行に入力します。有効な BMC ユーザ名とパスワードを入力する必要があります。
組み込み SNMP エージェント	インテル マネージメント モジュール—アドバンスド エディションにはベースボード管理専用の SNMP エージェントが組み込まれています。このエージェントは、オペレーティング システムのマスター エージェントおよび インテル(R)サーバマネージャ 8.40 でインストールされたサブエージェントからは独立したものです。SNMP エージェントに接続するには、サードパーティ製の SNMP 管理アプリケーションを使用して、アドバンスド エディション モジュールに接続されているジェネラル コミュニケーション モジュール (GCM) NIC の IP アドレスを入力します。
FRU/SDR ユーティリティ	DOS FRU/SDR ユーティリティは、インテル サーバ ボードまたはパフォーマンスのボックスに同梱されているインテル デプロイメント ツールキット CD に入っています。このユーティリティはすべての製品に同梱されているわけではありません。このユーティリティが同梱されているかは、製品ガイドで調べてください。
DOS SEL ログ ビューア	DOS システム イベント ログ ユーティリティは、インテル サーバ ボードまたはパフォーマンスのボックスに同梱されているインテル デプロイメント ツールキット CD に入っています。このユーティリティはすべての製品に同梱されているわけではありません。このユーティリティが同梱されているかは、製品ガイドで調べてください。
PCI Hot Plug Utility for Windows	Windows PCI Hot Plug Utility は、インテル SE7520AF2 サーバ ボードの PCI ホット プラグ対応 SKU の OEM メーカーが利用できます。このユーティリティについては、システム サプライヤにお問い合わせください。

参考仕様

表 2. 参考仕様

情報・ソフトウェア	参照文書
インテリジェント プラットフォーム マネージメント インタフェース (IPMI) 仕様	http://www.intel.com/design/servers/ipmi/

追加情報

表 3. 追加情報

情報・ソフトウェア	参照文書
インテル(R)サーバマネージャ リリースノート	Release_notes.htm (英語のみ) は インテル(R)サーバマネージャ 8.40 CD に収録されています。リリース ノートは、また、セットアップ ランチャの [文書] ページからアクセスでき、インテル(R)サーバマネージャ のインストール時に選択したシステムにインストールされます。
コマンドライン インタフェース (CLI)	インテル(R)サーバマネージャ 8.40 CD にある『コマンド ラインインタフェース インストールおよびユーザ ガイド』
SNMP サブエージェント	インテル(R)サーバマネージャ 8.40 CD にある『インテル サーバ マネージャ 8 SNMP サブエージェントのインストールと設定』
One-Boot Flash Update (OFU)	インテル(R)サーバマネージャ 8.40 CD にある『インテル(R) One-Boot Flash Update ユーティリティのインストールおよびユーザ ガイド』
アドバンスドリモート サーバ コントロール (ARSC)	アドバンスドリモート サーバ コントロール (ARSC) オンライン ヘルプ (ARSC ビューアをインストールした後利用できます)
インテル サーバ マネージャ	オンライン ヘルプ フォーム インテル(R)サーバマネージャ または インテル(R)サーバマネージャ でインストールされたサーバ ガイド (ismguide.pdf) <i>Intel Server Manager 8.40 Server Guide for Windows</i> <i>Intel Server Manager 8.40 Server Guide for Linux</i> <i>Intel Server Manager 8.40 Administrator Guide for Windows</i> <i>Intel Server Manager 8.40 Administrator Guide for Linux</i>
Save and Restore System Configuration Utility (syscfg)	インテル サーバ ボードの製品ボックスに同梱のインテル デプロイメント ツールキット CD に入っている『 <i>Installation and User Guide for Intel DOS-Based Save and Restore System Configuration Utility (syscfg)</i> 』
インテル マネージメント モジュール	インテル サーバ ボードの製品ボックスに同梱のインテル デプロイメント ツールキット CD に入っている『インテル マネージメント モジュール インストールとユーザ ガイド』
BIOS 設定とチップセット情報を含む、インテル サーバ ボード製品の詳細技術情報	インテル(R) サーバ ボード製品の技術仕様 (ご使用のインテル サーバ ボード製品に関する文書を参照)
インテル サーバ ボードに関する詳細情報	インテル サーバ ボード ユーザ ガイド (製品ボックスに同梱のインテル(R) デプロイメント ツールキットに入っている PDF 文書)
インテル サーバ ボードをインストールするための情報	インテル サーバ ボード クイック スタート ユーザ ガイド (製品ボックスに同梱の印刷文書)
バーチャル システム ツアーとインタラクティブ修理情報	SMaRT (Server Maintenance and Reference Training) ツールは、インテル サポート Web サイト からダウンロードでき、また一部のインテル サーバ ボードの製品ボックスに同梱されています。特定のインテル サーバ製品が SMaRT ツールでサポートされているかは、サポート Web サイトでご確認ください。

表記規則

表 4. 表記規則

フォント	意味	例
Courier New	ユーザがコマンドラインまたは端末のウィンドウに入力するテキストを示します。	DPCCLI
斜体	ユーザが適切な値を代入する変数文字列を示します。入力する際、山カッコは付けません。	DPCCLI [<i>ip_address</i>]
[オプション]	角カッコは、構文内の省略可能な要素を示します。入力する際、角カッコは含みません。	sensors [-v]
{オプション 1 オプション 2}	波カッコは一連の選択項目を含みます。各選択項目は縦棒で分離されています。これらの項目のいずれかを入力する必要があります。入力する際、角カッコは含みません。	Services {-console -exit -ftp {start stop}}

[このページは意図的に空白にされています]

第 1 章:インテル(R) サーバ マネージャの概要

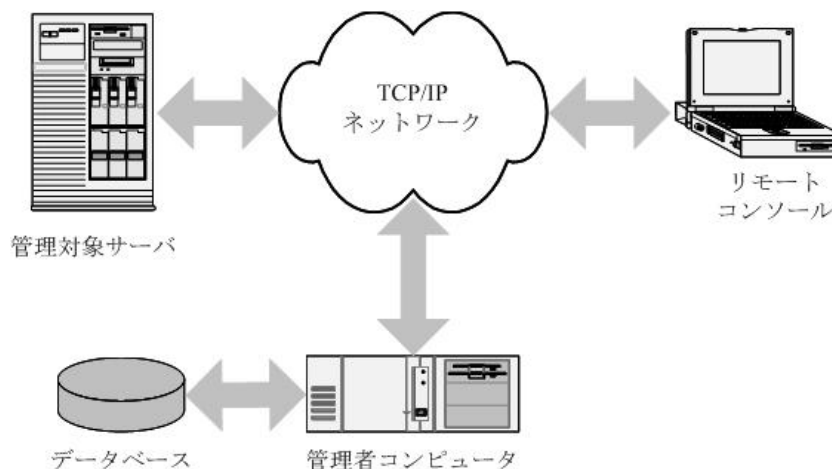
インテル(R)サーバ マネージメントは、インテル サーバ製品向けに特別に設計された包括的なツールのスイートです。インテル サーバ マネージメントは次の 4 つのコンポーネントで構成されています。

1. インテル サーバ マネージャ
2. Intel Server Maintenance and Reference Training (SMaRT) ツール
3. インテル デプロイメント ツールキット
4. インテル エクスプレス インストーラ

このガイドでは、インテル サーバ マネージメント スイートの 4 つのコンポーネントの 1 つであるインテル サーバ マネージャを中心に説明します。

インテル(R) サーバ マネージャの標準的な配備

図 4 に、インテル(R)サーバマネージャの標準的な配備を示します。



F0001

図 4. インテル(R) サーバ マネージャの標準的な配備

サーバ マネージャの標準的な配備は、5 つのコンポーネントで構成されます。

1 台または複数の 管理対象サーバ データを管理者に送信し、管理者からのコマンドに応答するように設定されたサーバです。

TCP/IP ネットワーク

通常、すべての管理対象サーバは TCP/IP ネットワークを使用して管理者のコンピュータに接続されています。

管理者コンピュータ

インテル(R)サーバマネージャ 管理者コンソールがインストールされているネットワーク コンピュータ。コマンドライン インタフェース用のプ

ロキシ サーバとアドバンスドリモート サーバ コントロール ビューアがインストールされている場合もあります。

データベース

インテル(R)サーバマネージャ 管理者が各管理対象 システムに関する情報を保存するために使用する SQL データベース。インテル(R)サーバマネージャ セットアップで、Microsoft SQL Server Desktop コンポーネントがインストールされます。Linux では、インテル(R)サーバマネージャ アドミニストレータ コンソールをインストールする前に インテル(R)サーバマネージャ MySQL をインストールして設定する必要があります。

リモート コンソール

システム管理者は、ネットワークのどの場所からでも インテル(R)サーバマネージャ を使用することができます。これには、通常、管理者のコンソール、リモート アクセス用の端末ウィンドウ、またはサードパーティ製の SNMP 管理アプリケーションが使用されます。複数のリモート コンソールを持つことができます。

サーバ管理とは

サーバ管理とは、サーバ プラットフォーム (サーバ ボードとシャーシ コンポーネントの組み合わせ) の全面的な監視と制御を指します。監査には、通常、*サーバハードウェアヘルスとサーバパフォーマンスの監視*が含まれます。サーバ コンピュータの制御機能には、通常、電源制御、キーボード/ビデオ/マウスの遠隔制御、およびベースボード管理コントローラへのコマンドの発行があります。

インテル サーバ マネージャの機能と特徴は、管理対象サーバのハードウェア構成によって異なります。標準的な配備で、管理者は インテル(R)サーバマネージャ を使用して次のタスクをリモートに行うことができます。

- 管理対象サーバ上のハードウェア センサを監視する
- 管理対象サーバの電源をオン/オフする
- オペレーティング システムから収集したデータを使用して、サーバのパフォーマンスを監視する
- センサ値が範囲外であるか、パフォーマンスしきい値に達したときにアラート メッセージを受信する
- BIOS にアクセスするか、ファームウェア ユーティリティをプレブートする
- オペレーティング システム デスクトップにアクセスする
- リモート サーバ上のベースボード マネージメント コントローラを設定するコマンドを発行する
- ファームウェアまたは BIOS アップデートをリモート インストールする

インテル(R)サーバマネージャ の使用例

以下の 3 つの例は、標準的な配備での インテル(R)サーバマネージャ 8.40 の使用方法を示すものです。

- 例 1 は、管理者が管理対象サーバ上のボード センサを監視する方法を示します。

- 例 2 は、管理者が インテル(R)サーバマネージャ のアラート、遠隔監視、および制御機能を使用する方法を示します。
- 例 3 は、管理者が インテル(R)サーバマネージャ 8.40 のパフォーマンス監視ツールを使用する方法を示します。

例 1. ハードウェア センサの監視

標準的なインテル サーバ プラットフォームで、ベースボード管理コントローラは以下を始め、多数のセンサを監視します。

- 温度
- ファンの回転速度
- 電圧
- セキュリティ (シャージ侵入など)
- コンポーネントの追加または削除 (ホットスワップ電源装置など)
- メモリ設定 (メモリ ミラーリングなど)
- コンポーネントの冗長構成の状態 (電源装置の冗長構成など)
- ハード ディスク ドライブの RAID 構成
- ネットワーク アダプタの状態

これらすべてのセンサのセンサ値は、インテル(R)サーバマネージャ サーバ コンソールを使用して表示できます。

標準的な例:管理対象サーバの 1 台でファンが停止しました。システム管理者は、1 台のファンが下限のしきい値に近づいたことを知らせる電子メール アラートを受信します。インテル(R)サーバマネージャ でファンと温度センサの表示を見ます。サーバのファンは十分な冗長構成がとられており、現場のオペレータが新しいファンにホットスワップできるまでサーバの運用を継続できることがわかりました。また、ベースボード マイクロコントローラによって記録されたシステム イベント ログを見て、ファン以外に何か故障が起きたかを調べます。インテル(R)サーバマネージャ を使用して、青い「Identify」LED を点灯し、現場のシステム オペレータに電話をかけて、ファンを交換するように指示します。現場のオペレータは、SMaRT ツールを使用して、故障したファンに関する詳細情報を取得します。

例 2:リモート サーバ上のシャージ侵入

標準的な例:侵入者が、管理対象サーバのうちの 1 台のフロント パネルのカバーを開けました。システム管理者は、シャージ侵入があったことを知らせる電子メールを受信します。即座に現場のオペレータに電話して、調査を依頼します。インテル(R)サーバマネージャ を使用して、シャージの前面にある青い「Identify」LED を点灯します。現場のオペレータが調査している間、インテル(R)サーバマネージャ を使用して、コンポーネントの取り外しとオペレーティング システムにおける通常以外のサービスを監視します。必要なら、インテル(R)サーバマネージャ 電源制御を使用して、改変を防止します。

例 3:ハード ドライブ空き容量の監視

標準的な例:ネットワーク ファイル サーバの空き容量が 1 GB しかありません。ネットワークを共有しているユーザに不要なファイルを削除するように要請します。その後、インテル(R)サーバマネージャのパフォーマンス監視機能を使用して、空き容量の下限のしきい値を 300 MB に設定し、電子メール アラートを送信するように設定します。ときどき、ハード ディスクの空き容量を示すグラフを調べて、ユーザがファイルを削除するようにという警告が守られているかをチェックします。

インテル(R) サーバ マネージャのコンポーネント

インテル サーバ マネージャ 8.40 は次のコンポーネントで構成されています。

- 管理対象サーバにインストールされている管理エージェント
- 管理対象サーバ用の Web ベースのコンソール
- Web ベースの管理者コンソール
- 管理対象サーバ用の SNMP サブエージェント
- コマンドライン管理ツール
- リモート キーボード、マウス、およびアドバンスド リモート サーバ コントロールと呼ばれるビデオ ツール。このビデオ ツールは、オプションのインテル マネージメント モジュール アドバンスド エディション ハードウェア アップグレードを装備したインテル サーバ ボードで使用できます。
- One-Boot Flash Update というアップデート ユーティリティ。これによって、オペレーティング システムが実行されている間にファームウェアと BIOS のアップデートを行うことができます (ほとんどの場合、アップデートされたファームウェアと BIOS は、次回の再起動後に使用されます)。

インテル(R)サーバマネージャ セットアップ ユーティリティではこれらのコンポーネントの任意の組み合わせをインストールできますが、インテル(R)サーバマネージャ セットアップを実行する前に、インストールする各コンポーネントについて十分に理解することが重要です。

第 2 章:インテル(R) サーバ マネージャの配備

この章では、インテル(R)サーバマネージャ のすべてのコンポーネントをインストールする手順を説明します。必要な Linux パッケージをインストールして設定する手順の詳細は、「付録 B: Red Hat Enterprise Linux」を参照してください。

この章では、以下の作業を終えていることが前提とされます。

- インテル マネージメント モジュール (一部のプラットフォームではオプション) をインストールする。
- インテル デプロイメント ツールキット CD にあるソフトウェア設定ウィザード (SCW) または System Save and Restore Configuration (syscfg) ツールを使用して、インテル マネージメントを設定する。
- インテル エクスプレス インストーラ ツールを使用して、サーバ ボード コンポーネント用のドライバをインストールする (Windows のみ) か、インテル デプロイメント ツールキット CD から直接インストールする (Windows または Linux)。これには、ビデオ、チップセット、SATA RAID、SCSI RAID、ネットワークアダプタ、インテル PROSet ユーティリティが含まれることがあります。(インテル(R)サーバマネージャ セットアップで、インテル(R)サーバマネージャ で必要な追加のドライバがインストールされます。)
- インテル 7520AF2 サーバ ボードにオプションの PCI ホットプラグ アクセサリ キットを追加した場合は、インテル PCI ホットプラグ ユーティリティをインストールする。
- 最新のファームウェアと BIOS に更新する。ファームウェアには、BMC ファームウェア、FRU パッケージ、SDR パッケージ、およびホットスワップ コントローラ ファームウェアへのアップデートが含まれていることがあります。インテル サーバ ボードに同梱の製品ガイドには、ボード ファームウェアのアップデートの手順が記載されています。最新のファームウェアは <http://support.intel.com/support/motherboards/servers> Web サイトからご利用いただけます。

インテル(R)サーバマネージャ セットアップを実行する前に、管理対象と管理者のコンピュータにオペレーティング システムをインストールすることも必要です。インテル(R)サーバマネージャ で必要なコンポーネントの一部は、オペレーティング システムのインストール中にインストールすることも、オペレーティング システムのインストール後、セットアップを実行する前にインストールすることもできます。これらのコンポーネントは、「最小限必要なシステム要件」で説明されています。

インテル(R)サーバマネージャ セットアップについて

下の図は、インテル(R)サーバマネージャ セットアップ オプションを説明するために使用する インテル(R)サーバマネージャ のインストール例を示します。

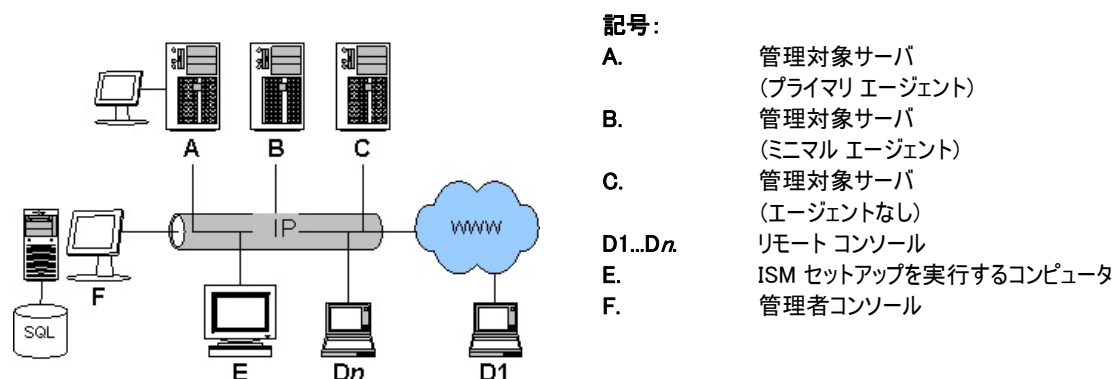


図 5. さまざまなインストール オプションを示すインテル(R) サーバ マネージャ の配備

この例では、ほとんどすべてのインストール オプションを示しているため、通常よりやや複雑な構成になっています。上図の各コンポーネントの簡単な説明を以下に記載します。

管理対象サーバこの例では、コンピュータ (A)、(B)、(C) が管理対象サーバです。インテル(R)サーバマネージャ をインストールすると、センサ データの表示、アラートしきい値の設定、電源管理、その他の作業を実行できるようになります。コンピュータ (A) には インテル(R)サーバマネージャ サーバ コンソールがインストールされています。サーバ コンソールについては、『*インテル(R)サーバマネージャ 8.40 Server Guide for Windows*』または『*インテル(R)サーバマネージャ 8.40 Server Guide for Linux*』を参照してください。コンピュータ (B) にはローカル コンソールはインストールされていませんが、オペレーティング システム エージェントがインストールされているので、リモート インテル(R)サーバマネージャ 管理者コンソールからサーバの監視と制御が可能です。コンピュータ (C) は何もインストールされていない管理対象コンピュータですが、ベースボード マネージメント コントローラ (BMC) が管理者コンソールを使用してアウトオブバンド (オペレーティング システムから独立した) 制御と監視を行うようにインテル(R)サーバマネージャ セットアップで設定されています。

リモート Web コンソールリモート コンソール (D1...Dn) は、管理者コンソール (F) またはサーバ コンソール (A) に接続された Web ベース クライアントです。リモート コンソールでは、サードパーティ製の SNMP 管理アプリケーションを実行して、SNMP サブエージェントがインストールされている管理対象サーバを管理することができます。アウトオブバンド管理では、リモート コンソールは管理者コンピュータ (F) から DPCCLI プロキシを使用してサーバ (A)、(B)、(C) を管理対象サーバのオペレーティング システムや電源状態から独立してリモート管理することができます。

インテル(R)サーバマネージャ セットアップを実行するコンピュータこの例のコンピュータ (E) は、セットアップ プログラムを実行し、インテル(R)サーバマネージャ をコンピュータ (A)、(B)、(C)、および (F) にリモート インストールしています。これらのインストール先コンピュータの 1 つでセットアップを実行することもできます (そのコンピュータはセットアップ中ローカル コンピュータとみなされます)。

管理者コンソール管理コンピュータ (この例では (F)) は、管理者コンソール、DPCCLI プロキシを実行し、各管理対象サーバ用の設定パラメータの SQL データベースを持っています。管理対象サーバは、インバンド管理では 1 台の管理者コンソールでしか管理できませんが、ネットワークに複数の管理者コンソールを持つことができます。管理者コンソールの詳細は、『*Intel® Server Manager 8.40 Administrator Guide for Windows*』と『*Intel® Server Manager 8.40 Administrator Guide for Linux*』を参照してください。

インテル(R)サーバマネージャ セットアップでインストールされるもの

Java 2 run-time (v1.4.2).セットアップでは、Sun* Java* Run-time Environment v1.4.2 J2 RTE がローカル コンピュータ、および管理者コンソールまたはサーバ コンソールを実行するように選択したりリモート コンピュータにインストールされます (このバージョンまたはそれ以降がコンピュータに既にインストールされていない場合)。

ISM サーバ (プライマリ エージェント)セットアップは、インテル サーバ マネージャ サーバ コンソール、OFU、SNMP サブエージェント、プライマリ エージェント (OS ブリッジ エージェント、ブートストラップ エージェント、コモン ベース エージェント、マネジメント エージェント、ウォッチドッグ) をインストールし、選択した管理対象サーバで BMC を設定します。

ISM サーバ (ミニマル エージェント)セットアップは、BMC を設定し、選択した管理対象サーバに OS ブリッジ エージェントのみをインストールします。OS ブリッジ エージェントは、管理者がオペレーティング システムを正常にシャットダウンできるようにします。

ISM サーバ (エージェントなし)セットアップは、選択した管理対象サーバにアウトオブバンド (OOB) 管理用の BMC を設定します。管理対象サーバには、どのエージェントもインテル サーバ マネージャ コンポーネントもインストールされません。管理対象サーバには、ベースボード マネジメント コントローラ (BMC) が必要です。

ISM 管理者コンソールセットアップは、インテル サーバ マネージャ管理者コンソール、ARSC ビューア ユーティリティ、および DPCCLI プロキシを管理コンピュータにインストールします。

SNMP サブエージェントセットアップは、ベースボード SNMP サブエージェントとオンボード ネットワーク アダプタ用の SNMP サブエージェント、SCSI RAID、または SATA RAID コントローラを管理対象サーバ システムにインストールします。

OFU (One-Boot Flash Update)セットアップは、フラッシュ アップデート ユーティリティを管理対象サーバ システムにインストールします。

CLI (コマンド ライン インタフェース)セットアップは、選択したコンピュータに CLI プロキシをインストールします。管理対象サーバをリモート CLI プロキシ サーバから CLI で制御する場合、インテル サーバ マネージャ コンポーネントを管理対象サーバにインストールする必要はありません。

ARSC (アドバンスド リモート サーバ コントロール)セットアップは、選択したコンピュータに ARSC ビューア ユーティリティをインストールします。

最小限必要なシステム要件

以下のセクションでは、インテル サーバ マネージャの各種のインストール方法に最低限必要なシステム要件を説明します。特定の要件については、次の各セクションを参照してください。

- リモート Web コンソールを実行する
- インテル サーバ マネージャ セットアップを実行する
- 管理者コンソール (Microsoft Windows) をインストールする
- サーバ (プライマリ エージェント) (Microsoft Windows) をインストールする
- サーバ (ミニマル エージェント) (Microsoft Windows) をインストールする
- ISM サーバ (エージェントなし) (すべてのオペレーティング システム) をインストールする
- ISM 管理者コンソール (Linux) をインストールする
- ISM サーバ (プライマリ エージェント) (Linux) をインストールする
- ISM サーバ (ミニマル エージェント) (Linux) をインストールする
- ネットワーク要件 (すべてのオペレーティング システム)

リモート Web コンソールを実行する

このセクションでは、Web ブラウザを使用して管理コンピュータにアクセスするのみのコンピュータに最低限必要なシステム要件を説明します。リモート Web コンソールにインテル サーバ マネージャをインストールする必要はありません。

表 5. リモート Web コンソールに最低限必要なシステム要件

要件	リモート Web コンソール (D)
オペレーティング システム	必要な Web ブラウザをサポートする OS
ハードドライブの空き容量	OS に最低限必要なハードドライブ容量
メモリ	OS に最低限必要なメモリ容量
TCP/IP ネットワーク スタック	必要
DNS またはその他の名前解決	必要
インターフェース接続	オプション
ブラウザ	Windows では Internet Explorer 6 (SP1)、Linux では Mozilla 1.4 以降 (1.7 推奨)
SNMP と SNMP トラップ サービス	不要

インテル® サーバ マネージャ セットアップを実行する

このセクションでは、インテル サーバ マネージャ セットアップを実行し、他のコンピュータのリモート インストールを実行するコンピュータに最低限必要なシステム要件を説明します。ローカル マシンにインテル サーバ マネージャをインストールする場合、ローカル コンピュータはそのインストールに最低限必要な要件を満たすことが必要です。

表 6. セットアップを実行するコンピュータに最低限必要なシステム要件 (すべてのオペレーティング システム)

要件	セットアップを実行しているコンピュータ (E)
オペレーティング システム	Microsoft Windows 2000 Advanced Server, Service Pack 4 Microsoft Windows XP Professional, Service Pack 2 Microsoft Windows 2003 Server Enterprise Edition Red Hat Enterprise Linux 3 Advanced Server, Update 2 Red Hat Enterprise Linux 3 Workstation, Update 2 Red Hat Enterprise Linux 3 Enterprise Server, Update 2 Red Hat Enterprise Linux 3 (Intel® EM64T Edition), Update 4 SuSE LINUX Enterprise Server 9 (インテル® EM64T プラットフォーム用), Service Pack 1
マザーボード	32 ビット X86 アーキテクチャ
ハードドライブの空き容量	500 MB
メモリ	OS に最低限必要なメモリ容量
TCP/IP ネットワーク スタック	必要
DNS またはその他の名前解決	必要
インターフェース接続	オプション
ブラウザ	Windows では Internet Explorer 6 (SP1)、または Linux では Mozilla 1.4 以降 (1.7 推奨)
SNMP と SNMP トラップ サービス	不要
セットアップを実行しているシステムでの追加の Linux パッケージ	なし
ローカル言語	リモート インストールでは、セットアップを実行しているコンピュータ上のローカル言語はリモート コンピュータ上のものと同じでなければなりません。サポートされている言語: 英語 (米国)、簡体字中国語、ロシア語、ドイツ語、日本語その他の言語が利用可能かどうかは、リリース ノートを参照してください。
Sun* Java* Runtime Environment	JRE 1.4.2 以降 (まだインストールされていない場合にインストールする)

管理者コンソール (Microsoft Windows) をインストールす)

このセクションでは、Microsoft Windows を実行しているコンピュータ上で管理者コンソールをインストールして実行するために最低限必要なシステム要件を説明します。このオプションは、管理者コンソールと CLI プロキシをインストールします。

表 7. Microsoft Windows での管理者インストールに最低限必要なシステム要件

要件	Windows の管理者 コンピュータ
オペレーティング システム	Microsoft Windows 2000 Advanced Server, Service Pack 4 Microsoft Windows XP Professional, Service Pack 2 Microsoft Windows 2003 Server Enterprise Edition
ハードドライブの空き容量	インテル サーバ マネージャをインストールするために 350 MB
メモリ	OS に最低限必要なメモリ容量
TCP/IP ネットワーク スタック	必要
Telnet サーバ	必要 (CLI プロキシ)
DNS またはその他の名前解決	必要
インターフェース接続	必要 (Web ブラウザ プラグインのダウンロード)
SNMP サービス (マスタ エージェント)	不要
SNMP トラップ サービス	必要
Internet Explorer	6 (SP1)
マザーボード	32 ビット X86 アーキテクチャ
インテル マネージメント モジュール – プロフェッショナル エディション	該当しない
インテル マネージメント モジュール – アドバンスド エディション	該当しない
Telnet および FTP クライアントユーティリティ	不要
Macromedia Flash ブラウザ プラグイン	必要
モニタの解像度	1024 x 768 以上
SMaRT Tool v4.2 または v5.0 (使用可能な場合)	オプション

サーバ (プライマリ エージェント) (Microsoft Windows) をインストールする

このセクションでは、Microsoft Windows を実行しているコンピュータ上でサーバ (プライマリ エージェント) をインストールして実行するために最低限必要なシステム要件を説明します。このオプションは、OFU ユーティリティとサーバ コンソールをインストールします。

表 8. Microsoft Windows 上のサーバ (プライマリ エージェント) インストールに最低限必要なシステム要件

要件	Windows サーバ コンピュータ
オペレーティング システム	Microsoft Windows 2000 Advanced Server, Service Pack 4 Microsoft Windows XP Professional, Service Pack 2 [1] Microsoft Windows 2003 Server Enterprise Edition
ハードドライブの空き容量	インテル サーバ マネージャをインストールするために 350 MB

要件	Windows サーバ コンピュータ
メモリ	256 MB
TCP/IP ネットワーク スタック	必要
DNS またはその他の名前解決	必要
インターフェース接続	必要 (Web ブラウザ プラグインからのダウンロード)
SNMP サービス (マスタ エージェント)	必要
SNMP トラップ サービス	不要
Web ブラウザ	Internet Explorer 6 (SP1)
マザーボード	「サポートされているサーバ プラットフォーム」を参照
インテル マネージメント モジュール - プロフェッショナル エディション	インバンド管理と SOL にはプロフェッショナルまたはアドバンスド モジュールが必要
インテル マネージメント モジュール - アドバンスド エディション	ARSC にはアドバンスド モジュールが必要 インバンド管理と SOL にはプロフェッショナルまたはアドバンスド モジュールが必要
Macromedia Flash ブラウザ プラグイン	必要
モニタの解像度	1024 x 768 以上
SMaRT ツール v4.2	オプション

注:

インテル サーバ ボード SE7525GP2 とインテル®Pentium® 4 プロセッサ ベースのサーバボード

ISM サーバ (ミニマル エージェント) (Microsoft Windows) をインストールする

このセクションでは、Microsoft Windows を実行しているコンピュータ上でサーバ (ミニマル エージェント) をインストールして実行するために最低限必要なシステム要件を説明します。このオプションは、OFU ユーティリティとサーバ コンソールをインストールしません。

表 9. Microsoft Windows 上のサーバ (ミニマルエージェント) のインストールに最低限必要なシステム要件

要件	Windows サーバ コンピュータ
オペレーティング システム	Microsoft Windows 2000 Advanced Server, Service Pack 4 Microsoft Windows XP Professional, Service Pack 2 [1] Microsoft Windows 2003 Server Enterprise Edition
ハードドライブの空き容量	インテル サーバ マネージャをインストールするために 350 MB
メモリ	256 MB
TCP/IP ネットワーク スタック	必要
DNS またはその他の名前解決	必要
インターフェース接続	不要
SNMP サービス (マスタ エージェント)	不要

要件	Windows サーバ コンピュータ
SNMP トラップ サービス	不要
Web ブラウザ	Internet Explorer 6 (SP1)
マザーボード	「サポートされているサーバ プラットフォーム」を参照
インテル マネージメント モジュール – プロフェッショナル エディション	インバンド管理と SOL にはプロフェッショナルまたはアドバンスド モジュールが必要
インテル マネージメント モジュール – アドバンスド エディション	ARSC にはアドバンスド モジュールが必要 インバンド管理と SOL にはプロフェッショナルまたはアドバンスド モジュールが必要
Macromedia Flash ブラウザ プラグイン	不要
モニタの解像度	モニタ不要
SMaRT ツール v4.2	該当しない

注:

インテル サーバ ボード SE7525GP2 とインテル®Pentium® 4 プロセッサ ベースのサーバボード

ISM サーバ (エージェントなし) (任意のオペレーティング システム) をインストールする

このセクションでは、Microsoft Windows を実行しているコンピュータ上でサーバ (エージェントなし) をインストールして実行するために最低限必要なシステム要件を説明します。このオプションでは、BMC のみ設定されます。

表 10. 任意のオペレーティング システム上のサーバ (エージェントなし) のインストールに最低限必要なシステム要件

要件	サーバ コンピュータ (エージェントなし)
オペレーティング システム	OS 不要
ハードドライブの空き容量	該当しない
メモリ	該当しない
TCP/IP ネットワーク スタック	不要
DNS またはその他の名前解決	必要
インターフェース接続	不要
SNMP サービス (マスタ エージェント)	不要
SNMP トラップ サービス	不要
Web ブラウザ	不要
マザーボード	インテル サーバ ボードと BMC 「サポートされているサーバ プラットフォーム」を参照
インテル マネージメント モジュール – プロフェッショナル エディション	SOL にはアドバンスド モジュールが必要
インテル マネージメント モジュール	ARSC にはアドバンスド モジュールが必要

要件	サーバコンピュータ (エージェントなし)
- アドバンスド エディション	SOL にはアドバンスド モジュールが必要
Macromedia Flash ブラウザ プラグイン	不要
モニタの解像度	モニタ不要
SMaRT ツール v4.2	該当しない

管理者コンソール (Linux) をインストールする

このセクションでは、Linux を実行しているコンピュータ上で管理者コンソールをインストールして実行するために最低限必要なシステム要件を説明します。このオプションは、管理者コンソールと CLI プロキシをインストールします。

表 11. Linux 管理者コンピュータに最低限必要なシステム要件

要件	Linux 管理者 コンピュータ
オペレーティング システム	Red Hat Enterprise Linux 3 Advanced Server, Update 4 Red Hat Enterprise Linux 3 Workstation, Update 4 Red Hat Enterprise Linux 3 Enterprise Server, Update 4 Red Hat Enterprise Linux 3 (Intel 3 EM64T Edition), Update 4 SuSE LINUX Enterprise Server 9 (インテル® EM64T プラットフォーム用), Service Pack 1
ハードドライブの空き容量	インテル サーバ マネージャをインストールするために 350 MB
メモリ	512 MB
TCP/IP ネットワーク スタック	必要
DNS またはその他の名前解決	必要
インターフェース接続	必要 (Web ブラウザ プラグインのダウンロード)
snmpd サービス (マスタ エージェント)	不要
snmptrapd サービス	必要
追加パッケージ	必要なパッケージ: <ul style="list-style-type: none"> • 開発ツール • カーネル開発ツール • レガシ ソフトウェア開発 • グラフィカル インターネット • システム ツール パッケージと sysstat および net-snmp-utils 拡張パッケージ • w3c-libwww-5.4.0-5.i386.rpm • kernel-hugemem-unsupported-2.4.21-15.EL.i686.rpm (高容量メモリ構成)

要件	Linux 管理者 コンピュータ
	<ul style="list-style-type: none"> MySQL (パッケージ グループ) mysql-3.23.58-2.3.i386.rpm perl-CGI-2.81-88.7.i386.rpm レガシ サーバ パッケージと Telnet 拡張パッケージ (CLI プロキシの実行に必要) <p>インテル サーバ マネージャのリモート インストールの場合:</p> <ul style="list-style-type: none"> FTP サーバ <p>注:インテル EM64T プラットフォーム サポートに最低限必要な Linux システム要件は、付録 C を参照してください。</p>
マザーボード	32 ビット X86 アーキテクチャまたはインテル® EM64T アーキテクチャ
インテル マネージメント モジュール - プロフェッショナル エディション	該当しない
インテル マネージメント モジュール - アドバンスド エディション	該当しない
Macromedia Flash ブラウザ プラグイン	必要
モニタの解像度	1024 x 768 以上
SMaRT ツール	不対応

ISM サーバ (プライマリ エージェント) (Linux) をインストールする

このセクションでは、Linux を実行しているコンピュータ上でサーバ (プライマリ エージェント) をインストールして実行するために最低限必要なシステム要件を説明します。このオプションは、OFU ユーティリティとサーバ コンソールをインストールします。

表 12. Linux サーバ (プライマリ エージェント)コンピュータに最低限必要なシステム要件

要件	Linux サーバ (プライマリ エージェント) コンピュータ
オペレーティング システム	Red Hat Enterprise Linux 3 Advanced Server, Update 4 Red Hat Enterprise Linux 3 Workstation, Update 4 Red Hat Enterprise Linux 3 Enterprise Server, Update 4 Red Hat Enterprise Linux 3 (Intel 3 EM64T Edition), Update 4 SuSE LINUX Enterprise Server 9 (インテル® EM64T プラットフォーム用), Service Pack 1
ハードドライブの空き容量	インテル サーバ マネージャをインストールするために 350 MB
メモリ	512 MB
TCP/IP ネットワーク スタック	必要
DNS またはその他の名前解決	必要
インターフェース接続	必要 (Web ブラウザ プラグインのダウンロード)

要件	Linux サーバ (プライマリ エージェント) コンピュータ
snmpd サービス (マスタ エージェント)	必要
snmptrapd サービス	不要
追加パッケージ	<p>必要なパッケージ:</p> <ul style="list-style-type: none"> 開発ツール カーネル開発ツール レガシ ソフトウェア開発 グラフィカル インターネット システム ツール パッケージと sysstat および net-snmp-utils 拡張パッケージ w3c-libwww-5.4.0-5.i386.rpm perl-CGI-2.81-88.7.i386.rpm kernel-hugemem-unsupported-2.4.21-15.EL.i686.rpm (高容量メモリ構成) <p>インテル サーバ マネージャのリモート インストールの場合:</p> <ul style="list-style-type: none"> レガシ サーバ パッケージと Telnet 拡張パッケージ FTP サーバ <p>注:インテル EM64T プラットフォーム サポートに最低限必要な Linux システム要件は、付録 C を参照してください。</p>
マザーボード	「サポートされているサーバ プラットフォーム」を参照
インテル マネージメント モジュール – プロフェッショナル エディション	インバンド管理と SOL にはプロフェッショナルまたはアドバンスド モジュールが必要
インテル マネージメント モジュール – アドバンスド エディション	インバンド管理と SOL にはプロフェッショナルまたはアドバンスド モジュールが必要
Macromedia Flash ブラウザ プラグイン	必要
モニタの解像度	1024 x 768 以上

ISM サーバ (ミニマル エージェント) (Linux) をインストールする

このセクションでは、Linux を実行しているコンピュータ上でサーバ (ミニマル エージェント) をインストールして実行するために最低限必要なシステム要件を説明します。このオプションは、OFU ユーティリティとサーバ コンソールをインストールしません。

表 13. Linux コンピュータ上のサーバ (ミニマル エージェント) のインストールに最低限必要なシステム要件

要件	Linux サーバ (ミニマル エージェント) コンピュータ
オペレーティング システム	Red Hat Enterprise Linux 3 Advanced Server, Update 4 Red Hat Enterprise Linux 3 Workstation, Update 4 Red Hat Enterprise Linux 3 Enterprise Server, Update 4 Red Hat Enterprise Linux 3 (Intel 3 EM64T Edition), Update 4
ハードドライブの空き容量	インテル サーバ マネージャをインストールするために 350 MB

要件	Linux サーバ (ミニマル エージェント) コンピュータ
メモリ	512 MB
TCP/IP ネットワーク スタック	必要
DNS またはその他の名前解決	必要
インターフェース接続	不要
snmpd サービス (マスタ エージェント)	必要
snmptrapd サービス	不要
追加パッケージ	<p>必要なパッケージ:</p> <ul style="list-style-type: none"> 開発ツール カーネル開発ツール レガシ ソフトウェア開発 sysstat および net-snmp-utils 拡張パッケージ同梱のシステム ツール パッケージ w3c-libwww-5.4.0-5.i386.rpm kernel-hugemem-unsupported-2.4.21-15.EL.i686.rpm (高容量メモリ構成) <p>インテル サーバ マネージャのリモート インストールの場合:</p> <ul style="list-style-type: none"> レガシ サーバ パッケージと Telnet 拡張パッケージ FTP サーバ <p>注:インテル EM64T プラットフォーム サポートに最低限必要な Linux セッション要件は、付録 C を参照してください。</p>
マザーボード	「サポートされているサーバ プラットフォーム」を参照
インテル マネージメント モジュール – プロフェッショナル エディション	インバンド管理と SOL にはプロフェッショナルまたはアドバンスド モジュールが必要
インテル マネージメント モジュール – アドバンスド エディション	インバンド管理と SOL にはプロフェッショナルまたはアドバンスド モジュールが必要
Macromedia Flash ブラウザ プラグイン	不要
モニタの解像度	不要

ネットワーク要件 (すべてのオペレーティング システム)

インテル(R)サーバマネージャ をインストールする前に、以下のネットワーク設定が インテル(R)サーバマネージャ 8.40 に最小限必要な下記の要件を満たしていることを確認します。

- ネットワークの名前解決
- DHCP 設定
- ファイアウォールとルータの設定
- インターネット プロキシ設定

ネットワークの名前解決

インテル(R)サーバマネージャ はホスト名を使用してコンピュータを管理します。インテル(R)サーバマネージャ コンソールを使用するコンピュータは、IP アドレスのみで管理することはできません (CLI や SNMP は IP アドレスのみで使用できます)。ネットワークの名前解決には次の 4 つの方法があります。

Domain Name Service server (DNS、ドメイン名サービス サーバ)アクティブ ディレクトリを使用する場合や、インターネット上に登録ドメイン名がある場合に使用します。DNS 解決の適切な設定方法には、DNS の逆引きも含める必要があります—インテル(R)サーバマネージャ ではこれが必要です。インテル(R)サーバマネージャ セットアップでは、リモート インストールするすべてのコンピュータが同じドメインにあることが必要です。

WINS これは、Windows 2000 より前の Windows バージョンでの NetBIOS 名から IP への解決方法です。WINS サーバとバックアップ サーバを設定する必要があるため、この方法は推奨されません。この方法は、Linux コンピュータでは使用されません。

Hosts と Lmhosts ファイル手動で設定したファイルのローカル ルックアップを使用します。Windows では lmhosts.sam というサンプル ファイルが含まれます。Lmhosts は、ローカル サブネット上にないコンピュータのコンピュータ名の解決に使用されます。hosts ファイルは、コンピュータ名またはドメイン名の IP アドレスへの解決に使用します。ホスト名とコンピュータ名は通常同じです。

NetBIOS ブロードキャスト名の解決これは、ローカル サブネット上の Windows コンピュータの NetBIOS 名から IP への解決に使用します。この方法は、Linux コンピュータでは使用されません。

インテル(R)サーバマネージャ が正しく機能するためには、ネットワーク上のすべてのコンピュータで IP アドレスとネットワークの名前解決が同じ方法で行われる必要があります。これは、通常、DNS サーバによって行われますが、WINS サーバ、Lmhosts または Hosts ファイルで設定することもできます。使用方法にかかわらず、名前解決はすべてのコンピュータで同じ方法で行われなければなりません。異なる方法を混合して使用すると、分離しにくいというエラー メッセージが インテル(R)サーバマネージャ から送信されます。

適切なネットワークの名前解決方法の選択

ネットワークの名前解決方法を選択する際、いくつかの要素を考慮する必要があります。以下に、その主要素を 4 つ挙げます。

- インテル(R)サーバマネージャ 管理者コンピュータと通信するコンピュータの中に Linux を実行しているものがあるか Linux では、名前解決に DNS またはローカル Hosts ファイルしか使用できません。
- すべてのコンピュータが同じサブネット上にあるか NetBIOS 名前解決サービスは、同じサブネット上でしか使用できません。
- Windows Active Directory を使用するか Windows Active Directory を使用するには、DNS サーバが必要です。
- DNS サーバが既にあるか

最もよく使用される方法を以下に示します。

方法 1 :すべてのコンピュータが Microsoft Windows を実行しており、同じサブネット上にある場合、内蔵の NetBIOS 名前解決ブロードキャスト方法を使用できます。追加の設定は必要ありません。この方法は、Linux を実行しているコンピュータまたは別のサブネットにあるコンピュータと通信する必要がある場合は使用できません。

方法 2 :ホスト名を Lmhosts または Hosts ファイルに追加する方法は常に使用できますが、管理者がリストを最新状態に保つ必要があります。管理対象コンピュータを管理者コンピュータの Lmhosts ファイル (Windows の場合) または Hosts ファイル (Linux の場合) に追加します。管理者コンピュータを各管理対象コンピュータの Lmhosts ファイル (Windows の場合) または Hosts ファイル (Linux の場合) に追加します。

方法 3 :管理者コンピュータと各管理対象コンピュータを DNS サーバに追加します。

詳細は、Lmhosts に関する Microsoft のヘルプ、DNS サーバのマニュアル、または Hosts あるいは Bind に関する Linux のマニュアル ページを参照してください。

名前解決に関する問題を解決するためのツール

ネットワークの名前解決に関する問題を検出するためには、通常、以下のツールが使用されます。

- nbtstat
- ipconfig (Windows) または ifconfig (Linux)
- ping
- host

DHCP 設定

管理者コンソールと管理対象コンピュータ間で信頼性の高い通信を行うには、管理者コンソールがインストールされているコンピュータに固定 IP アドレスを割り当てることを推奨します。これは、管理者コンソールの IP アドレスが頻繁に変化するような DHCP 環境で特に重要です。ネットワーク接続に DHCP サーバが使用されている場合、管理者コンソールに常に同じ IP アドレスを割り当てるように DHCP サーバを設定してください。管理者コンソールに常に同じ IP アドレスを割り当てるように DHCP サーバを設定できない場合は、固定 IP アドレスを使用してください。

ファイアウォールとルータの設定

ネットワークのどこからでも SNMP に無制限にアクセスできることが必要です。たとえば、管理対象コンピュータがルータの背後にある場合、そのルータに SNMP フィルタを使用することはできません。

インテル(R)サーバマネージャが正常に機能するためには、ポート 623、6780、9593、9594、9595 が空いていることが必要です。

インターネット プロキシ サーバ

ネットワークでインターネットの接続にプロキシ サーバが使用されている場合、インテル(R)サーバマネージャはネットワークのプロキシ サーバを経由せずに、ローカル (イントラネット) で通信できるようにする必要があります。

一般的なセットアップ手順

次の例で説明するように、インテル(R)サーバマネージャ セットアップを起動した後、インテル(R)サーバマネージャ セットアップの画面とオプションが次の順に表示されます。

1. まず、[ライセンス契約] 画面が表示されます。ライセンス契約を読み、[同意する] を選択して、先に進みます。
2. [ローカルシステムの詳細] 画面が開きます。ローカル システムが最小限必要なシステム要件を満たしているかどうかを表示します。SNMP サービスは、管理者コンピュータのインストールにのみ必要です。要件の完全なリストは、7 ページの[最小限必要なシステム要件]。
3. 次に [インストール方法] 画面が開きます。[インストール方法] 画面で、次のオプションのいずれかを選択します。
 - ローカルインストール
 - 複数のシステムのインストール
 - カスタム インストール
4. 次に行う手順は、手順 3 で選択した インストール方法によって異なります。
 - [複数システムのインストール] を選択した場合、[複数システムの選択] 画面が開きます。
 - [ローカル インストール] を選択した場合、[ローカル システムの選択] 画面が開きます。
 - [カスタム インストール] を選択した場合、次の手順でインストールしたい機能を選択した後、システムを選択するように指示されます。
5. この手順では、インストールしたいものを選択します。

[複数システムのインストール] または [ローカル インストール] を選択した場合、[インストール タイプ] 画面が開きます。次の 4 つのいずれかを選択します。

- サーバのインストール(プライマリエージェント)
- サーバのインストール(ミニマルエージェントのみ)
- サーバのインストール(エージェントなし)
- 管理者コンソールのインストール

[カスタム インストール] を選択した場合、[ISM 機能セット] 画面が開きます。この画面には、次の 6 つのオプションが表示されています。

- 管理者コンソール
- サーバのインストール(プライマリ エージェント)
- ARSC
- CLI
- OFU

- SNMP

インストールする インテル(R)サーバマネージャ 機能を選択した後、[複数システムの選択] 画面が開きます。([複数システムのインストール] または [ローカル インストール] を選択した場合は、既にインストール先のシステムを選択して、セットアップに必要な情報を提供しています。)

6. 選択したシステムにファイルをコピーする準備が整いました。[ファイル コピー] 画面が開きます。
7. インテル(R)サーバマネージャ が必要なファイルをインストール先のシステムにコピーした後、[インストーラの起動中] 画面が表示されます。
8. 選択したコンピュータに選択したコンポーネントをインストールした後、[システム シャットダウン] 画面が表示されます。インストールの完了と インテル(R)サーバマネージャ のアンインストールには、システムを再起動する必要があります。

インストールに関する重要事項

以下は、インストールに関する重要事項です。インテル(R)サーバマネージャ をインストールする前にお読みください。

Windows へのインストール

- Windows システムでは、インテル(R)サーバマネージャ のインストールが完了すると、そのシステムを再起動する必要があります。リモート インストールを行う前に、ターゲットの Windows システムが使用中でないことを確認してください。
- インテル(R)サーバマネージャ セットアップまたは Windows の [プログラムの追加または削除] を使用してインテル(R)サーバマネージャ をアンインストールする前に、Windows システムの再起動を含めて、インストール手順が完了している必要があります。
- 新しいバージョンの インテル(R)サーバマネージャ をインストールする前に、古いバージョンの インテル(R)サーバマネージャ をアンインストールする必要があります。
- インテル(R)サーバマネージャ アプリケーションをリモート コンピュータにインストールするには、インストール先のシステムと同じドメイン上のユーザ ID を使用して インテル(R)サーバマネージャ セットアップを実行しているローカル コンピュータにログインする必要があります。(ドメインが同じであれば、ユーザ ID が同じである必要はありません。)
- インテル(R)サーバマネージャ をリモート Windows システムにインストールする場合、Windows システムが再起動され、セットアップがリモート システムにログインします。リモート システムのモニタに Windows デスクトップが表示され、現在のユーザは管理者権限でログインできます。これは、セキュリティ リスクになりかねません。リモート インストールを行う前に、リモート システムが物理的にセキュアであることを確認してください。

Linux へのインストール

- Linux システムでは、インテル(R)サーバマネージャ のインストールが完了すると、そのシステムを再起動する必要があります。リモート インストールを行う前に、ターゲットのシステムが使用中でないことを確認してください。
- インテル(R)サーバマネージャ をアンインストールする前に、インストール手順が完了して再起動されている必要があります。
- インテル(R)サーバマネージャ アプリケーションをリモート コンピュータにインストールするには、目的のシステムと同じドメイン上のユーザ ID を持つローカル コンピュータにログインする必要があります。ドメインが同じであれば、ユーザ ID が同じである必要はありません。
- Linux システムのリモートでインストールする場合、「ftp」グループのメンバーであり、「root」(グループ #0) グループではないユーザ名を使用して Linux システムにログインする必要があります。また、目的の Linux システムの root パスワードも要求されます。
- Linux ベース システムからインストールする場合は、他の Linux システムへのリモート インストールは指定できません - Linux ベース システムから Windows ベース システムにリモート インストールすることはできません。

インテル(R)サーバマネージャ のアップグレード

インテル(R)サーバマネージャ をアップグレードする場合、アップグレードをインストールする前に古いバージョンの インテル(R)サーバマネージャ をアンインストールする必要があります。管理者コンソールをアップグレードするとき管理者データベースは保存されないため、どのコンピュータが管理されているか、またアラートやしきい値の設定に変更があればその内容を記録しておきます。

注: 管理者コンソールをアンインストールする前に、[マイ コンピュータ] にあるすべてのコンピュータを削除する必要があります。管理対象サーバでは、そのサーバ上の インテル(R)サーバマネージャ をアップグレードする前に、それを管理している管理者コンソールの管理対象サーバ リストからそのサーバを削除してください。

インテル(R)サーバマネージャ インストール手順の例

ここでは、インテル(R)サーバマネージャ インストール手順を示す例を 2 つ挙げて、インテル(R)サーバマネージャのインストール方法を説明します。

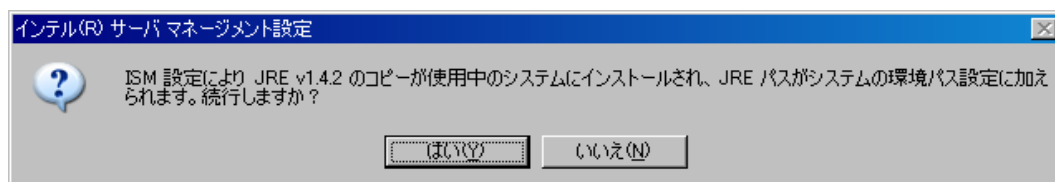
- インテル(R)サーバマネージャ 8.40 管理者コンソールを Microsoft Windows にインストールする
- インテル(R)サーバマネージャ 8.40 サーバ (プライマリ エージェント) を Red Hat Linux にインストールする

いずれの例でも、[ローカル インストール] オプションが選択されています。

管理者コンソールを Microsoft Windows にインストールする

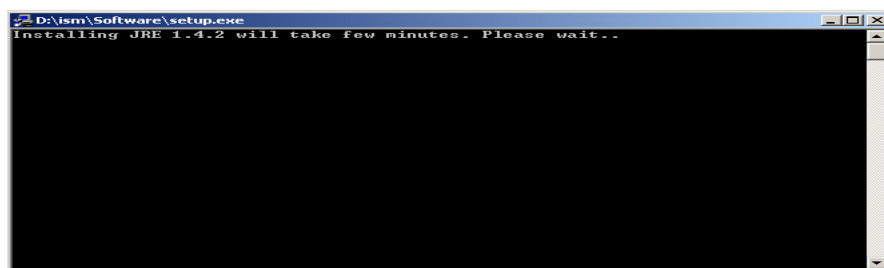
次の例では、インテル(R)サーバマネージャ セットアップを実行しているコンピュータに インテル(R)サーバマネージャ 管理者コンソールをインストールする手順を示します。Microsoft Windows に管理者コンソールをインストールするには、次の手順に従います。

1. インテル(R)サーバマネージャ のインストールと使用に関する最新情報は、『インテル(R) サーバ マネージャ 8.40 リリース ノート』(インテル(R)サーバマネージャ CD 上の Release_Notes.htm) を参照してください。
2. ローカル コンピュータに、管理者として、または管理者権限を持つユーザとしてログオンします。
3. 古いバージョンでは インテル(R)サーバマネージャ CD から インテル(R)サーバマネージャ セットアップを実行し、インテル(R)サーバマネージャ の古いバージョンをアンインストールします。
4. ローカル コンピュータ上のオペレーティング システムがサポートされている Microsoft Windows のバージョンであることを確認します (Windows XP、Windows 2000、Windows 2003)。この例では、Microsoft Windows 2003 に インテル(R)サーバマネージャ をインストールする手順を示します。
5. ローカル コンピュータが、メモリ、ディスク容量、およびオペレーティング システムの要件を満たしていることを確認します (「システム要件」を参照)。
6. ローカル コンピュータで snmp と snmptrap サービスが実行されていることを確認します。
7. インテル(R)サーバマネージャ CD を CD-ROM ドライブに挿入します。(CD を挿入すると、オートプレイします。)
8. セットアップを実行しているコンピュータに Java* runtime v1.4.2 またはそれ以降がインストールされていない場合、次のダイアログ ボックスが表示されます。



F0002

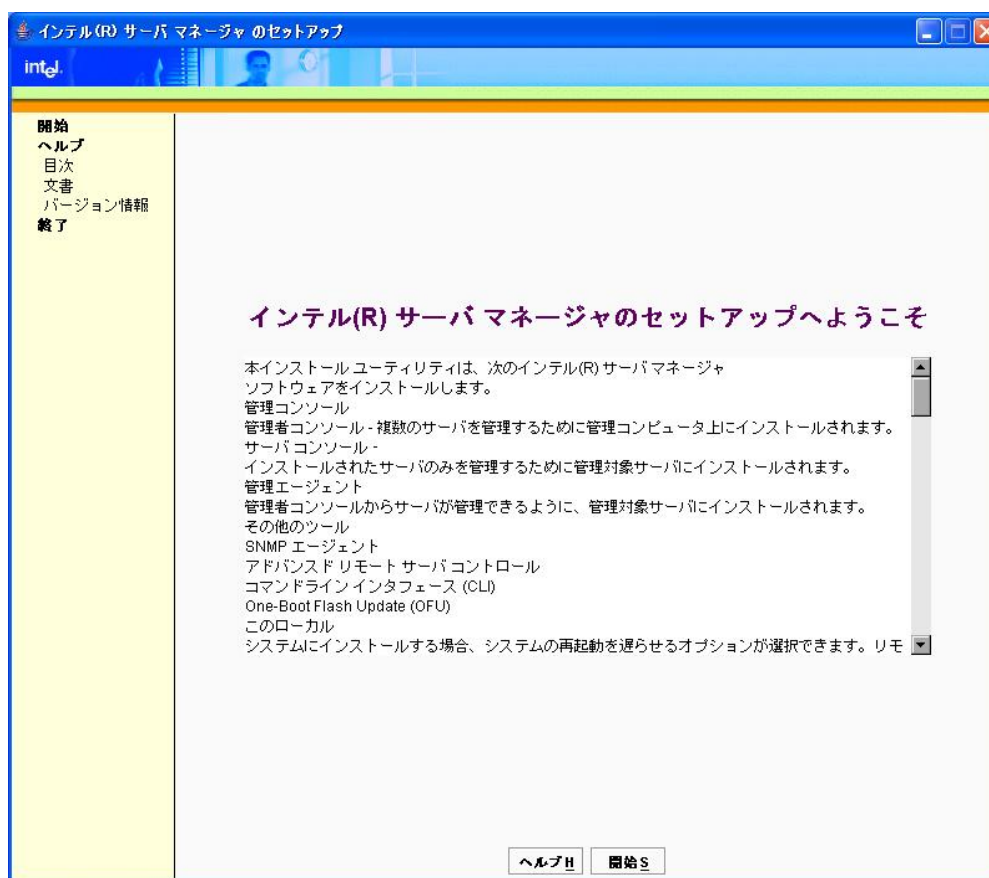
[はい] を選択して、Java ランタイム コンポーネントをインストールします。([いいえ] を選択した場合、インテル(R)サーバマネージャ をインストールできません。)[はい] を選択した後、次のコマンド ウィンドウが開きます。



F0003

JRE がインストールされると、コマンド ウィンドウは閉じます。コマンド ウィンドウが閉じた後、インテル(R)サーバ マネージメント起動アプリケーションが開きます。

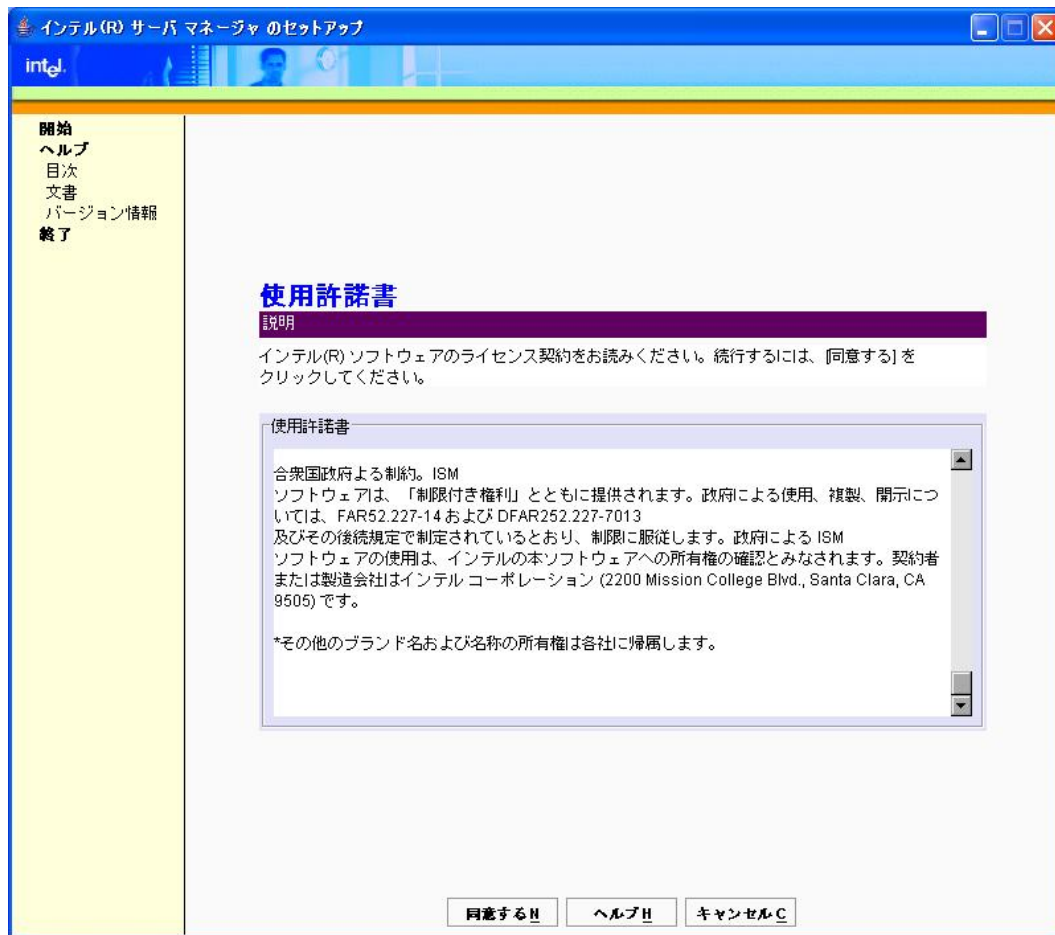
9. インテル(R)サーバマネージャ セットアップが起動して、[ようこそ] 画面が表示されます。



F0004

画面の下部にある [開始] ボタンをクリックして、次の画面に進みます。

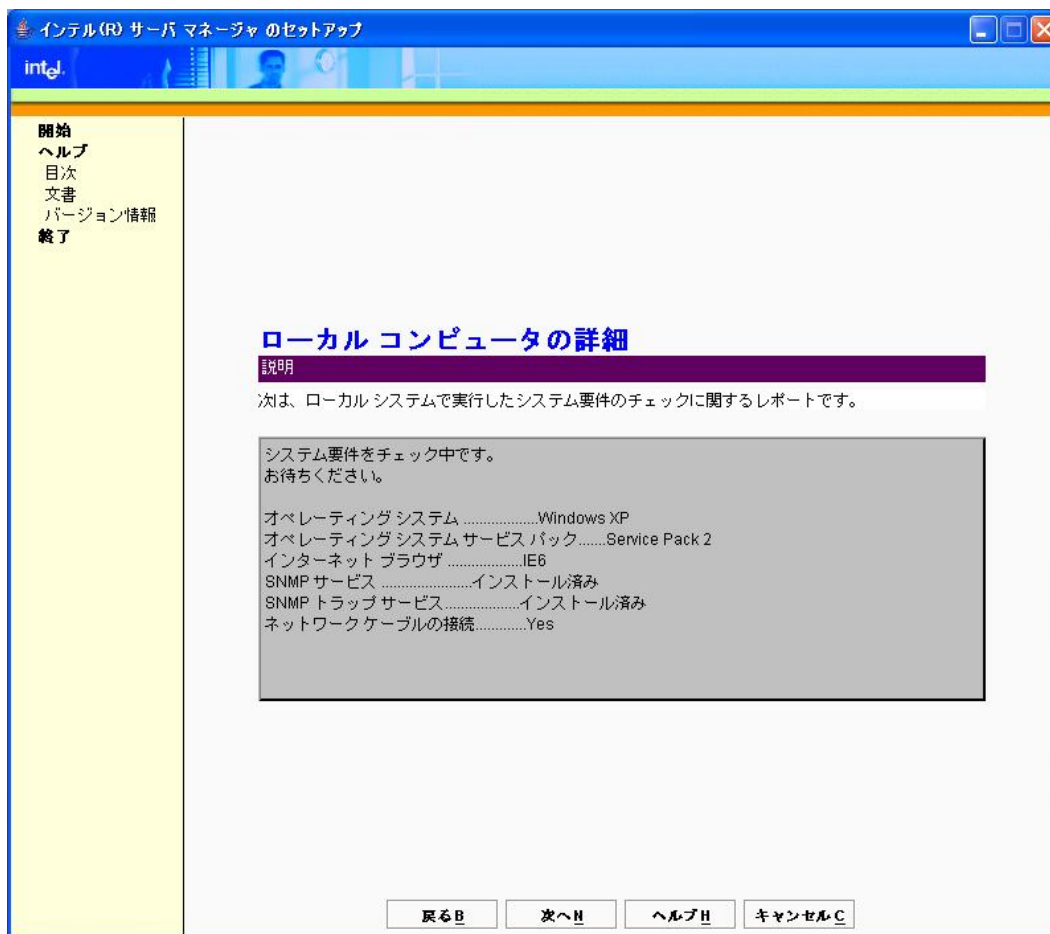
10 [ライセンス契約] 画面が表示されます。



F0005

インテル® ソフトウェア ライセンス契約を読んで、ライセンス契約の条項に同意する場合は、画面の下部にある [同意する] ボタンをクリックし、次画面に進みます。

11 [ローカル コンピュータの詳細] 画面が表示されます。



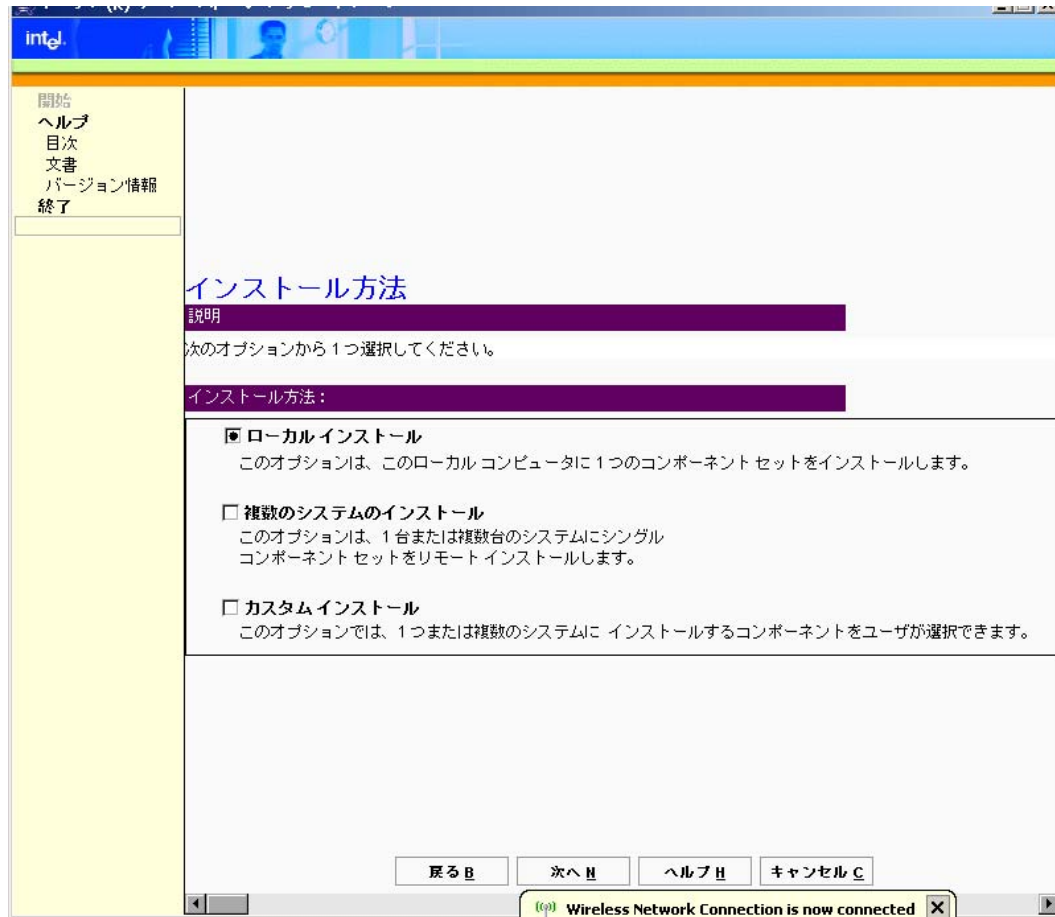
F0006

[ローカル コンピュータの詳細] 画面の [ネットワーク ケーブル] に赤く [なし] と表示されている場合、[戻る] ボタンをクリックし、問題を解決します (この場合、ケーブルを差し込むか、ネットワーク設定をチェックする)。[戻る] ボタンをクリックすると、[ライセンス契約] 画面に戻ります。続行するには、[ライセンス契約] 画面の [同意する] をクリックして、[ローカル コンピュータの詳細] 画面に戻ります。

注: SNMP サービスと SNMP トラップ サービスは、管理者コンソールのインストールでのみ必要です (後の手順で選択する)。

すべてのシステム要件が満たされている場合、[次へ] をクリックして、次の画面に進みます。

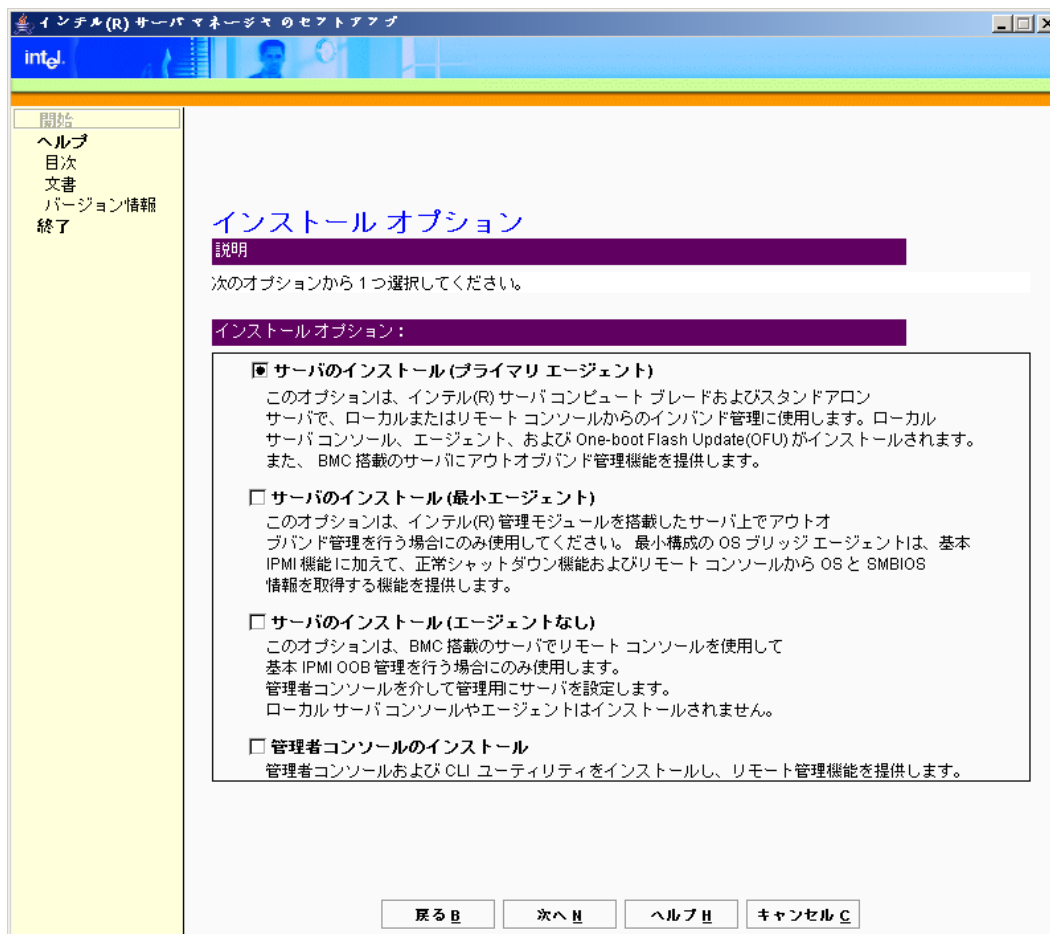
12 [インストール方法] 画面が表示されます。



F0007

この例では、[ローカル インストール] を選択して [次へ] ボタンをクリックします。

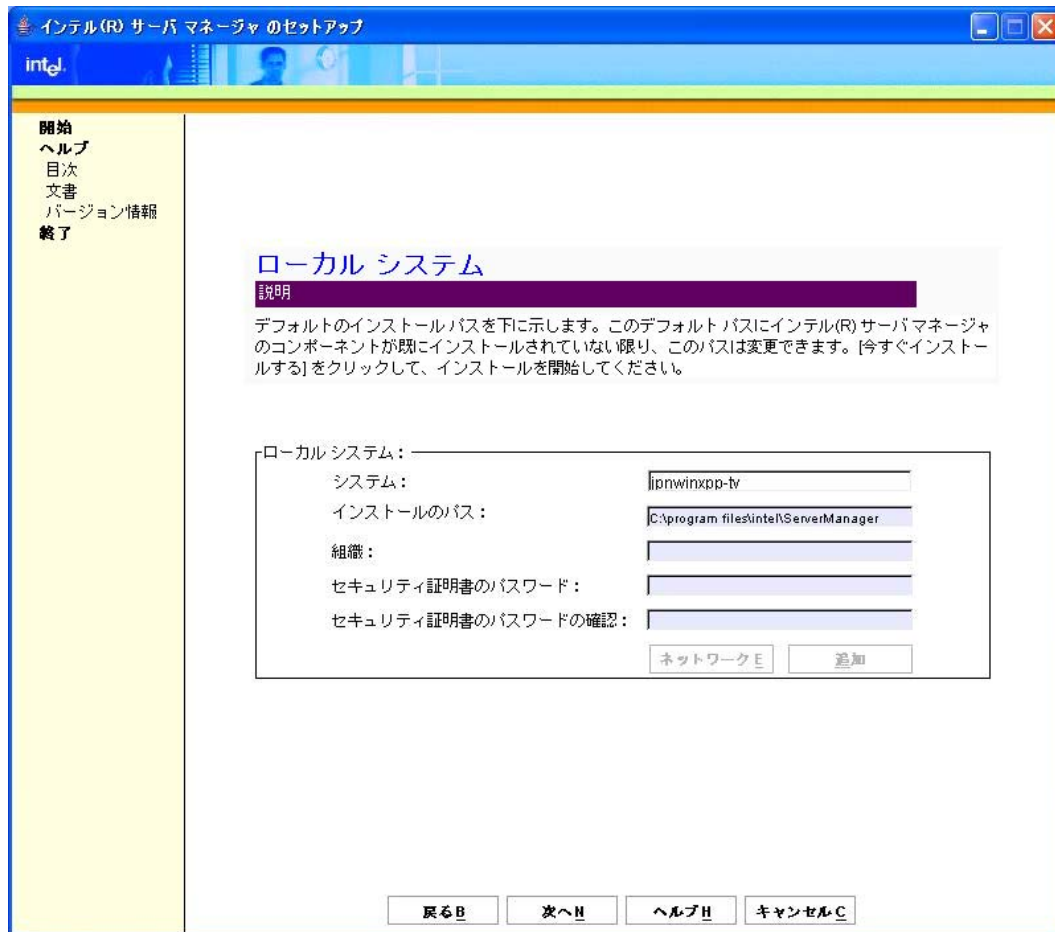
13 [インストール オプション] 画面が表示されます。



F0008

[管理者コンソールのインストール] を選択して [次へ] ボタンをクリックします。

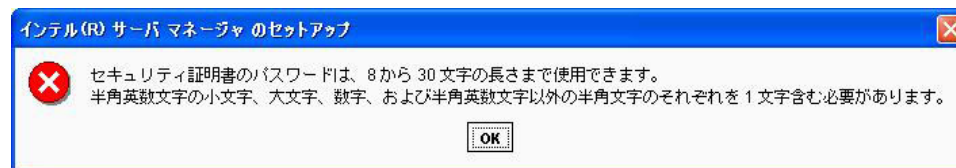
14 [ローカル システム] 画面が開きます。



F0009

インストール中、管理者コンソールで使用するセキュリティ証明書が生成されます。[組織]と[セキュリティ証明書パスワード]フィールドは、このセキュリティ証明書を生成するためのみに使用されます。組織の名前を入力します。[セキュリティ証明書パスワード]には、大文字、小文字、数字、特殊文字を少なくとも1つずつ含む8~30文字の文字列を入力します。[セキュリティ証明書パスワードの確認]ボックスにパスワードを再入力して、[次へ]ボタンをクリックします。

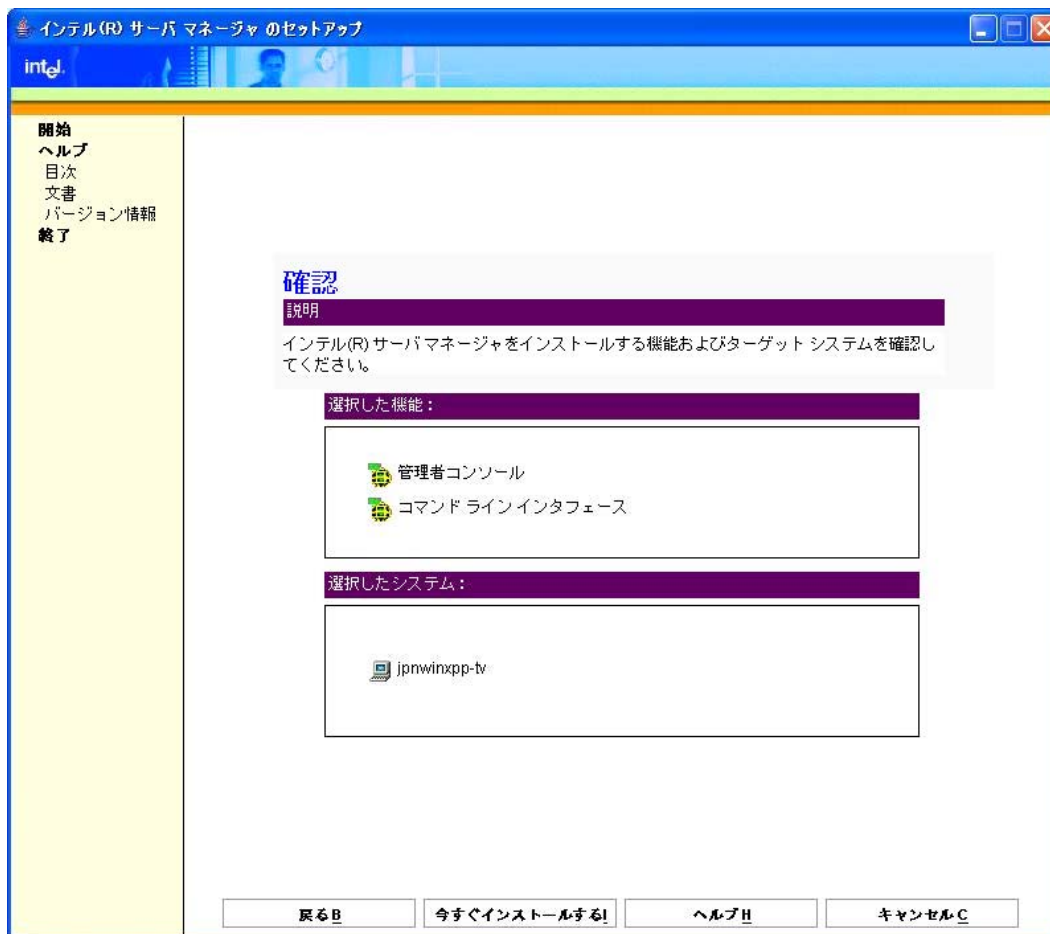
[セキュリティ証明書パスワードの確認]ボックスに必要な数の文字を入力しないと、次のエラーメッセージが表示されます。



F0010

このエラー メッセージが表示された場合、[OK] をクリックして、[セキュリティ パスワードの確認] ボックスにセキュリティ証明書パスワードをもう一度入力します。正しいパスワードを入力した後、[次へ] をクリックします。

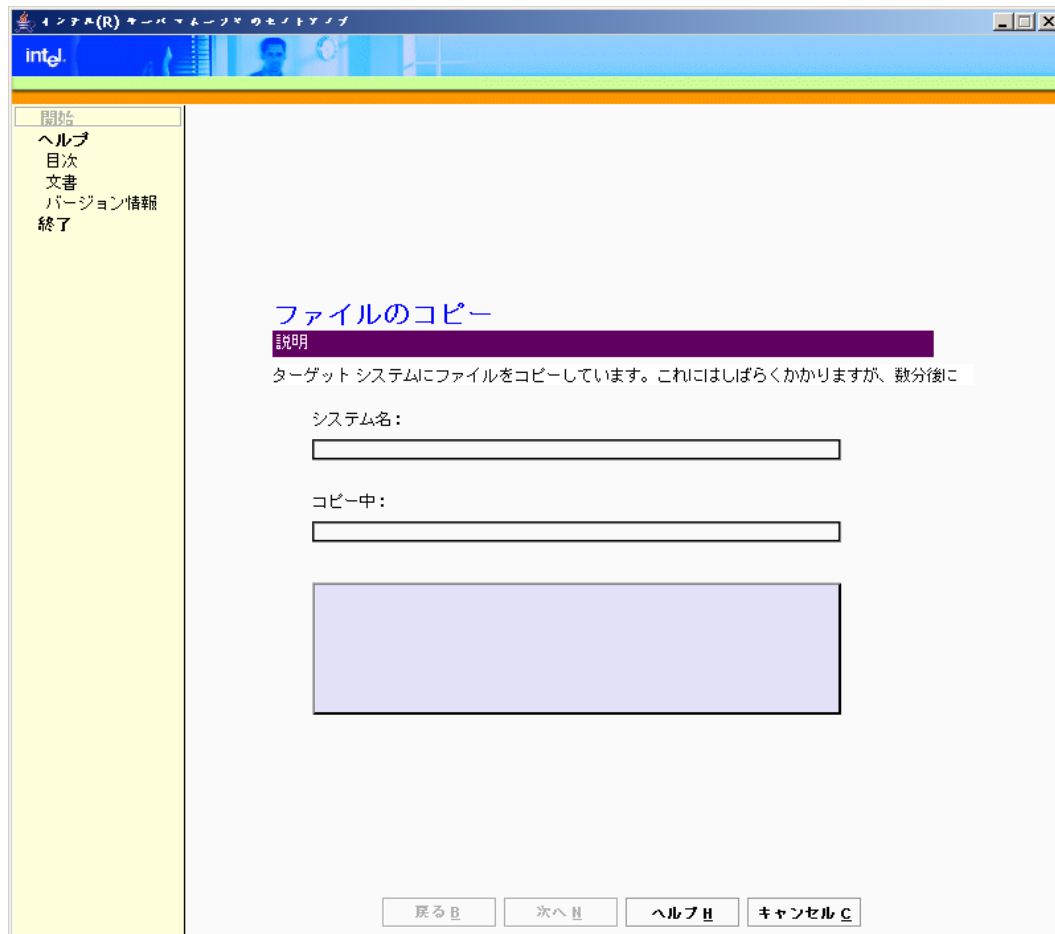
- 15 インテル(R)サーバマネージャ のインストールが開始される前に、[確認] 画面が表示されます。



F0011

この画面に表示されている情報が正しいことを確認し、[今すぐインストールする] をクリックして、インストールを開始します。

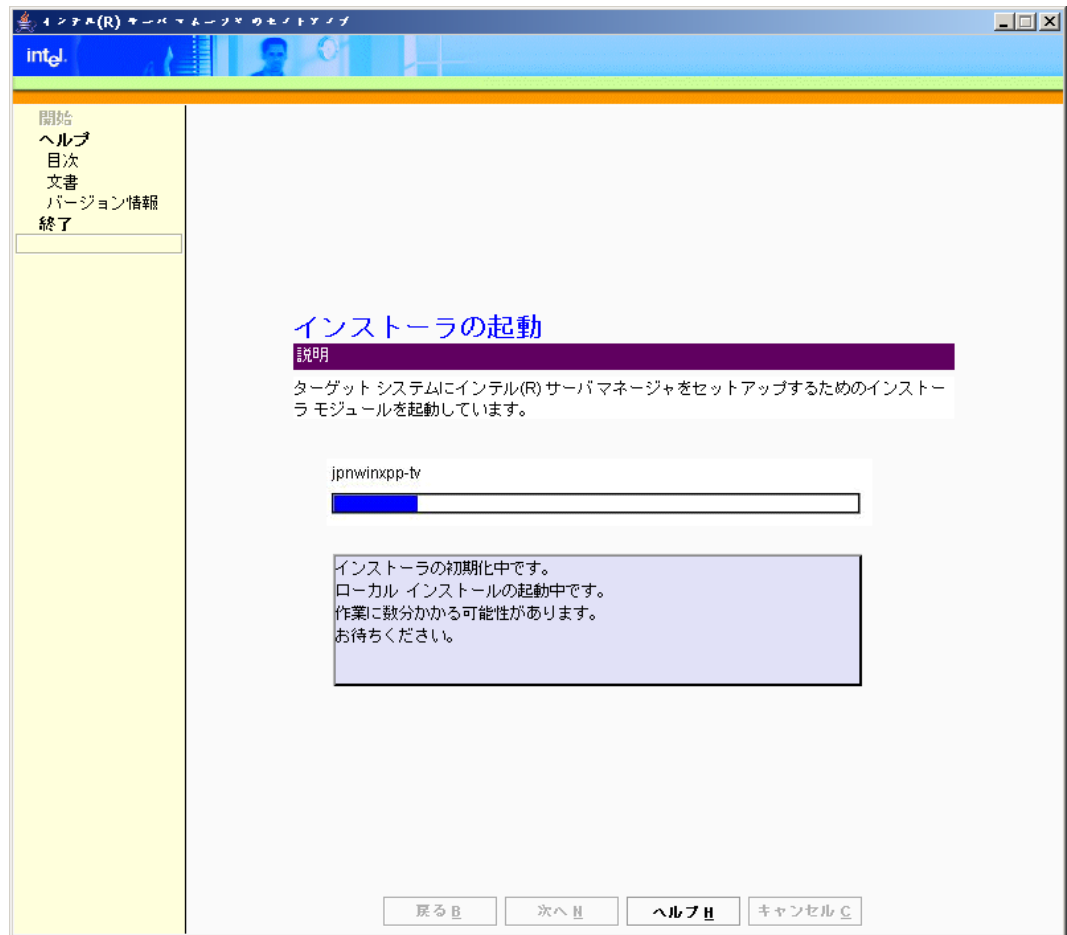
- 16 [ファイル コピー] 画面が表示され、CD からローカル ハード ドライブへファイルがコピーされます。



F0012

ファイルをコピーする準備が行われている間、数分間、表示に何も変化がないことがあります。

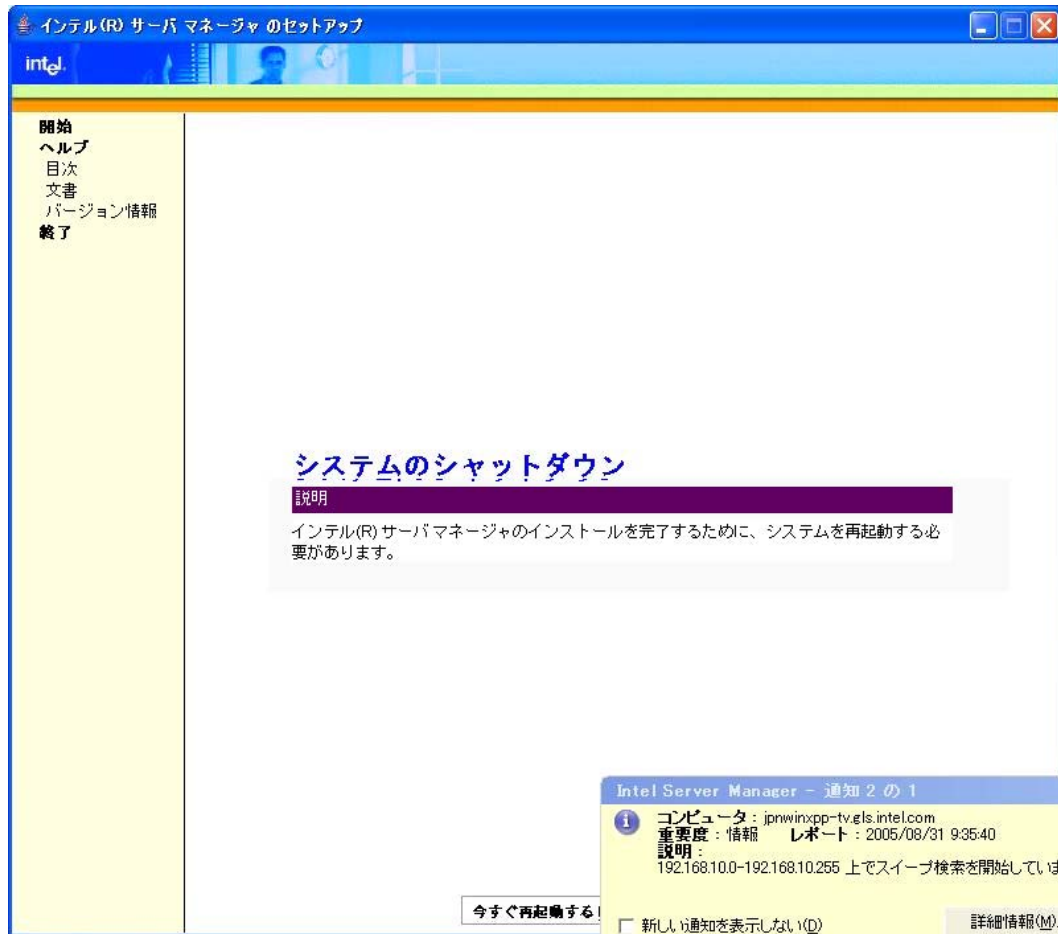
- 17 セットアップがローカル ハード ディスクにファイルのコピーを終えた後、[インストーラの起動] 画面が表示されます。



F0013

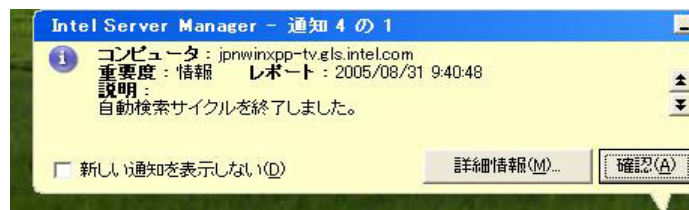
セットアップは、ローカル システムに インテル(R)サーバマネージャ をインストールします。

- 18 インストールが完了すると、[システム シャットダウン] 画面が表示されます。インストールの完了と インテル(R)サーバマネージャ のアンインストールには、システムを再起動する必要があります。



F0014

Windows を再起動する前に、インテル(R) サーバ マネージャから次のようなポップアップ通知が表示されることがあります。



F0015

[確認] をクリックして、各通知ポップアップを閉じ、[システム シャットダウン] 画面の [今すぐ再起動する] をクリックします。

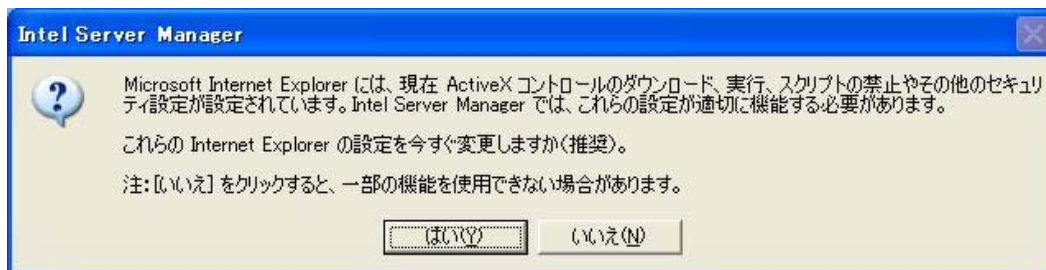
- 19 Windows を再起動した後、インテル(R)サーバマネージャ 管理者コンソールはバックグラウンドで実行されます。「自動検索サイクル」のポップアップ通知が表示されます。Windows のタスク バー トレイに インテル(R)サーバマネージャ のアイコンが表示されます。カーソルをアイコンに重ねると、この管理者コンソールで管理されているコンピュータの状態の要約が表示されます。インテル(R)サーバマネージャ によってインストールされた デスクトップ版の Microsoft SQL Server のアイコンも表示されます (管理対象コンピュータの情報を保存するために使用される)。



F0016

インテル(R)サーバマネージャ 管理者コンソールを開くには、タスク バー アイコンを右クリックして、[コンピュータの管理] を選択します。

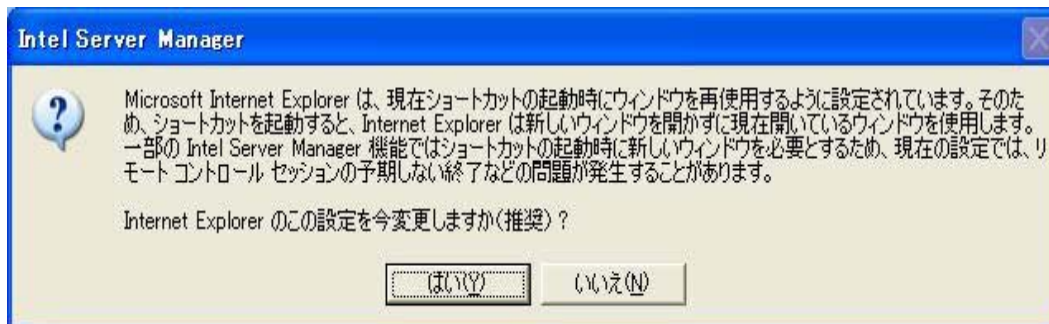
- 20 デフォルトのブラウザ設定を使用している場合、Microsoft Internet Explorer の次のダイアログ ボックスが開きます。



F0017

インテル(R)サーバマネージャ を起動するには、[はい] を選択します。

- 21 デフォルトのブラウザ設定を使用している場合は、Microsoft Internet Explorer の次のダイアログ ボックスが開きます。



F0018

インテル(R)サーバマネージャ を起動するには、[はい] を選択します。

- 22 次に、LANDesk System Manager Select Computer Window ブラウザ プラグインをインストールするように指示されます。



F0019

[インストール] を選択して、このプラグインをインストールし、インテル(R)サーバマネージャ の起動を続行します。

- 23 インテル(R)サーバマネージャ の最初の起動では、LANDesk Server Manager Tool Launcher Plug-in をインストールするように指示されます。



F0020

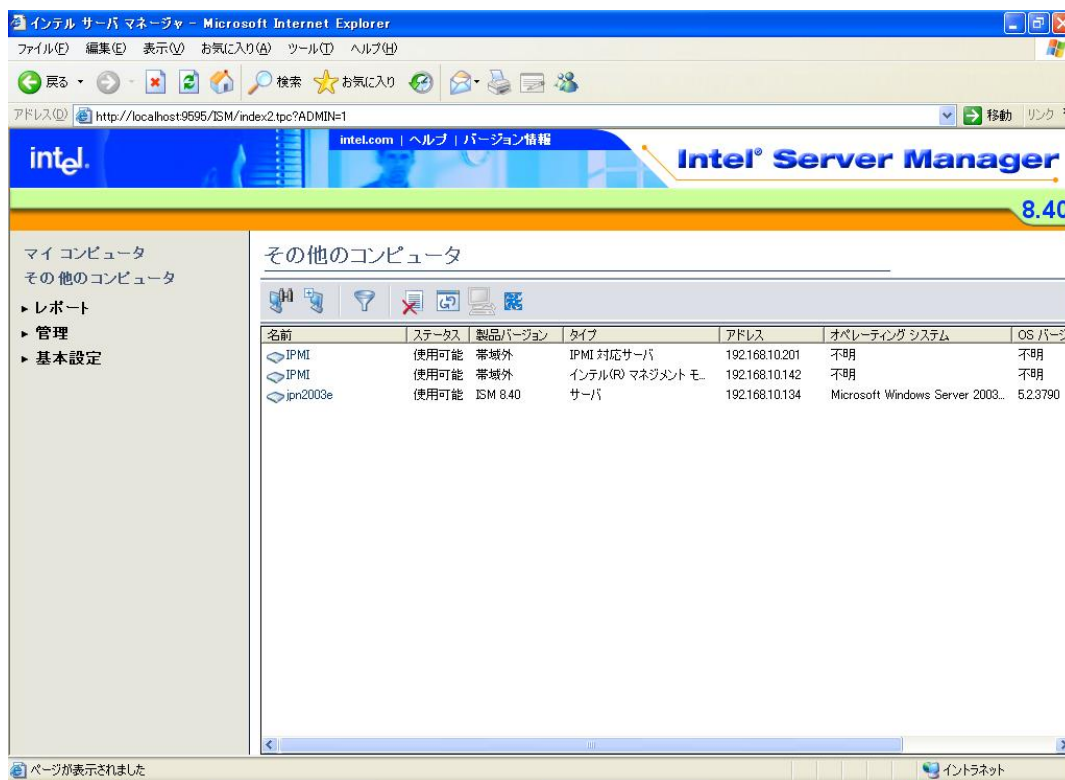
[インストール] を選択して、このプラグインをインストールし、インテル(R)サーバマネージャ の起動を続行します。

- 24 [マイ コンピュータ] リストが空の場合、[その他のコンピュータ] 画面で利用可能なコンピュータのリストを表示するように指示されます。(インテル(R)サーバマネージャ はローカル サブネットの自動スweepを行って、管理できるコンピュータを検索します。検索スweepの結果は、[その他のコンピュータ] 画面に表示されます。)



続行するには [OK] をクリックしてください。

- 25 インテル(R)サーバマネージャ 8.40 管理者コンソールがブラウザ ウィンドウで起動し、[その他のコンピュータ] 画面が表示されます。



インテル(R)サーバマネージャ 管理者コンソールと CLI プロキシ サーバの使用準備が整いました。インテル(R)サーバマネージャ の使用方法 については「第 3 章:インテル(R) サーバ マネージャを使用してサーバを管理する」ページを参照してください。

インテル(R)サーバマネージャ 8.40 サーバ (プライマリ エージェント) を Red Hat Linux にインストールする

ここでは、Red Hat Linux を実行しているコンピュータに インテル(R)サーバマネージャ をインストールする手順を説明します。この例では、インテル(R)サーバマネージャ サーバ コンソールとプライマリ エージェントをインストールして、管理者コンソールでこのコンピュータを管理できるようにします。Linux の詳細は、「付録 B: Red Hat Enterprise Linux」を参照してください。

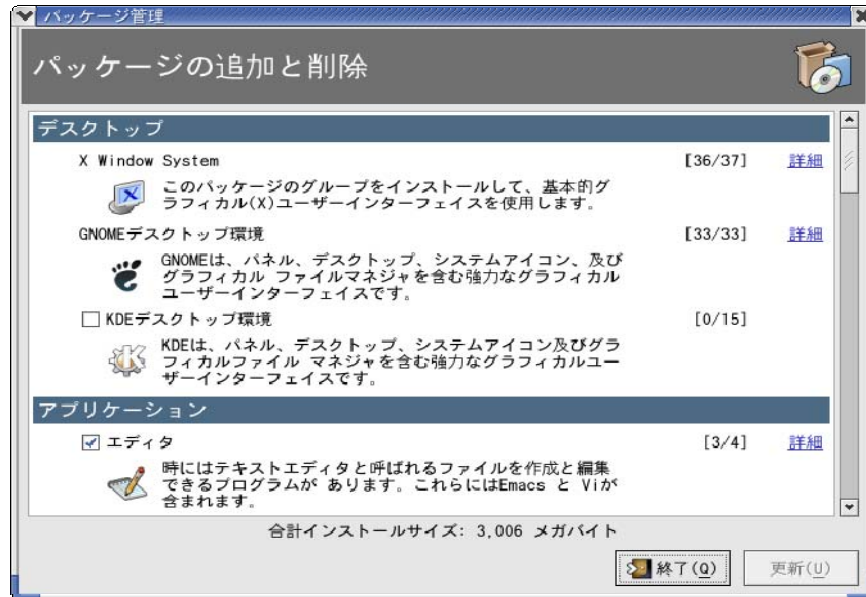
1. インテル(R)サーバマネージャ のインストールと使用に関する最新情報は、『インテル(R) サーバ マネージャ 8.40 リリース ノート』(インテル(R)サーバマネージャ CD 上の Release_Notes.htm) を参照してください。

2. インテル(R)サーバマネージャ をインストールする先の Linux コンピュータに root としてログインします。
3. Linux のファイアウォールをオフにするか、インテル(R)サーバマネージャ で使用されているネットワークポートを開きます。
4. インテル(R)サーバマネージャ の古いバージョンをアンインストールします。
 - a. 端末のウィンドウを開きます。
 - b. 既にインストールされているバージョンの インテル(R)サーバマネージャ CD を CD ドライブに挿入します。
 - c. Software フォルダに移動します。

```
cd /mnt/cdrom/ism/Software
```
 - d. アンインストール プログラムを実行します。

```
./uninstall
```
 - e. アンインストール プログラムが完了した後、システムを再起動します。
5. ネットワークの設定を調べて、ネットワーク接続がアクティブであること、TCP/IP 設定が正しいこと、およびネットワークの名前解決が正しく機能していることを確認します。
6. 画面の解像度が 1024x768 以上であることを確認します。[システム設定]、[ディスプレイ] の順に選択して、[ディスプレイ設定] ダイアログを表示します。ディスプレイ設定を変更すると、ログアウトして、X サーバを再起動する必要があります。
7. インテル(R)サーバマネージャ セットアップを実行する前に、以下を確認してください。
 - a. インストール先のコンピュータにサポートされているバージョンの Red Hat Enterprise Linux 3 がある(「システム要件」を参照)。この例では、Red Hat Enterprise Linux 3 Advanced Server update 4 を使用します。
 - b. インストール先のコンピュータ ハードウェアがサポートされている(「サポートされているサーバプラットフォーム」を参照)。
 - c. インストール先コンピュータに最小限必要なメモリ容量とディスク容量がある(「システム要件」を参照)。
 - d. Linux ファイアウォールとネットワーク ルータを使用する場合、TCP ポート 623、6787、9593、9594、9595 上のトラフィックが インテル(R)サーバマネージャ で使用できる。
8. 端末ウィンドウから、**perl-CGI-2.81-88.7.i386.rpm** パッケージをインストールします。
 - a. Red Hat Enterprise Linux 3 disk 2 を CD ROM ドライブに挿入します。
 - b. 端末のウィンドウを開きます。

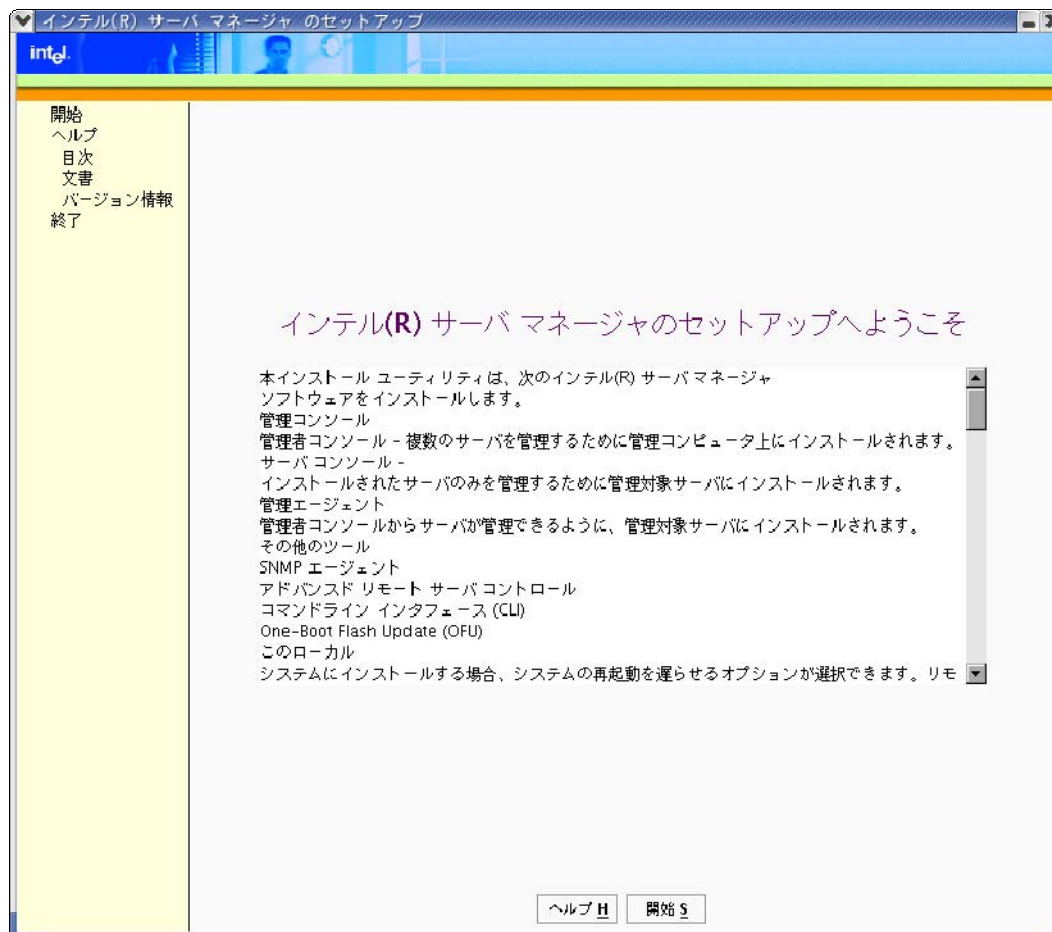
- c. 端末ウィンドウで、
`cd /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/` と入力します。
 - d. 端末ウィンドウで
`ls | grep perl`
と入力し、`perl-CGI-2.81-88.7.i386.rpm` パッケージがあることを確認します。ない場合は、残りの Red Hat CD (ディスク 3 以降) でこの rpm を検索してください。
 - e. 端末ウィンドウで、
`rpm -i perl-CGI-2.81-88.7.i386.rpm` と入力します。
9. 端末ウィンドウから、**w3c-libwww-5.4.0-5.i386.rpm** パッケージをインストールします。
- a. Red Hat Enterprise Linux 3 disk 2 を CD ROM ドライブに挿入します。
 - b. 端末のウィンドウを開きます。
 - c. 端末ウィンドウで、
`cd /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/` と入力します。
 - d. 端末ウィンドウで
`ls | grep libwww`
と入力し、`w3c-libwww-5.4.0-5.i386.rpm` パッケージがあることを確認します。ない場合は、残りの Red Hat CD (ディスク 3 以降) でこの rpm を検索してください。
 - e. 端末ウィンドウで、
`rpm -i w3c-libwww-5.4.0-5.i386.rpm` と入力します。
10. Red Hat のメイン メニュー、[システム設定]、[アプリケーションの追加/削除] をクリックして、Red Hat パッケージ マネージャを開きます。次のパッケージを追加します。
- a. **開発ツール**
 - b. **カーネル開発ツール**
 - c. **レガシー ソフトウェア開発**
 - d. **グラフィカル インターネット**
 - e. **システム ツール** パッケージ、`sysstat` と `net-snmp-utils` 拡張パッケージを選択



F0023

11. **snmpd** と **snmptrapd** サービスを起動します。
 - a. Red Hat メインメニュー、[システム設定]、[サーバ設定]、[サービス] の順に選択します。
 - b. **snmpd** を選択して、[開始] をクリックします。
 - c. **snmptrapd** を選択して、[開始] をクリックします。
 - d. [保存] をクリックします。
 - e. サービス設定ツールを終了します。
12. インテル(R)サーバマネージャ セットアップを実行します。
 - a. デスクトップから、新しい端末ウィンドウを開きます。
 - b. インテル(R)サーバマネージャ CD を CD-ROM ドライブに挿入します。
 - c. CD を挿入した後、
`cd /mnt/cdrom/ism/Software` と入力します。
 - e. インテル(R)サーバマネージャ セットアップを実行するには
`./Setup` と入力します。
13. **j2re-1_4_2_04-linux-i586.rpm** パッケージがインストールされていない場合は、それをインストールしてよいか尋ねられます。[はい] をクリックして、続行します。

14. インテル(R)サーバマネージャ セットアップが起動して、[ようこそ] 画面が表示されます。

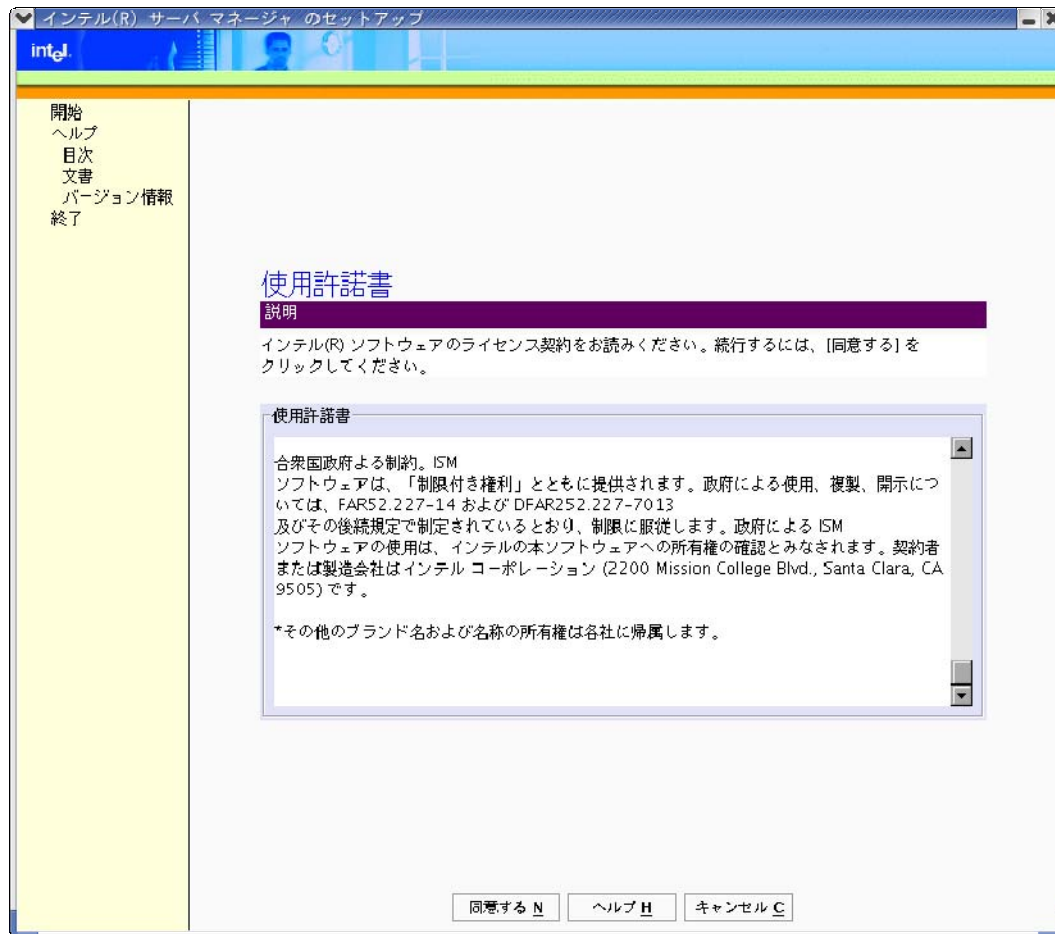


F0024

[開始] を選択して、インストールを開始します。

画面の下部にある [開始] ボタンをクリックして、次の画面に進みます。

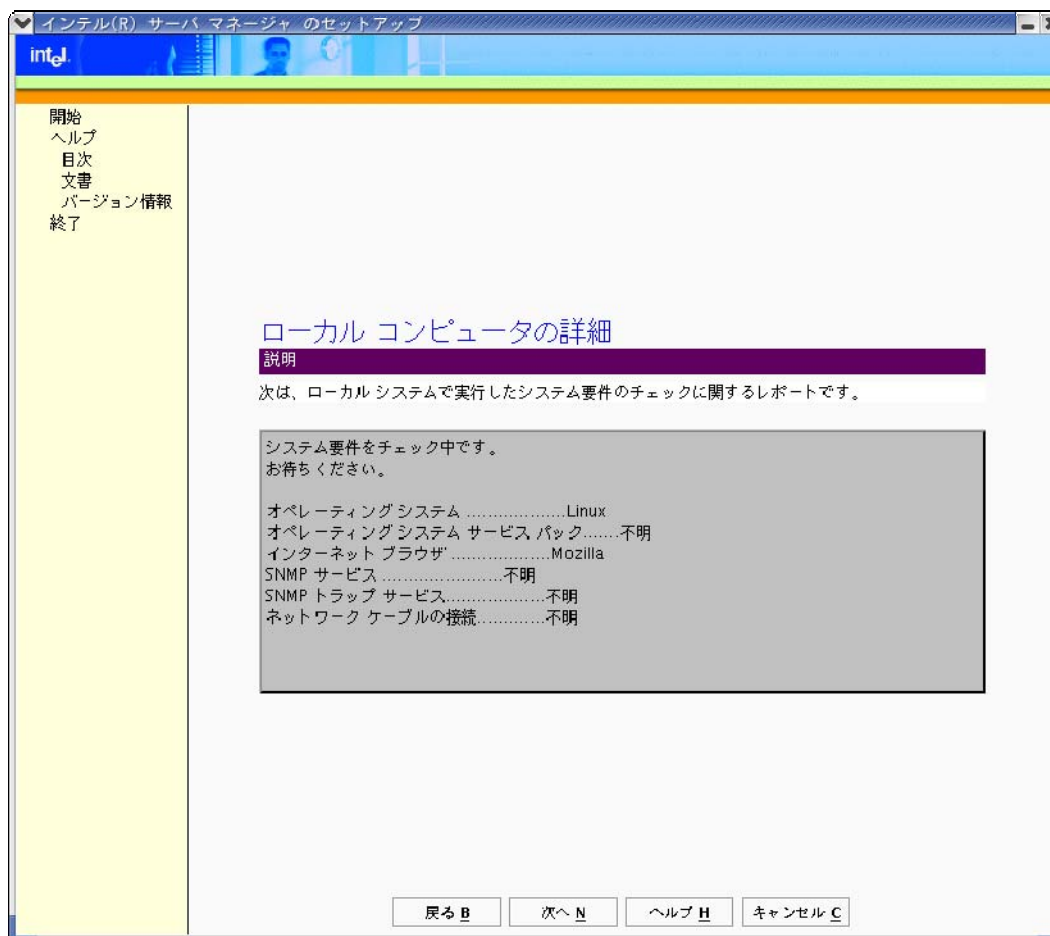
15. [ライセンス契約] 画面が表示されます。



F0025

インテル ソフトウェア ライセンス契約を読んで、画面の下部にある [同意する] ボタンをクリックし、次の画面に進みます。

16. [ローカル コンピュータの詳細] 画面が表示されます。

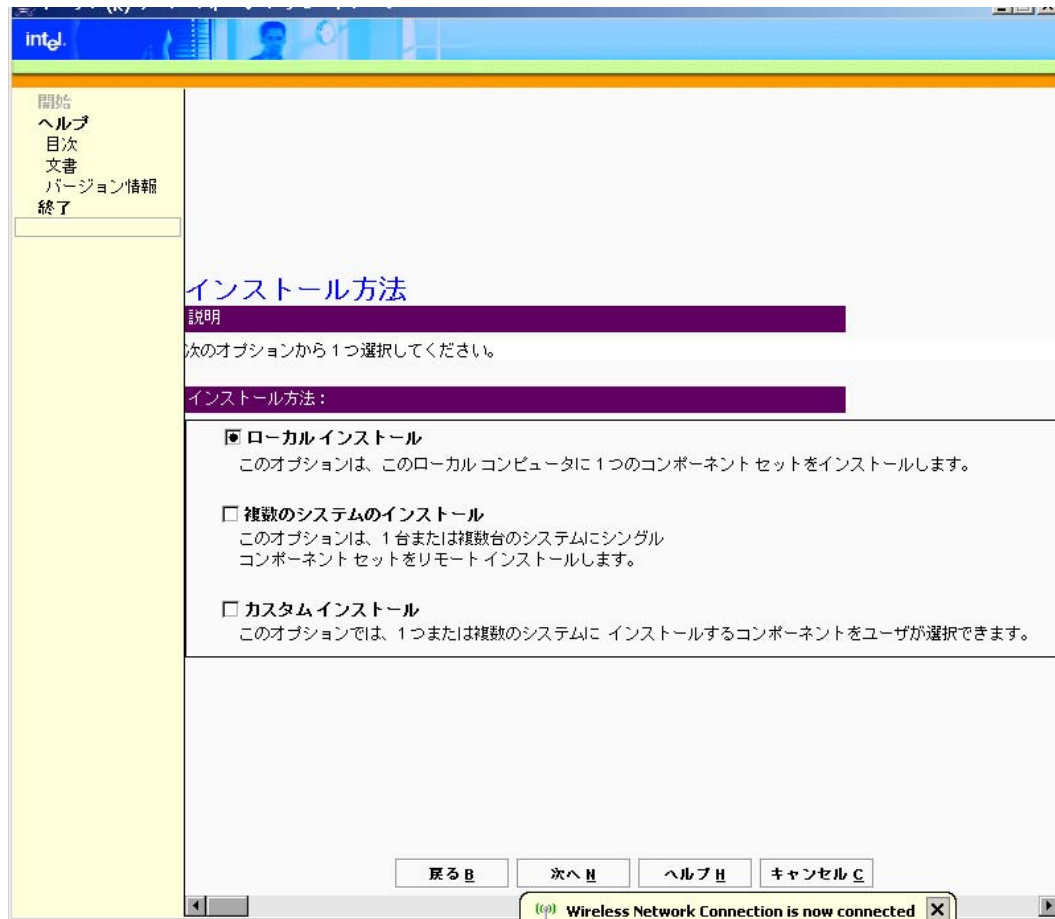


F0026

注:サーバ (プライマリ エージェント) のインストールには、SNMP サービスと SNMP トラップ サービスは必要ありません。

[次へ] をクリックして、次の画面に進みます。

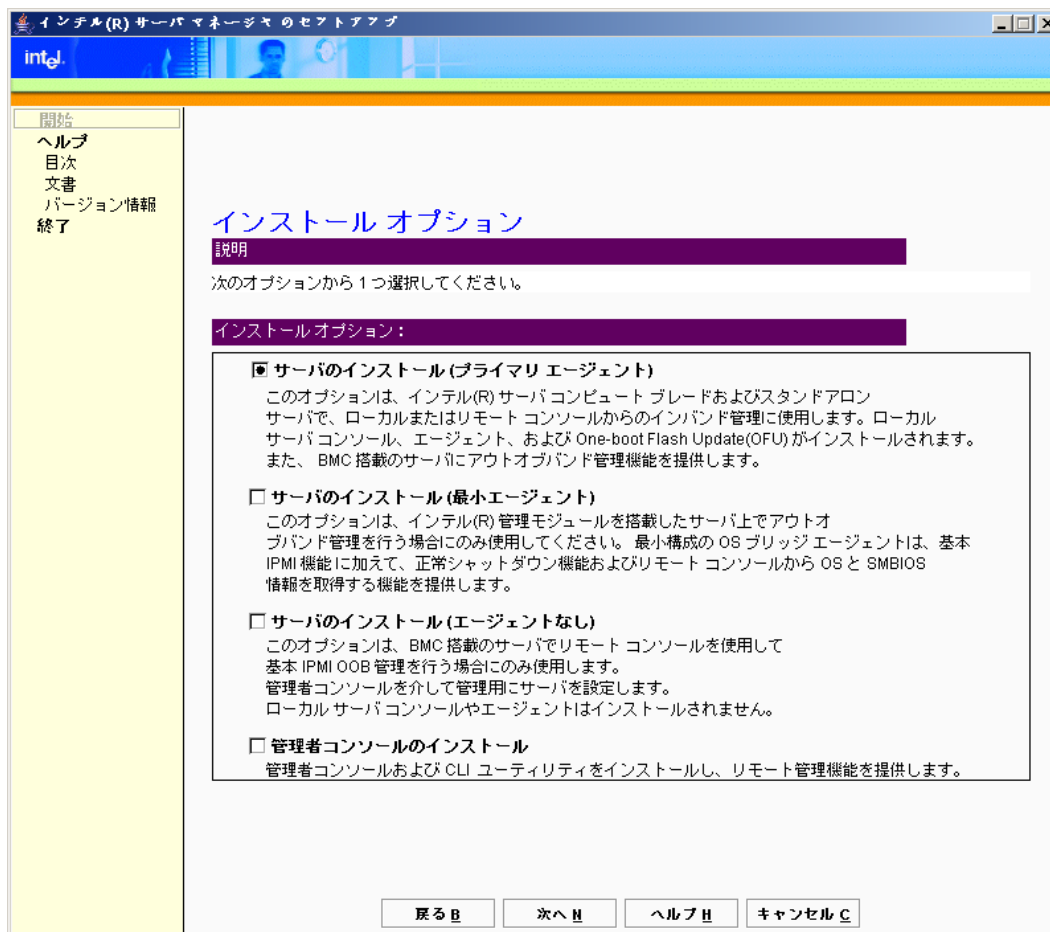
17. [インストール方法] 画面が表示されます。



F0027

この例では、[ローカル インストール] を選択して、[次へ] ボタンをクリックします。

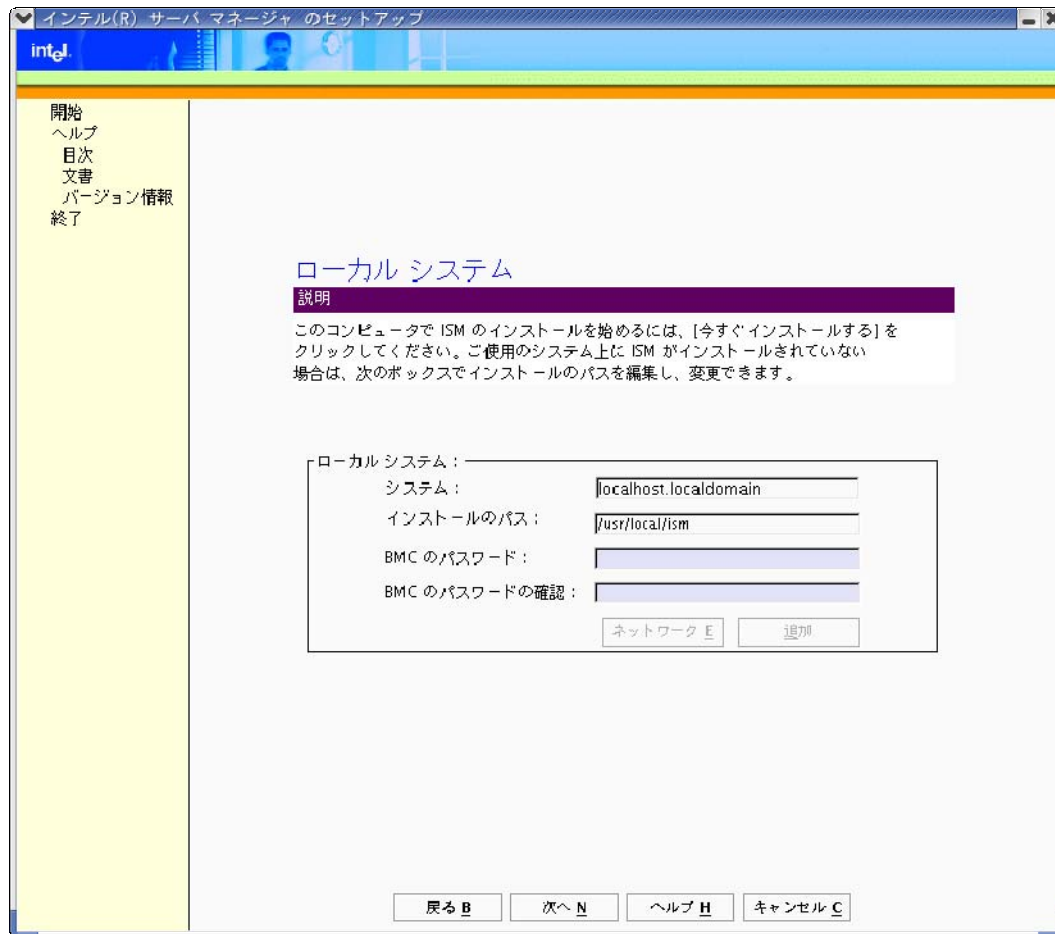
18. [インストール オプション] 画面が表示されます。



F0028

[サーバのインストール (プライマリ エージェント)] を選択して、[次へ] ボタンをクリックします。

19. [ローカル システム] 画面が開きます。



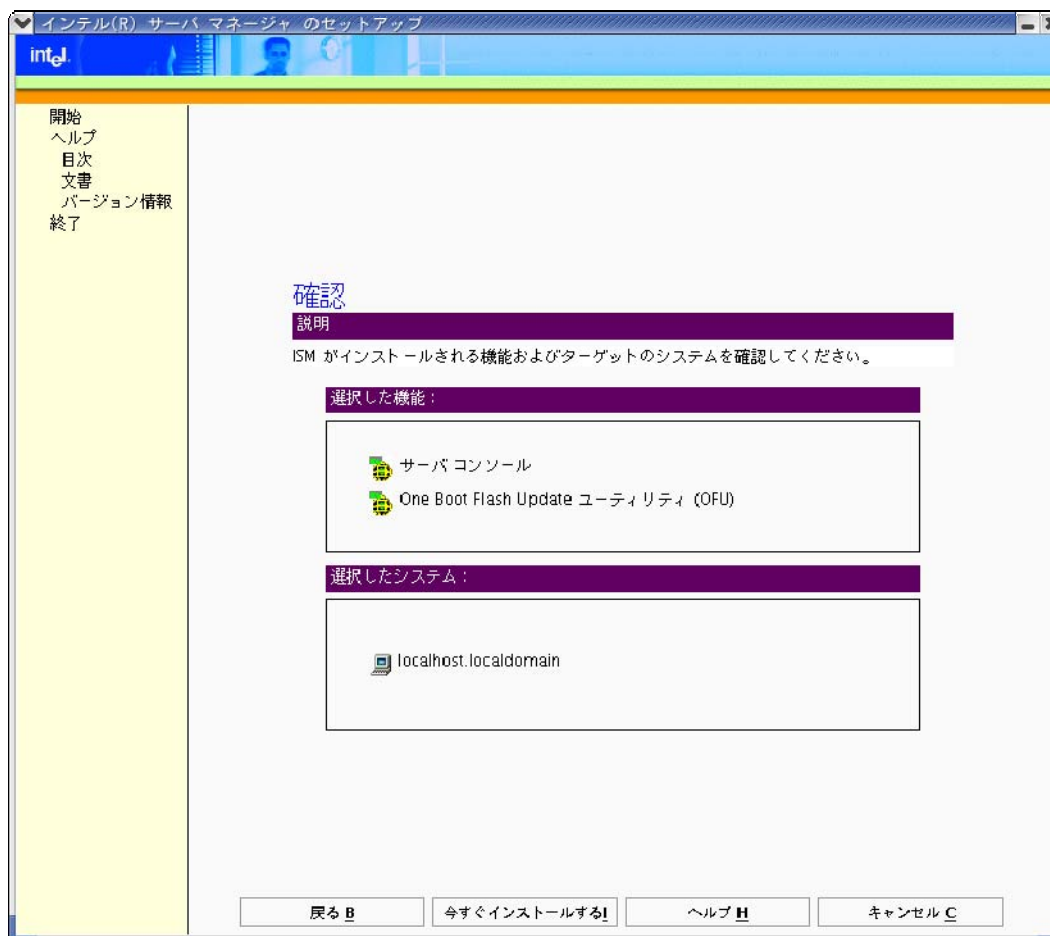
F0029

[BMC パスワード] テキスト ボックスにパスワードを入力し、[BMC パスワードの確認] テキスト ボックスにもう一度パスワードを入力します。セットアップは、各 BMC LAN チャネル上の匿名ユーザの BMC パスワードを上書きします。このパスワードを覚えておいてください。このコンピュータを [その他のコンピュータ] から [マイ コンピュータ] に追加するとき、インテル(R)サーバマネージャ 管理者コンソールでこのパスワードを入力する必要があります。

注:Linux でインストール パスを変更しても無効です。また、

BMC パスワードを入力してパスワードを確認した後、[次へ] をクリックします。

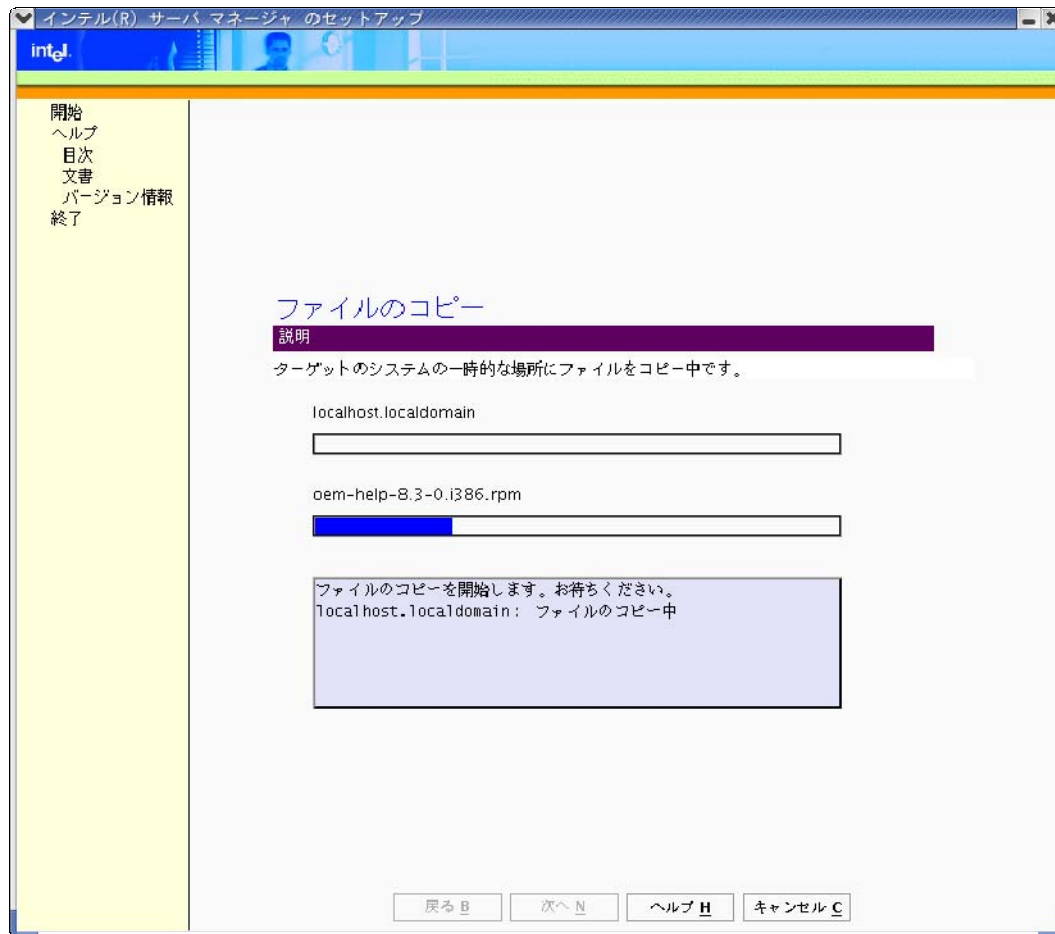
20. インテル(R)サーバマネージャ のインストールが開始される前に、[確認] 画面が表示されます。



F0030

この画面に表示されている情報が正しいことを確認し、[今すぐインストールする] をクリックして、インストールを開始します。

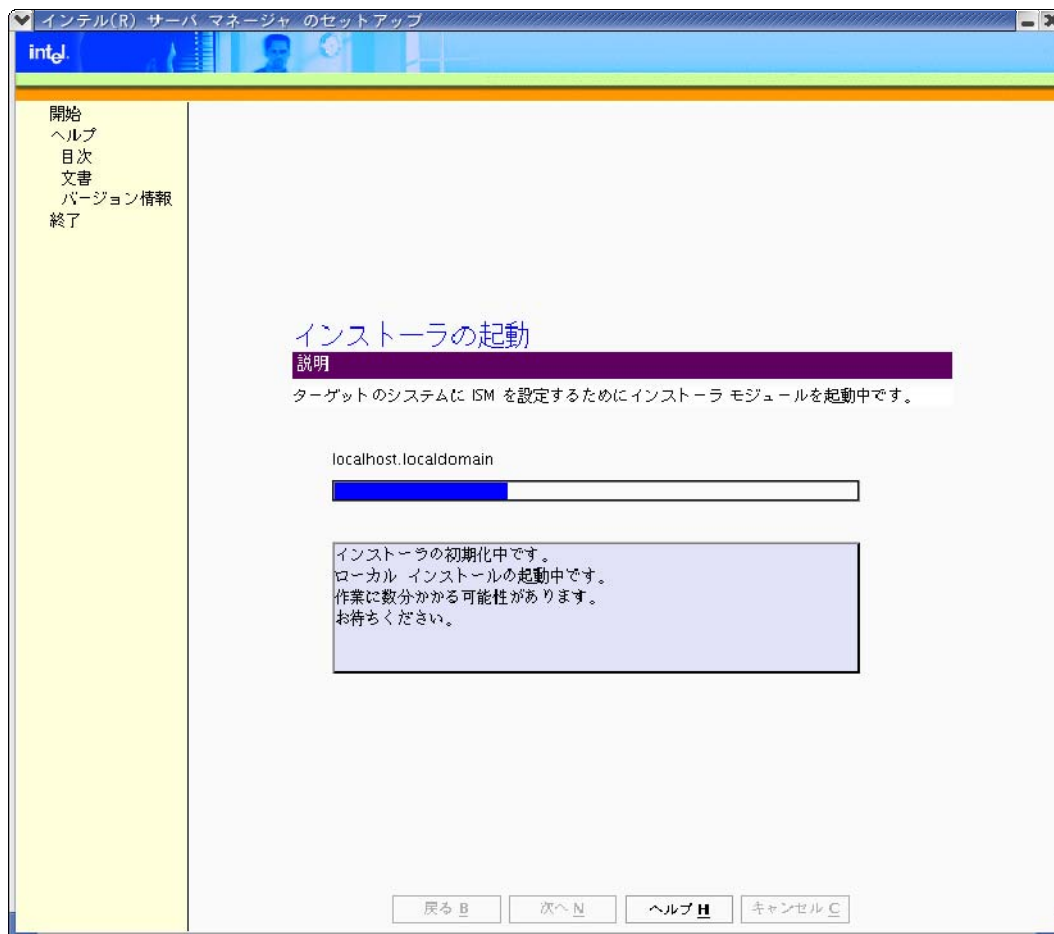
21. [ファイル コピー] 画面が表示され、CD からローカル ハード ドライブへファイルがコピーされます。



F0031

ファイルをコピーする準備が行われている間、数分間、表示に何も変化がないことがあります。

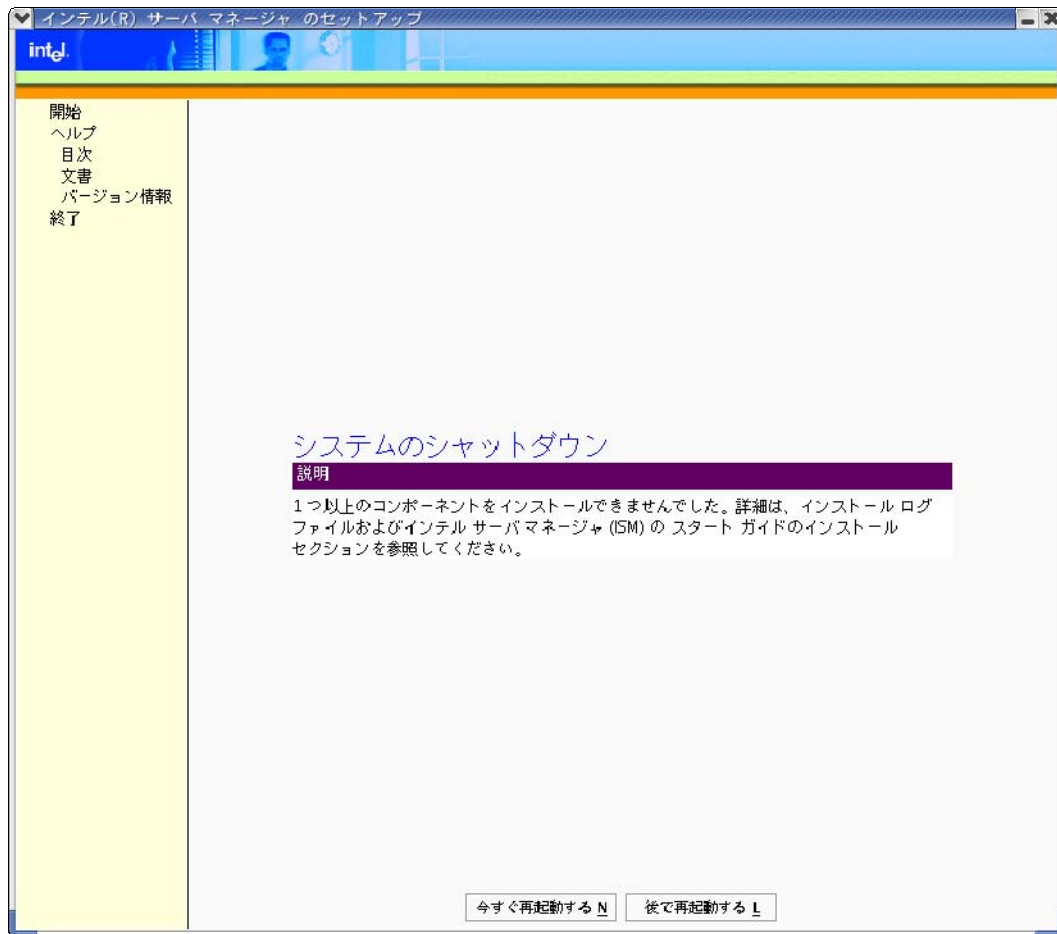
22. セットアップがローカル ハード ディスクにファイルのコピーを終えた後、[インストーラの起動] 画面が表示されます。



F0032

セットアップは、ローカル システムに インテル(R)サーバマネージャ をインストールします。

23. インストールが完了すると、[システム シャットダウン] 画面が表示されます。インストールの完了とインテル(R)サーバマネージャのアンインストールには、システムを再起動する必要があります。



F0033

コンピュータが再起動した後、インテル(R)サーバマネージャ サーバ エージェントはバックグラウンドで実行されます。

24. インテル(R)サーバマネージャ サーバ コンソールを開くには、Red Hat メニューで [管理者ツール] を選択し、[インテル サーバ マネージャ] を選択します。ブラウザ ウィンドウで インテル(R)サーバマネージャ サーバ コンソールが開きます。



F0034

25. 新しい端末ウィンドウを開いて、インテル(R)サーバマネージャ アラートを表示します。

注: Linux で、インテル(R)サーバマネージャ は wall コマンドを使用してすべてのユーザにアラートメッセージをブロードキャストします。Microsoft Windows 上での インテル(R)サーバマネージャ とは異なり、Linux ではポップアップ アラートは表示されません。

サーバの管理に インテル(R)サーバマネージャ を使用する方法の詳細は、60ページの「第 3 章:インテル(R)サーバ マネージャを使用してサーバを管理する」を参照してください。

その他のセットアップ オプション

サイレント インストール

サイレント インストールでは、コマンドラインからセットアップを実行し、インテル(R)サーバマネージャ をインストールするシステムを指定する外部ファイルを提供できます。これは、インタラクティブなセットアップ プログラムではなく、スクリプトを使用して インテル(R)サーバマネージャ を複数コンピュータに配備するために使用できます。サイレント インストールの間、インストール プログラムはコマンドライン オプションとその外部ファイルの情報を使って、目的のシステムを特定し管理者用のログイン権限を取得します。

注:インストール処理の終了後、リモートの管理対象サーバは自動的に再起動します。ローカル コンピュータの再起動が必要な場合には、インストール プロセスで、今すぐまたは後ほど再起動を実行するためのダイアログ ボックスを表示します。

次のセクションでは、インストールを始めるために使うコマンドライン構文と、外部ファイルの作成時に従わなければならない形式について説明します。

サイレント インストール手順の概要

サイレント インストール手順では、テキスト ファイルを使用して、選択したコンポーネントをインストールするために必要なシステム情報をセットアップに提供します。

1. silent.txt ファイルを作成します。このファイルには、ユーザ名、パスワード、システム名または IP アドレスが含まれており、インテル(R)サーバマネージャ セットアップにどのコンポーネントをインストールするかを知らせます。
2. コマンド ラインから、下に示す構文を使用して、セットアップを実行します。
3. ログ ファイルを調べて、インストールが正常に完了したことを確認します。

コマンドライン構文

Windows では、次のコマンドライン スイッチとパス名を使ってサイレント インストールを実行します。

```
setup /silent <pathname>
```

Linux では、次のコマンドライン スイッチとパス名を使ってサイレント インストールを実行します。

```
./setup -t SILENT <pathname>
```

注:Linux では SILENT は全文字が大文字でなければなりません。

どちらの場合でも、<pathname> はサイレント設定ファイルのパスを指定しています。このパスは、フル パスですが、そのファイルがセットアップ プログラムと同じディレクトリにある場合にはファイル名だけでもかまいません。インテル(R) サーバ マネージャ をサイレント モードでインストールするには、このパラメータが必須です。

注:<pathname> は 18 文字以内で指定してください。

Windows の例:

```
Setup.exe /silent silent.txt
```

```
Setup.exe /silent c:¥silent.txt
```

Linux の例:

```
./setup -t SILENT silent.txt
```

```
./setup -t SILENT /usr/silent.txt
```

設定ファイルの内容

注: 設定ファイルの silent.txt には、システム アカウントのパスワードが含まれており、暗号化はされていません。サイレント インストール処理が正常に終了した後で、silent.txt ファイルは、削除するかしっかり保護することを推奨します。

サイレント設定ファイルには、インストール先のシステムを識別し、インテル(R)サーバマネージャ をインストールするために インテル(R)サーバマネージャ セットアップが使用するための、キーワード “install” を含む行が 1 行と、“System” セクションが 1 つまたは 複数あります。[System] セクションのフィールドすべては、インテル(R)サーバマネージャ のインストール先のシステムに関するものです。Linux システムにインストールする場合、そのシステムの root パスワード (「rootpassword」フィールドに入力) と同様に、ログインに使うユーザ ID とパスワードを入力する必要があります。

```
; Features to install. This should match ISMSSetup_xx.yy.inf.
;Server_OFU=1
;Server=2
;SNMP=3
;OFU=4
;Reserved=5
;Admin_CLI=6
;Admin=7
;CLI=8
;KVMViewer=9
;BridgeAgent=10
;BMCConfiguration=11

install=2,7,8
[System]
Name=10.7.181.68
userID=userid1
Path=c:\Programs\MyDirectory1
Password=test1
BMCPassWord=testbmc1
Organization=myOrganization
AdminSecurityCertPassword=A1234567a
[System]
Name=test-system2
userID=userid2
Path=c:\Programs\MyDirectory2
Password=test2
BMCPassWord=testbmc2
Organization=myOrganization
AdminSecurityCertPassword=A1234567a
[System]
Name=linux-system1
userID=admin
Password=pwd
Path=/ISM
Rootpassword=pwd-for-root
BMCPassWord=testbmc3
Organization=myOrganization
AdminSecurityCertPassword=A1234567a
Mysqluserid=sql-user
Mysqlpassword=pswd-for-sql-user
```

図 6. サイレント インストール設定ファイルの例

次の表に、サイレント インストール設定 ファイル内で使用されているキーワードと簡単な説明を示します (大文字と小文字は上記のとおりに区別する必要があります)。

表 14. サイレント インストール パラメータ

パラメータ	説明
Install	インストールするアプリケーションのコンマ区切り値
名前	コンピュータの DNS または IP アドレス
userID	ログインするオペレーティング システムのユーザ ID
パスワード	上記の userID を持つユーザのパスワード。
Rootpassword	Linux システム用の root パスワード
パス	インストール ディレクトリ
BMCPasswd	BMC 設定用のパスワード
組織	証明書を作成するときに必要な組織名。これは管理者コンソールのインストールにのみ必要です。
AdminSecurityCertPassword	管理者コンソールのインストール時に作成されるセキュリティ証明書用のパスワード
Mysqluserid	MySQL データベースの既存ユーザのユーザ ID。これは、Linux システムに管理者コンソールをインストールするときに必要です。
Mysqlpassword	MySQL データベースの既存ユーザ (mysqluserid) のパスワード。これは、Linux システムに管理者コンソールをインストールするときに必要です。

上の例では、インテル(R)サーバマネージャ ソフトウェアを 2 つのサーバ、IP アドレスが 10.7.181.68 のサーバと「test-system2」という名前のサーバにインストールしようと試みます。2 つのシステムの BMC パスワードは、それぞれ「testbmc1」と「testbmc2」です。

「install=2,7,8」という行は、インテル(R)サーバマネージャ サーバ (プライマリ エージェント)、管理者コンソール、および CLI のターゲット コンピュータへのインストールを意味します。数字は、アプリケーションが ISMSSetup_xx.yy.inf ファイルの [Configuration Sets] セクションに入力された順序に対応しています。ServerCustomFeatures (0) と ConsoleCustomFeatures (5) は [カスタム インストール] ページ上の機能リストの見出しで、インストールできるオプションではありません。「install=n,n,n」のインスタンスは、silent.txt ファイル内に 1 つだけ置くことが可能です。「install=n,n,n」行で選択した項目は、silent.txt ファイルに一覧表示されているすべてのシステムに適用されます。

[Systems] セクションに含めることで、いくらでも多くのシステムを追加することができます。

サイレント インストールの間、[ファイル コピー] および [システム シャットダウン] の画面が表示されます。ユーザによる入力はいりません。

インストール中にエラーが発生した場合、エラーはログに記録され、インストールは続行されます。ログにエラーが記録された場合、インストール プログラムのインターフェイスにメッセージが表示されます。silent.log というログファイルは、silent.txt と同じディレクトリに作成されます。このログファイルは、エラーがある場合にしか作成されません。Linux の場合、インストールに失敗したら、/tmp in ldinsterr*.log ファイルで原因をチェックします。

また、インストールが正常に完了した際に、インストール フォルダ内に setup.log という別のログファイルが生成されます。インストール プロセスが中止されると、システムの root フォルダに追加のログ ファイルが生成されます (例、c:%setup.log)。

カスタム インストール

カスタム インストールでは、インストールする インテル(R)サーバマネージャ アプリケーションやユーティリティを選択できます。次のアプリケーションから選択できます。

- SNMP サブエージェント (ベースボード、オンボード ネットワーク アダプタ、オンボード SCSI または SATA RAID コントローラ)
- One-Boot Flash Update (OFU) ユーティリティ
- サーバ コンソールとプライマリ エージェント
- コマンドライン インタフェース (CLI) プロキシ サーバ
- アドバンスドリモート サーバ コントロール (ARSC) ビューア ユーティリティ (管理対象サーバではなく、管理者またはリモート クライアント コンピュータにインストールする)
- 管理者コンソール

複数システムのリモート インストール:

[セットアップ タイプの選択] 画面で [複数システムのインストール] を選択すると、複数のコンピュータに インテル(R)サーバマネージャ アプリケーションをリモート インストールすることができます。インテル(R)サーバマネージャ セットアップは、選択した同じソフトウェアをインストール先の各システムにインストールします。

インテル(R)サーバマネージャ のリモート インストールには ftp を使用します。

インテル(R)サーバマネージャ をインストールするために Linux を設定する手順は、「付録 B: Red Hat Enterprise Linux」を参照してください。

特別考慮事項

オペレーティング システムに関する考慮事項

Microsoft Windows の Telnet パッチ

DCPCLI プロキシに Telnet 接続するには、Microsoft パッチをインストールして Windows XP および Windows Server 2003 でのライン フィードの問題を解消する必要があります。

このホットフィックスは、<http://support.microsoft.com/?kbid=824810>を参照してください (Windows XP SP2 にも使用可能)。

Windows XP 用のローカル セキュリティ ポリシーの変更

Windows XP へのインストールでは、ローカル セキュリティ ポリシーの次の 2 点を変更する必要があります。

1. [スタート] > [設定] > [コントロール パネル] > [管理ツール] > [ローカル セキュリティ ポリシー] の順に選択します。
2. 左の欄の [ローカル ポリシー] から [セキュリティ オプション] を選択します。

3. リモート アクセスを許可するには:「ネットワーク アクセス:ローカル アカウントの共有とセキュリティ モデル」というポリシーを見つけてダブルクリックします。ドロップダウンを「クラシック-ローカル ユーザ がローカル ユーザとして認証する」に変更します。
4. 署名されていないドライバを許可するには、「デバイス: 署名されていないドライバのインストール 時の動作」を見つけてダブルクリックし、ドロップダウンを「サイレント インストール」に変更します。
5. ローカル セキュリティ ポリシー ツールを終了します。

Web サーバ ルート認証局

CBA8 ルート認証局は、インテル(R)サーバマネージャ コンソール間の安全な通信を確保するために使用します。

管理者コンソールのインストール中、信頼されたルート証明書ストアに CBA8 ルート認証局を追加するようにオペレーティング システムから指示されます。[はい] を選択すると安全な通信が確保されますが、このオプションを選択すると、ブラウザがこのルートからの証明書をすべて受け入れるように強制されるので、インテル(R)サーバマネージャ の管理にブラウザが常時使用される場合にのみ選択してください。ルート認証局をインストールしないと、各セッションの始めに警告が表示されます。

CBA8 ルート認証局を追加するには、次の手順に従います。

1. Windows セキュリティ アラートのプロンプトが表示されたら、**[証明書の表示]** をクリックします。
2. **[証明書のパス]** タブを選択します。
3. **[CBA8 ルート認証局]** を選択します。
4. **[証明書の表示]** を選択します。
5. **[証明書のインストール]** を選択します。
6. 証明書のインポート ウィザードで、**[次へ]** > **[次へ]** > **[完了]** をクリックします。
7. **[はい]** をクリックして、ルート ストアに追加し、すべての **[追加]** ボックスを閉じます。
8. その後、元のプロンプトで **[はい]** をクリックして、証明書を受け取ります。

インテル(R) マネージメント モジュール

インテル マネージメント モジュールには、Sahalee ベースボード管理コントローラが搭載されています。インテル(R)サーバマネージャ で管理されるサーバ上のインテル マネージメント モジュールを変更したり追加する場合、管理対象サーバをアップデートするためには、マネージメントモジュールのマニュアルに記載されている手順に従ってください。そのサーバが インテル(R)サーバマネージャ で管理されている場合、マネージメントモジュールをアップデートまたは更新する前に インテル(R)サーバマネージャ をアンインストールして、そのコンピュータを管理者コンソールから削除してください。

ここでの説明は次のインテル サーバ ボードを対象としています。

- インテル サーバ ボード SE7520BD2
- インテル サーバ ボード SE7520JR2
- インテル サーバ ボード SE7520AF2
- インテル サーバ ボード セット SE8500HW4

ベースボード管理コントローラなしのインテル® サーバ ボード上のセンサの読み値

インテル(R) サーバ ボード SE7221BA1、SE7230NH1-E、SE7320EP2、SE7525RP2 には、ベースボード管理コントローラはありません。Linux オペレーティング システムの インテル(R)サーバマネージャ でセンサの読み値を表示するには、Im_sensors パッケージをインストールする必要があります。詳細は、「付録 B: Red Hat Enterprise Linux」を参照してください。

SNMP

サードパーティ製の SNMP 管理アプリケーションで SNMP を使用する場合、snmpd config ファイルで agentx と V2 トラップが有効になっていることを確認してください。

注: インテル(R)サーバマネージャ を実行しているコンピュータには、HP OpenView* をインストールしないでください。SNMP インタフェース ソフトウェアに衝突が生じ、インテル(R)サーバマネージャ の正常な機能が妨害される可能性があります。

Intel® Server Maintenance and Reference Training (SMaRT) ツール

インテル(R)サーバマネージャ 8.40 でサポートされているすべてのプラットフォームが SMaRT ツールでサポートされているわけではありません。SMaRT ツールは、<http://support.intel.com/support>からダウンロードしてアップデートすることができます。

SMaRT ツールには、Macromedia Authorware が必要です。これは、アプリケーションを最初に起動したときに Macromedia のサイトからダウンロードされます。低速接続では、ダウンロードに 30 分までかかる場合があります。

SMaRT ツールは Microsoft Windows でしかサポートされていません。SMaRT ツールをインストールするために インテル(R)サーバマネージャ をインストールする必要はありません。また、インテル(R)サーバマネージャ を使用するために SMaRT ツールをインストールする必要はありません。

スイッチ上でスパニング ツリーを設定する

IEEE 802.1D 仕様準拠の Cisco* (または類似の) スイッチで IPMI ベースの LAN 管理を有効にするには、スイッチ ポートで PortFast が有効にされており、管理対象サーバが直接接続されていることが必要です。電源が切れた状態のサーバをリモート管理するには、PortFast を使用する必要があります。PortFast なしでは、システムがリセットされると、スイッチはサーバへのすべてのトラフィックをブロックします (これによってリモート管理が妨げられます)。CLI では、この場合、管理対象サーバがリセットされた数秒後に「接続が失われました」というメッセージが表示されます。Cisco スイッチ上で PortFast を有効にするには、スイッチにログインして、次の Cisco コマンドを使用します。

```
set spantree portfast mod_num/port_num enable
```

たとえば、ポート 3/1~3/24 を有効にするには、次の Cisco コマンドを使用します。

```
set spantree portfast 3/1-24 enable
```

LAN (SOL) の BIOS 設定

Serial Over LAN 機能を定義する IPMI 仕様。SOL は、プレブート環境でテキストベースのキーボードとビデオリダイレクションを提供します。SOL を使用して、BIOS セットアップ、プレブートユーティリティ、EFI シェル、DOS ユーティリティを起動できます。

Serial Over LAN をサポートするための BIOS 設定を行うには、次の手順に従います。

1. システムを再起動します。
2. POST 中に F2 を押して、BIOS セットアップを起動します。
3. [サーバ] メニューを選択して、[シリアル コンソール] を選択します。
4. [BIOS リダイレクション ポート] を [シリアル B] に設定します。
5. [ボーレート] を [19.2K] に設定します。
6. [フロー コントロール] を [CTS/RTS] に設定します。
7. [ターミナル タイプ] を [VT100+] に設定します。
8. [ACPI リダイレクション ポート] を [無効] に設定します。
9. F10 を押して、変更を保存し、システムを再起動します。

注:サーバ ボードによっては、BIOS 設定の名前を変更できる場合があります。サーバ ボードのマニュアルを調べて、該当する BIOS 設定を上記の値に設定します。

(This page intentionally left blank.)

第 3 章:インテル(R) サーバ マネージャを使用してサーバを管理する

インテル(R)サーバマネージャ をインストールすると、管理者コンピュータと管理対象サーバ上で自動的に起動します。インテル(R)サーバマネージャ または CLI コンソールを表示するには、次のトピックを参照してください。

- インテル(R)サーバマネージャ 管理者コンソールの起動
- インテル(R)サーバマネージャ サーバ コンソールの起動
- CLI の起動
- ARSC ビューアの起動

インテル(R)サーバマネージャ の使用方法の例は、「インテル(R) サーバ マネージャを使い始める」を参照してください。

インテル(R) サーバ マネージャの起動

Microsoft Windows から インテル(R)サーバマネージャ を起動する

管理者コンピュータから起動する

ユーザは次の 3 つの方法で管理者コンソールを管理者コンピュータから始動出来ます。

- タスク バー トレイで インテル(R)サーバマネージャ アイコンを右クリックし、[コンピュータの管理] を選択します。
- [開始] メニューのインテル フォルダから [インテル サーバ マネージャ] を選択します。
- ブラウザ ウィンドウで、次の URL を入力します。
`http://localhost:9595`

リモート クライアントから管理者コンソールを起動する

Internet Explorer または Netscape Navigator ブラウザで、次の URL を入力します。

`http://<hostname>:9593/ism/index2.tpc?ADMIN=1`

ここで、<hostname> は管理者コンソールを実行しているコンピュータの DNS 名または IP アドレスです。

管理者コンソールからサーバ コンソールを起動する

- [マイ コンピュータ] リストで、管理対象サーバをダブルクリックします。

管理対象サーバからサーバ コンソールを起動する

- タスク バー トレイで インテル(R)サーバマネージャ アイコンを右クリックし、[コンピュータの管理] を選択します。
- [スタート] メニューのインテル® フォルダから [インテル サーバ マネージャ] を選択します。
- ブラウザ ウィンドウで、次の URL を入力します。http://localhost:9595

CLI プロキシ サーバ以外のコンピュータから CLI を起動する

- コマンド ウィンドウから、DPCCLI プロキシを実行しているコンピュータに Telnet します。
telnet <hostname or IP> 623

CLI プロキシ コンピュータから CLI を起動する

- Serial Over LAN (SOL) を使用するには、Telnet を使用して CLI セッションを開きます。コマンド プロンプトで次を入力します。
telnet localhost 623

Microsoft Windows から ARSC ビューア (スタンドアロン ビューア) を起動する

注:スタンドアロン ビューアは、管理者コンソールによってデフォルトでインストールされません。[カスタム インストール] を使用して、Microsoft Windows または Linux にスタンドアロン ビューアをインストールします。

Microsoft Windows から:

1. Windows の [スタート] メニューを選択します。
2. [すべてのプログラム] を選択し、[インテル サーバ マネージャ] を選択します。
3. [アドバンスドリモート サーバ コントロール] を選択します。

Microsoft Windows を実行している管理者コンソールから ARSC ビューアを起動する

管理者のコンソールから、次の手順を行ってください。

1. [マイ コンピュータ] または [その他のコンピュータ] で、インテル マネージメント モジュール アドバンスド エディションがインストールされているコンピュータを選択します。
2. [ARSC] ボタンをクリックします。
3. 管理対象サーバの IP アドレスを入力し、続いて BMC ユーザ名とパスワードを入力します。

Linux から インテル(R)サーバマネージャ を起動する

Red Hat Linux を実行している管理者コンピュータから起動する

- Red Hat のメイン メニューのインテル® フォルダから [インテル サーバ マネージャ] を選択します。
- ブラウザ ウィンドウで、次の URL を入力します。
http://localhost:9595

リモート Web クライアントから 管理者コンソールを起動する

- ブラウザ ウィンドウで、次の URL を入力します。
`https://<hostname>:9593/ism/index2.cgi`
ここで、<hostname> は管理者コンソールを実行しているコンピュータの DNS 名または IP アドレスです。

管理者コンソールからサーバ コンソールを起動する

- [マイ コンピュータ] リストで、管理対象サーバをダブルクリックします。

注: Linux を実行しているコンピュータ上の管理者コンソールから、Microsoft Windows を実行しているコンピュータを管理することはできません。

Linux でサーバ コンソールを実行している管理対象サーバから起動する

- Red Hat のメイン メニューで、[インテル サーバ マネージャ] を選択します。
- ブラウザ ウィンドウで、次の URL を入力します。
`http://localhost:9595`

Linux から CLI を起動する

端末ウィンドウから、DPCCLI プロキシを実行しているコンピュータに Telnet 接続し、次を入力します。
`telnet <hostname or IP> 623`

Linux から ARSC ビューア (スタンドアロン ビューア) を起動する

注: ARSC は、Linux の管理者コンソールからは使用できません。Linux システムでは、[カスタム インストール] または [サイレント インストール] を使用して、スタンドアロン ARSC ビューアをインストールします。

1. Red Hat のメイン メニューで、[システム ツール]、[インテル サーバ マネージャ] の順に選択します。
2. アドバンスド リモート サーバ コントロールを起動します。

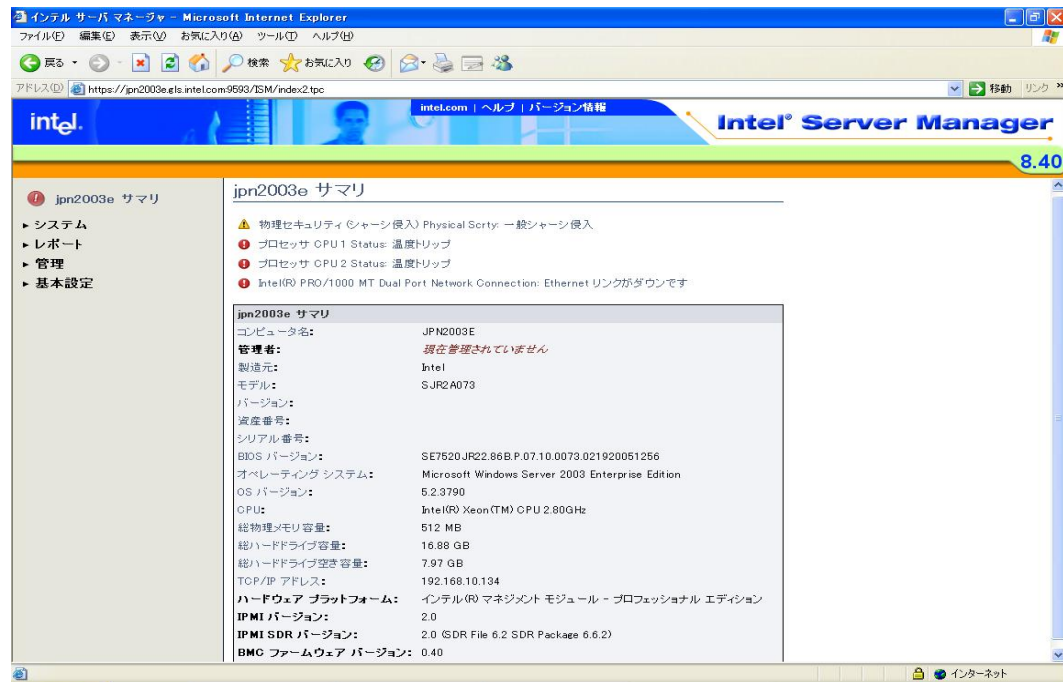
インテル(R) サーバ マネージャを使い始める

ここでは、ハードウェア障害が発生したとき、インテル(R)サーバマネージャ を使用して、管理者にアラートを送信する方法の例を説明します。Microsoft Windows 2003 Advanced Server を実行している管理対象サーバ上で インテル(R)サーバマネージャ アラート動作を設定し、ファンが 1 台故障したときにアラートを送信します。

ファンにはタコメータが内蔵されており、ベースボード プラットフォームのインスツルメンテーションによって監視されています。ファンの速度が下限値を低下すると、そのファンはシステムを効果的に冷却していないとみなされます。この場合、管理者は故障の原因を究明し、できればファンを交換します。ファン速度アラートしきい値はセンサ データ レコード (SDR) で設定されます。FRU/SDR アップデート パッケージには、サーバボード用の SDR とそれを表示するためのユーティリティがあります。IPMI 2.0 仕様の完全な理解なしで SDR を変更することは推奨しませんが、しきい値に達したときに インテル(R)サーバマネージャ が行うアラート動作を設定できます。

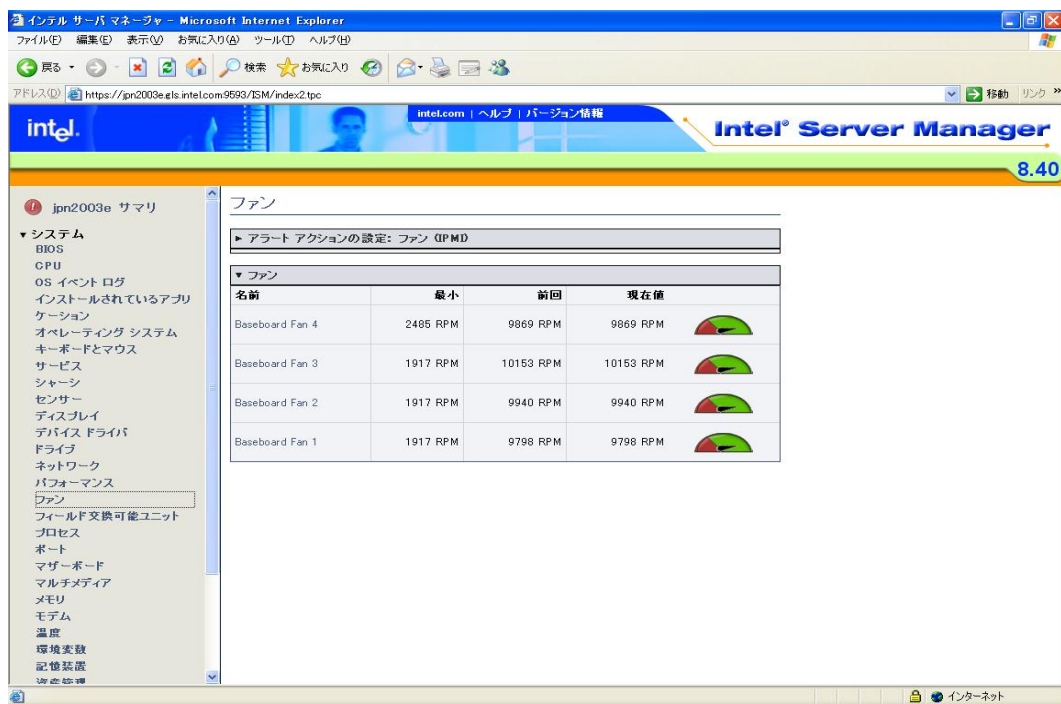
ファンの速度が下限しきい値に達したときに電子メールを送信して、ポップアップ アラートを表示するには、次の手順に従います。

1. インテル(R)サーバマネージャ サーバ コンソールを開きます。

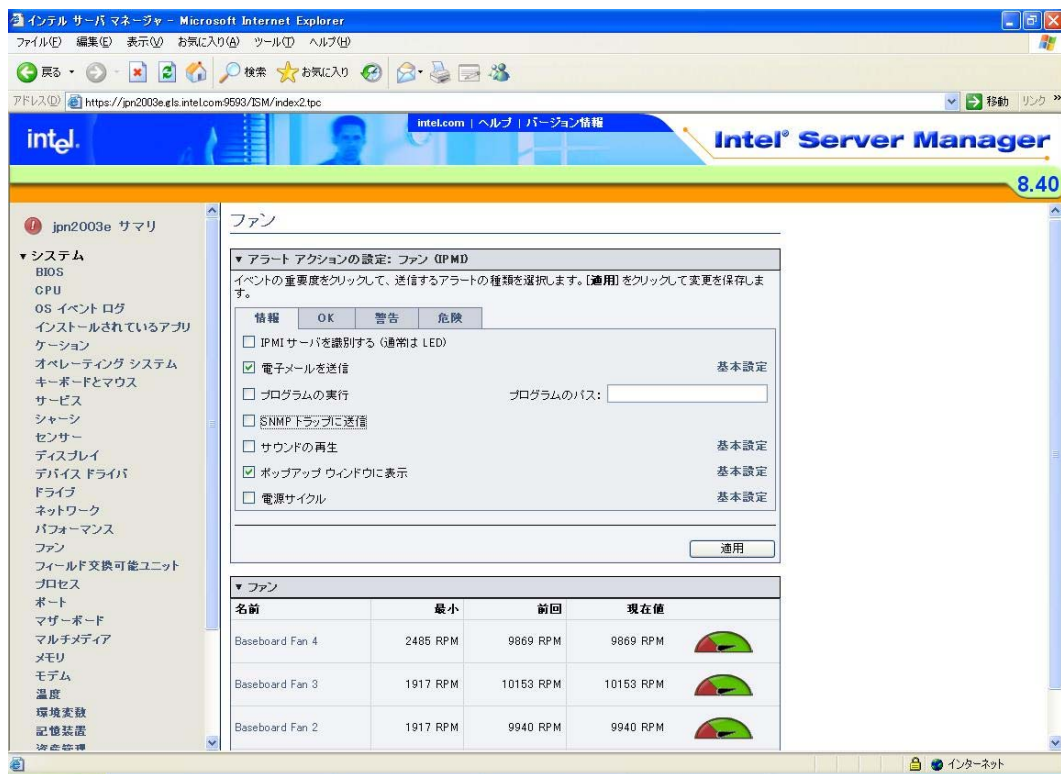


2. 左のメニューバーで、[システム]、[ファン]の順に選択します。

第 3 章:インテル(R) サーバ マネージャを使用してサーバを管理する



3. タイトルバーの左にある三角形 をクリックして、[アラート アクションを設定:ファン (IPMI)] を展開します。
4. [重大] タブを選択します (ペインの右上)。



5. 使用するアラートのボックスを選択します。この例では、[電子メールの送信]と[ポップアップ ウィンドウの表示]を選択します。
6. [適用] をクリックします。[電子メールの送信] オプションの左の [プロパティの設定] を選択して、電子メール アラートを設定します。

アラート

▶ 基本設定: オーディオ アラート

▼ 基本設定: 電子メール アラート

電子メールでアラートを送信

送信メール サーバ(SMTP):

宛先:

差出人:

件名: %S: インテル サーバ マネージャ アラート

本文: コンピュータ %N が次を通知しました: %D

パラメータ言語: 日本語

配信試行回数(1-10): 3

試行間隔(分)(1-60): 10

[件名]と[本文]のフィールドに変数を挿入できます。これらの変数は、電子メールが送信されるときに適切な値に置き換わります。次の変数を使用できます:

%S = %S
 %D = 説明
 %N = コンピュータ名
 %S = 重要度
 %T = 時間 (UTC)

デフォルトに戻す 適用

7. [電子メールでアラートを送信] を選択します。このボックスを選択すると、すべてのオプションが有効になります。
8. [送信メール サーバ (SMTP)] ボックスに発信 SMTP サーバ名を入力します。
9. [宛先] ボックスに 1 つまたは複数の宛先を入力します。各電子メールアドレスをカンマで区切ります。電子メール アドレスは、テキスト ページでもかまいません。
10. [差出人] ボックスに電子メール アドレスを入力します。
11. デフォルトの [件名]と [本文] を使用するか、独自のテキストを入力します。ペインの下部に表示されているパラメータを件名や本文に使用することができます。
12. 電子メールの配信の信頼性に問題がある場合は、[配信試行回数]と[試行間隔(分)] パラメータを変更できます。
13. [適用] を選択します。

14. ファンのプラグが抜かれている場合は、ファンの速度が非重大下限しきい値より低下したとき、およびファン速度の重大下限でアラートを受信します。ファンが冗長構造でなくなったことを知らせる情報アラートも受信することがあります。この例では、重大下限しきい値より低下した場合に電子メールを受信します。次の例は、デフォルトの件名と本文を使用したアラート電子メールの例を示します。

```
From: <Steve@ISMAdmin>  
To: <Steve@ISMAdmin>  
Subject: Critical: Intel server Manager Alert  
Date: Sunday, January 16, 2005 6:31 PM  
  
The computer brandon2003es.ISM.TME.com has reported:  
Fan Baseboard Fan 1: Lower Critical - going low
```

F0050

第 4 章:インテル(R) サーバ マネージャ セットアップのトラブルシューティング

セットアップがインテル(R) サーバ マネージャをインストールできませんでした

インストールは正常に完了したと見受けられますが、インテル(R)サーバマネージャが Windows の [スタート] メニュー/Linux のメイン メニューにありません。ログ ファイルで、セットアップ プロセスで何が失敗したかをチェックします。

アンインストールですべてのファイルまたはフォルダが削除されませんでした

アンインストールですべてのファイルまたはフォルダが削除されませんでした。この場合、インテル(R)サーバマネージャを再インストールする前に、残りのフォルダを手動で削除してください。

ネットワークの名前解決に関する問題

インテル(R) サーバ マネージャが管理できるコンピュータを見つけることができないか、検出されたコンピュータを [マイ コンピュータ] に追加できません。ネットワークの名前解決に関する問題がこの原因であることがあります。

(このページは意図的に空白にされています。)

付録 A:セットアップに関する参照情報

サポートされているハードウェア

ここでは、インテル(R)サーバマネージャ 8.40 でサポートされているインテル サーバ ボードとプラットフォームのリストを掲載します。

- 標準 インテル(R)サーバマネージャ インストールのサポート
- SMaRT ツールと カスタムインストールのサポート

下の図は、各タイプのインストールでサポートされているサーバ プラットフォームの説明に使用されます。

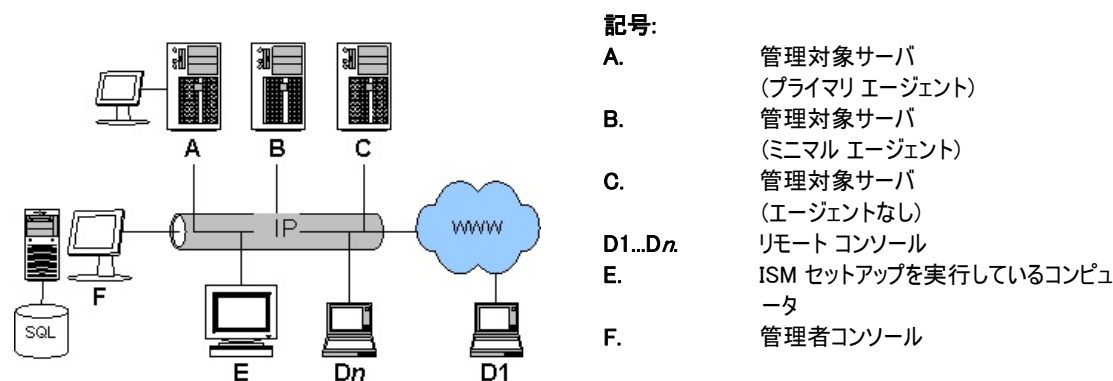


図 7. インテル(R) サーバ マネージャ セットアップ

表 15. インテル(R)サーバマネージャ セットアップでサポートされているプラットフォーム

インテル(R) 製品	管理対象サーバ(プライマリ エージェント) (A)	管理対象サーバ(ミニマル エージェント) (B)	管理対象サーバ(エージェントなし) (C)	リモート コンソール (D)	セットアップ を実行しているコンピュータ (E)	管理者コンソール (F)
SBX44	サポート			サポート	サポート	サポート
SBX82	サポート			サポート	サポート	サポート
SBXL52	サポート			サポート	サポート	サポート
SE7320EP2	サポート			サポート	サポート	サポート
SE7525RP2	サポート			サポート	サポート	サポート
TIGPR2U			サポート			

インテル(R)製品	管理対象サーバ(プライマリエージェント)(A)	管理対象サーバ(ミニマルエージェント)(B)	管理対象サーバ(エージェントなし)(C)	リモートコンソール(D)	セットアップを実行しているコンピュータ(E)	管理者コンソール(F)
TIGPT1U			サポート			
SE7210TP1-E			サポート	サポート	サポート	サポート
SE7221BA1	サポート			サポート	サポート	サポート
SE7221BK1-E	サポート			サポート	サポート	サポート
SE7320SP2	サポート			サポート	サポート	サポート
SE7320VP2	サポート			サポート	サポート	サポート
SE7501BR2			サポート	サポート	サポート	サポート
SE7501HG2			サポート	サポート	サポート	サポート
SE7501VW2			サポート	サポート	サポート	サポート
SE7520AF2	サポート	サポート [1]	サポート [1]	サポート	サポート	サポート
SE7520BD2	サポート	サポート [1]	サポート [1]	サポート	サポート	サポート
SE7520JR2	サポート	サポート [1]	サポート [1]	サポート	サポート	サポート
SE7525GP2	サポート			サポート	サポート	サポート
SE8500HW4	サポート	サポート	サポート [1]	サポート	サポート	サポート
SE7230NH1-E	サポート			サポート	サポート	サポート
SHG2			サポート	サポート	サポート	サポート
SR870BH2			サポート	サポート		
SR870BN4			サポート	サポート		
SSH4			サポート	サポート	サポート	サポート

注:

1. インテル(R) マネージメント モジュールが必要です。

表 16. コンポーネントでサポートされているインテル(R)サーバボードとプラットフォーム

インテル(R)製品	(OFU)	(GLI)プロキシ	ARSCビューア機能	ARSCビューアによるリモート管理機能	SNMPサブエージェント
SBX44	サポート	サポート	サポート	無し	サポート
SBX82	無し	サポート	サポート	無し	サポート
SBXL52	無し	サポート	サポート	無し	サポート
SE7320EP2	無し	サポート	サポート	無し	リリース ノートを参照
SE7525RP2	無し	サポート	サポート	無し	リリース ノートを参照
SE7210TP1-E	無し	サポート	サポート	無し	無し

インテル(R) 製品	(OFU)	(CLI) プロキシ	ARSC ビューア 機能	ARSC ビューアによるリモ ート管理機能	SNMP サブエー ジェント
SE7221BA1	無し	無し	サポート	無し	サポート
SE7221BK1 -E	サポート	サポート	サポート	無し	サポート
SE7320SP2	サポート	サポート	サポート	無し	サポート
SE7230NH1 -E	無し	無し	サポート	無し	サポート
SE7320VP2	サポート	サポート	サポート	無し	サポート
SE7501BR2	無し	サポート	サポート	無し	無し
SE7501HG2	無し	サポート	サポート	無し	無し
SE7501WV2	無し	サポート	サポート	無し	無し
SE7520AF2	サポート	サポート	サポート	サポート[3]	サポート
SE7520BD2	サポート	サポート	サポート	サポート[3]	サポート
SE7520JR2	サポート	サポート	サポート	サポート[3]	サポート
SE7525GP2	サポート	サポート	サポート	無し	サポート
SE8500HW4	サポート	サポート	サポート	サポート[3]	サポート [4]
SHG2	無し	サポート	サポート	無し	無し
SR870BH2	無し	[2]	サポート	無し	無し
SR870BN4	無し	[2]	サポート	無し	無し
SSH4	無し	サポート	サポート	無し	無し

注:

1. Microsoft Windows 用のみ利用可能です。バージョン 4.2 には、インテル(R)サーバマネージャ 8.40 でサポートされているすべてのプラットフォームに関する情報は含まれていません。リストされているプラットフォーム用のインテル デプロイメント ツールキット CD に入っています。
2. インテル(R)サーバマネージャ セットアップのカスタム インストールまたはサイレント インストールを使用した DPCCLI プロキシのインストールはサポートされていません。これらのプラットフォームは、サポートされているプラットフォームにインストールされた DPCCLI プロキシから CLI 2.2 を使用してリモート管理できます。
3. Linux オペレーティングシステムへの ARSC ビューアのインストールでは、インテル(R)サーバマネージャはスタンドアロンインストールのみをサポートします。必要なインテル® マネージメント モジュール管理対象サーバ上のアドバンスド エディション
4. On-board Fiber Channel SNMP サブエージェントは使用できません。

表 17. インテル(R)サーバマネージャ 8.40 CD 同梱のインテル(R) サーバ ボード

インテル(R) サーバ ボード	インテル(R) 製品タイプ		
	ボックス版ボード	統合ボード/ シャーシ	OEM
インテル サーバ ボード SE7525GP2	サポート	サポート [1]	--
インテル サーバ ボード SE7520BD2	サポート	サポート [2]	--
インテル エントリー サーバ ボード SE7210TP1-E	サポート	サポート [3]	--
インテル サーバ ボード SE7520JR2	サポート	--	[7]
インテル サーバ ボード SE7221BA1	サポート	--	--
インテル エントリー サーバ ボード SE7221BK1-E	サポート	サポート [3]	--
インテル サーバ ボード SE7520AF2	サポート	サポート [4]	--
インテル サーバ ボード SE7320SP2	サポート	--	--
インテル サーバ ボード SE7320VP2	サポート	--	--
インテル サーバ ボード セット SE8500HW4	--	サポート [5]	--
インテル サーバ コンピュータ ブレード SBXL52	サポート	[6]	--
インテル サーバ コンピュータ ブレード SBX82	サポート	[6]	--
インテル サーバ コンピュータ ブレード SBX44	サポート	[6]	--
インテル サーバ ボード SE7320EP2	サポート	--	--
インテル サーバ ボード SE7525RP2	サポート	--	--
インテル サーバ ボード SE7230NH1-E	サポート	サポート [8]	--

注:

1. インテル エントリー サーバ シャーシ SC5275-E に統合されています。
2. インテル サーバ シャーシ SC5300 またはインテル サーバ シャーシ SC5300 BRP に統合されていません。
3. インテル サーバ シャーシ SC1400 に統合されています。
4. インテル サーバ シャーシ SC5300 LX に統合されています。
5. インテル(R) サーバ プラットフォーム SR6850HW4 およびインテル サーバ プラットフォーム SR4850HW4
6. インテル サーバ コンピュータ ブレードはユーザによって統合されます。インテル(R)サーバマネージャ 8.40 では、インテル ブレード センター シャーシ SBCE と少なくとも 1 つのインテル シャーシ マネージメント モジュール SBCECMM がサポートされています。
7. 詳細は、OEM プロバイダにお問い合わせください。
8. インテル® サーバ プラットフォーム SR1475NH1-E (インテル® サーバ シャーシ SC1475 組み込みのインテル サーバ ボード SE7230NH1-E)

表 18. サポートされている管理コントローラのサーバボード別リスト

インテル(R) サーバボード	管理コントローラ	インテル マネージメント モジュール プロフェッショナル エディション	インテル マネージメント モジュール - アドバンスド エディション
インテル サーバボード SE8500HW4	BMC[1]	標準	アップグレード オプション
インテル サーバボード SE7520AF2, SE7520BD2, SE7520JR2	mBMC	アップグレード オプション	アップグレード オプション
インテル エントリー サーバボード SE7221BK1-E, SE7210TP1-E; インテル サーバボード SE7525GP2, SE7320SP2, SE7320VP2	mBMC	--	--
インテル サーバボード SE7520EP2, SE7525RP2, SE7221BA1, SE7230 NH1-E	ASIC[2]	--	--
インテル サーバ コンピュート プレート SBXL52,	--	--	--
インテル サーバ コンピュート プレート SBX44, SBX82	BMC	--	--

注:

1. プロフェッショナル エディションかアドバンスド エディションの BMC。
2. このインテル サーバボードには、Linux オペレーティング システムで特別な設定手順を実行して、インテル サーバ マネージャ 8.40 がセンサを読み取れるようにする必要があります。

レガシー インテル(R) サーバボードのサポート

LANDesk システム マネージャのレガシー バージョンがいくつかインバンドでサポートされています。[管理者 コンソールの基本設定] パネルの [レガシー サポート] オプションを参照してください。インテル(R)サーバ マネージャ 8.40 では、インテル(R)サーバ マネージャとインテル サーバ コントロール (ISC) のレガシー バージョンはインバンドでサポートされていません。

表 19. インテル(R) サーバ マネージャ 8.40 のレガシー製品との互換性

インテル(R)サーバ 製品	インテル(R)サーバ マネージャ	ISC	LANDesk 製品	インテル(R)サーバ マネージャ 8.40 管理者コンソールで管理できるか?
インテル エントリ サーバ ボード SE7210TP1-E	5.8.x	--	--	OOB と CLI
インテル サーバ ボード SE7501BR2, SE7501HG2, SE7501WV2, SHG2	5.5.7	--	--	OOB と CLI
インテル サーバ ボード SR870BH2, SR870BN4	6.2	--	--	OOB と CLI
インテル SPSH4/SRSH4 サーバ システムと	5.x	3.5	--	OOB と CLI
インテル サーバ コンピュート ブレード SBX44, SBXL52	5.6	--	--	8.40 にアップグレード後インバンドとアウトオブバンド
インテル(R) サーバ ボード SE7501CW2, SE7505VB	--	--	--	OOB と CLI

表 20. インテル(R)サーバ マネージャ 8.40 でサポートされているインテル(R) レガシー プラットフォーム

インテル(R) 製品	SMaRT ツール v4.3	One-Boot Flash Update (OFU)	コマンドライン インタフェース (CLI)	アドバンスドリモート サーバ コントロール (ARSC)	SNMP サブエージェント
SE7210TP1-E	サポート	サポート	サポート	非サポート	非サポート
SE7501BR2	サポート	サポート	サポート	非サポート	非サポート
SE7501HG2	サポート	サポート	サポート	非サポート	非サポート
SE7501WV2	サポート	サポート	サポート	非サポート	非サポート
SHG2	サポート	サポート	サポート	非サポート	非サポート
SR870BH2	サポート	非サポート	[1]	非サポート	非サポート
SR870BN4	サポート	非サポート	[1]	非サポート	非サポート
SSH4	サポート	サポート	サポート	非サポート	非サポート

注:

1. Intel® Server Manager 8.40 からの CLI プロキシのインストールはサポートされていません。

インテル(R)サーバマネージャ 8.40 の機能

表 21. サポートされている Intel® Server Manager 8.40 機能 (オペレーティング システム別にリスト)

機能	Microsoft Windows	Linux
ARSC ビューア	サポート	*
キーボード、ビデオ、マウスのリモート ARSC ビューアへのリダイレクションが有効	サポート	サポート
SMaRT ツール	サポート	非サポート
DPCCLI プロキシ	サポート	サポート
リモート DPCCLI クライアントによる制御	サポート (OOB)	サポート (OOB)
管理者コンソール	サポート	サポート (Linux 上の管理者コンソールは Linux を実行しているコンピュータの み管理できる。)
サーバのインストール(プライマリ エージェント)	サポート	サポート
サーバのインストール(最小エージェント)	サポート	サポート
サーバのインストール(エージェントなし)	サポート	サポート
インテル(R)サーバマネージャ セットアップ	サポート	サポート
リモート コンソール	サポート	サポート
サイレント インストール	サポート	サポート
ベースボード SNMP サブエージェント	サポート	サポート
オンボード NIC SNMP サブエージェント	サポート	非サポート
オンボード SCSI RAID SNMP サブエージェント	サポート	非サポート
オンボード SATA RAID SNMP サブエージェント	サポート	非サポート
OFU	サポート	非サポート
電源監視	サポート	非サポート
メモリ スペアリング、ミラーリング、RAID、 ホットスワップ	サポート	非サポート
オンボード ファイバ チャンネル インストール メンテーション	非サポート	非サポート
SOL	OOB のみ	OOB のみ
シリアル コンソール リダイレクション	非サポート	非サポート
ダイレクト シリアル モデム管理	非サポート	非サポート
シリアル ページング アラート	非サポート	非サポート
電子メール アラート	サポート	サポート

機能	Microsoft Windows	Linux
ポップアップ アラート	サポート	非サポート
wall コマンドを使用して端末ウィンドウへアラート	非サポート	サポート
OS の正常シャットダウン	サポート	サポート
OS ウォッチドッグ タイマー	サポート	サポート
IP アドレスの同期 (BMC と OS)	サポート	サポート

注:インテル(R) EM64T プラットフォーム サポートおよびシステム要件の最新要件については、リリース ノートを参照してください。

インテル(R) サーバ マネージャ 8.40 管理エージェント

管理エージェントは、オペレーティング システムに常駐するソフトウェア コンポーネントで、インテル(R)サーバ マネージャ を その OS、ネットワーク、およびベースボード管理コントローラに接続します。

Microsoft Windows での インテル(R)サーバ マネージャ サービスのリスト

Windows 2000、Windows 2003、および Windows XP では、インストールされているコンポーネントにより、インテル(R)サーバ マネージャ で複数のサービスを実行することができます。

- SSM – インテル® システム スペース マネージャ HTTP サーバ、ノード検索エンジン、ノード ログ ファイル、ヘルス マネージャ、保存と転送、および SNMP などの インテル(R)サーバ マネージャ コンポーネントを、インテル(R)サーバ マネージャ の必要に応じてロードおよびアンロードします。
- BSA – インテル ブートストラップ エージェントインテル(R)サーバ マネージャ コンピュータの検出を有効とし、BIOS とドライバの更新を中心にパッケージ転送用の安全なメカニズムを提供します。
- LSM_WBA–インテル(R)サーバ マネージャ Windows ブリッジ エージェント
- LANDesk Message Handler Service – モデムの呼び出しの送受信を監視し、アラート イベントをトリガします。
- インテル サーバ マネージャ SNMP サービス – SNMP プラットフォーム イベント トラップをベースボード管理コントローラ (BMC) から直接受信し、インテル(R)サーバ マネージャ イベント システムへリレーします。
- USM – ユーザ スペース マネージャ。サービスではありませんが、ログオン時に各ユーザに対して USM が起動します。USM では、トレー アイコンとポップアップ アラートがホストされます。
- Resident Agent – インテル(R)サーバ マネージャ のセキュリティ機能を有効にします。このサービスは、Windows XP SP2 上の Windows Firewall Exceptions リストに表示されます。
- Intel ISM WDT–ウォッチドッグ タイマー リセット サービス (*IPMI 対応コンピュータのみ*)

Linux での インテル(R)サーバマネージャ サービスのリスト

Linux では、インテル(R) サーバ マネージャ は以下のサービスを使用します。

- pds2 – インテル Ping 検出サービス。インテル(R)サーバマネージャ がネットワーク上の他の インテル(R)サーバマネージャ コンピュータを検索できるようにします。
- lsm– インテル(R)サーバマネージャがコンピュータ管理とパフォーマンス監視を提供します。これは、バックエンド コミュニケーション ポート (BCP) です。このサービスを使用すると、インテル(R)サーバマネージャ からターゲットハイイベントを送信できます。
- xinetd – Extended Internet Services Daemon。指定したネットワーク ポートでデータが受信された場合に、インテル(R)サーバマネージャ でプログラムを実行できるようにします。
- cba8–コモン ベース エージェントは Web サービスを提供します。
- ウォッチドッグ–IPMI ウォッチドッグ タイマーこれは、オペレーティング システムの無応答の検出に使用します。
- ipsync–IP アドレスを BMC に同期させます。
- lbridge–インテル(R)サーバマネージャ Linux ブリッジ エージェント
- lsmipmisensord–インテル(R)サーバマネージャ が IPMI センサまたは ASIC センサにアクセスできるようにします。
- ldipmid–Provides インテル(R)サーバマネージャ がインバンドとアウトオブバンドの IPMI 機能を使用できるようにします。

インテル(R)サーバマネージャ セットアップ ログ ファイル

セットアップで **logfile.log** と **setup.log** がインストール ディレクトリに生成されます。インストールが中断した場合は、システムの root フォルダにログ ファイル **setup.log** が生成されます。

サイレント インストールでは、エラーが発生した場合、**silent.log** というファイルが **silent.txt** ファイルと同じディレクトリに作成されます。

パスワード

インストール中、さまざまなユーザ名とパスワードを入力するように指示されます。サイレント インストールを行う場合は、これらのユーザ名とパスワードを silent.txt ファイルに追加する必要があります。

表 22. Windows コンピュータにインストールする際 Intel(R)サーバマネージャで必要なパスワード

必要なユーザ名またはパスワード	ローカル インストール	複数システムのインストール
BMC ユーザ ID	必要 [1]	必要 [1]
BMC パスワード	不要 [2]	不要 [2]
管理者権限を持つ Windows ユーザ	必要	必要 [3]
Windows ユーザ パスワード	必要	必要
SQL サーバ ユーザ ID	不要 [4]	不要 [4]
SQL サーバ パスワード	不要 [4]	不要 [4]
管理者認証パスワード	管理者インストールのみ [5]	管理者インストールのみ [5]

注:

1. Intel(R)サーバマネージャは BMC ユーザ 0 (ヌル ユーザ) を使用します。
2. Intel (R)サーバマネージャ セットアップで指定した BMC パスワードは、チャンネル 0 上のヌル ユーザの既存の BMC パスワードを上書きします。
3. リモート システムは、Intel(R)サーバマネージャ セットアップを実行しているコンピュータと同じドメインになければなりません。
4. Intel(R)サーバマネージャ セットアップでは、管理者コンソールをインストールする際、Microsoft SQL Server が自動的にインストールされ、ユーザ アカウントとパスワードが作成されます。
5. Intel (R)サーバマネージャ をインストールするとき、管理者コンソールのパスワードは「強力」なパスワードでなければなりません (パスワードには英数字と特殊記号を含める必要があります)。

表 23. Linux コンピュータにインストールする際 インテル(R)サーバマネージャで必要なパスワード

必要なユーザ名またはパスワード	ローカル インストール	複数システムのインストール
root ユーザ パスワード	必要	必要
FTP ユーザ名	不要	必要
FTP ユーザ パスワード	不要	必要
MySQL ユーザ名	管理者インストールのみ [1]	管理者インストールのみ [1]
MySQL ユーザ パスワード	管理者インストールのみ [1]	管理者インストールのみ [1]
BMC ユーザ ID	必要 [2]	必要 [2]
BMC パスワード	不要 [3]	不要 [3]
管理者認証パスワード	管理者インストールのみ [4]	管理者インストールのみ [4]

注:

1. 管理者コンソールを入力する際、MySQL サーバをインストールし、ユーザ アカウントとパスワードを作成する必要があります。(詳細は、[「Linux インストールの詳細手順」](#)を参照してください。)
2. インテル(R)サーバマネージャ は BMC ユーザ 0 を使用します。
3. インテル(R)サーバマネージャ セットアップで指定した BMC パスワードは、チャンネル 0 上のヌル ユーザの既存の BMC パスワードを上書きします。
4. インテル(R)サーバマネージャ をインストールするとき、管理者コンソールのパスワードは「強力」なパスワードでなければなりません (パスワードには英数字と特殊記号を含める必要があります)。

付録 B: Red Hat Enterprise Linux セットアップ

この付録では、必要な Red Hat Linux ソフトウェア コンポーネントをインストールする手順を詳しく説明します。

複数システムのインストール

複数システム (1 台の Linux コンピュータから別の Linux コンピュータへの) のインストールでは、以下を確認します。

- a. Linux ファイアウォールとネットワーク ルータを使用する場合、ftp と Telnet トラフィック (TCP ポート 20、21、23) をリモート インストールすることができます。
- b. 「レガシー サーバ」パッケージ + Telnet 拡張パッケージがインストールされます。
- c. 「FTP サーバ」パッケージがインストールされました。
- d. vsftpd サービスが実行されています。
- e. インストール中使用される root 以外のユーザ アカウントが ftp グループに追加されました。
- f. xinetd サービスが自動的に実行されます。

Linux に 管理者コンソールをインストールする

Linux コンピュータに インテル(R)サーバマネージャ 管理者コンソールをインストールする場合、MySQL をインストールして、インテル(R)サーバマネージャ のユーザ アカウントを設定する必要があります。インテル(R)サーバマネージャ セットアップを実行する前に、以下を確認してください。

- a. 「MySQL」クライアント パッケージがインストール先のコンピュータにインストールされている。
- b. **mysql-3.23.58** パッケージがインストールされている。
- c. mysql サービスが開始されている。
- d. インテル(R)サーバマネージャ で使用するための mysql ユーザ (root ユーザではない) が作成されている。

上記の各手順の詳細説明は、この付録で後述されています。

Red Hat Linux 上で インテル(R)サーバマネージャ セットアップを実行する方法

1. 管理者権限を持つアカウントを使用してログオンします。
2. インテル(R)サーバマネージャ CD を CD-ROM ドライブに挿入します。CD は自動的にマウントされます。
3. 端末のウィンドウを開きます。
4. 次のコマンドを入力します。


```
cd /mnt/cdrom/ism/Software/
./Setup
```

Linux パッケージのインストール

次の表に、Red Hat Enterprise Linux に必要なパッケージを示します。一部のプログラムは、Linux のインストール中にデフォルト設定を使用してインストールされます。アスタリスク(*) の付いたパッケージは、デフォルトでインストールされません。インテル サーバ マネージャ 8.40 をインストールする前に、システム管理者がインストールする必要があります。

表 24. Red Hat Enterprise Linux に必要なパッケージのリスト

Red Hat Enterprise Linux 3
インテル(R)サーバマネージャ サーバのインストール
perl :RPM 5.8.0-88.4 または binary 5.8.0
python :RPM 2.2.3-5 または binary 2.2.3
pygtk2 :RPM 1.99.16-8
sudo :RPM 1.6.7p5-1 または binary 1.6.7.p5
bash :RPM 2.05b-29 または binary 2.05b.0(1)-リリース
xinetd :RPM 2.3.12-2.3E または binary 2.3.12
Mozilla :レビジョン 1.4 以降 (1.7 推奨)
openssl :RPM 0.9.7a-22.1 または binary 0.9.7a
perl-CGI :RPM 2.81-88.4 または binary 2.81-88.4
perl-Filter :RPM 1.29-3 または binary 1.06
*sysstat :RPM 4.0.7-4 または binary 4.0.7
*lm_sensors-2.9.1 (IPMI 非対応コンピュータのセンサ検出に必要)
w3c-libwww -5.4.0-5.i386.rpm
インテル(R)サーバマネージャ 管理者コンピュータ
lm_sensors を除く上記全て
*mysql :RPM 3.23.58-2.3 または binary 3.23.58
*mysql-server :RPM 3.23.58 または binary 3.23.58
*perl-DBI :RPM 1.32-5 または binary 1.32

Red Hat Enterprise Linux 3
*perl-DBD-mysql:RPM 2.1021-3 または binary 1.2401
* flash-plugin-6.0.81-1.i386.rpm
*net-snmp:RPM 5.0.8-11 または binary 5.0.9 (SNMP トラップの送信に必要)

注:

1. FTP サーバ用の vsftpd パッケージはリモート インストールに必要です。

Red Hat Linux インストール中にインストールするパッケージ

Red Hat Linux のインストール中に、「クイック スタート」に掲載されているパッケージのうち一部のパッケージをインストールすることができます。Red Hat インストーラから追加のパッケージをインストールするか尋ねられたら、以下のいずれかを選択します。

- 「開発ツール」パッケージ
- 「カーネル開発ツール」パッケージ
- 「レガシー ソフトウェア開発」パッケージ
- 「グラフィカル インターネット」パッケージ
- 「システム ツール」パッケージ、sysstat と net-snmp-utils 拡張パッケージ

インテル(R)サーバマネージャ のリモート インストール用:

- 「レガシー サーバ」パッケージ + Telnet 拡張パッケージ
- 「FTP サーバ」パッケージ

管理者コンソールのインストール時:

- 「MySQL」パッケージ (クライアント コンポーネント)
MySQL サーバ コンポーネントもインストールする必要があります。

perl-CGI-2.81-88.7.i386.rpm

1. Red Hat Enterprise Linux 3 disk 2 を CD ROM ドライブに挿入します。
2. 端末のウィンドウを開きます。
3. 端末ウィンドウで、
cd /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/ と入力します。
4. 端末ウィンドウで、
rpm -i perl-CGI-2.81-88.7.i386.rpm と入力します。

w3c-libwww-5.4.0-5.i386.rpm パッケージ

1. Red Hat Enterprise Linux 3 disk 2 を CD ROM ドライブに挿入します。
2. 端末のウィンドウを開きます。
3. 端末ウィンドウで、
`cd /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/` と入力します。
4. 端末ウィンドウで
`ls | grep libwww`
と入力し、w3c-libwww-5.4.0-5.i386.rpm パッケージがあることを確認します。ない場合は、残りの Red Hat CD (ディスク 3 以降) でこの rpm を検索してください。
5. 端末ウィンドウで、
`rpm -i w3c-libwww-5.4.0-5.i386.rpm` と入力します。

「開発ツール」パッケージ

1. Gnome グラフィカル インタフェースで、Red Hat システム メニュー アイコン、[システム設定]、[アプリケーションの追加/削除]をクリックします。
2. [アプリケーションの追加/削除] で、[開発ツール] ボックスを選択します。
3. [更新] をクリックします。

カーネル開発ツール パッケージのインストール

1. Gnome グラフィカル インタフェースで、Red Hat システム メニュー アイコン、[システム設定]、[アプリケーションの追加/削除]をクリックします。
2. [アプリケーションの追加/削除] で、[カーネル開発ツール] ボックスを選択します。
3. [更新] をクリックします。

レガシー ソフトウェア開発パッケージ

1. Gnome グラフィカル インタフェースで、Red Hat システム メニュー アイコン、[システム設定]、[アプリケーションの追加/削除]をクリックします。
2. [アプリケーションの追加/削除] で、[レガシー ソフトウェア開発] ボックスを選択します。
3. [更新] をクリックします。

グラフィカル インターネット パッケージ

1. Gnome グラフィカル インタフェースで、Red Hat システム メニュー アイコン、[システム設定]、[アプリケーションの追加/削除]をクリックします。
2. [アプリケーションの追加/削除] で、[グラフィカル インターネット] ボックスを選択します。
3. [更新] をクリックします。

システム ツール パッケージ

1. Gnome グラフィカル インタフェースで、Red Hat システム メニュー アイコン、[システム設定]、[アプリケーションの追加/削除]をクリックします。
2. [アプリケーションの追加/削除] で、[システム ツール] ボックスを選択します。
3. [システム ツール] の隣の [詳細] をクリックし、[sysstat] と [net-snmp-utils] のチェックボックスを選択します。その他のデフォルト設定は選択されたままにしておきます。
4. [OK] をクリックして、パッケージのリストに戻ります。
5. [更新] をクリックします。

kernel-hugemem-unsupported-2.4.21-15.EL.i686.rpm パッケージ

1. Red Hat Enterprise Linux 3 disk 2 を CD ROM ドライブに挿入します。
2. 端末のウィンドウを開きます。
3. 端末ウィンドウで、
`cd /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/` と入力します。
4. 端末ウィンドウで
`ls | grep hugemem`
と入力し、kernel-hugemem-unsupported-2.4.21-15.EL.i686.rpm パッケージがあることを確認します。ない場合は、残りの Red Hat CD (ディスク 3 以降) でこの rpm を検索してください。
5. 端末ウィンドウで、
`rpm -i kernel-hugemem-unsupported-2.4.21-15.EL.i686.rpm` と入力します。

レガシー サーバ パッケージ

1. Gnome グラフィカル インタフェースで、Red Hat システム メニュー アイコン、[システム設定]、[アプリケーションの追加/削除]をクリックします。
2. [アプリケーションの追加/削除] で、[レガシー サーバ] ボックスを選択します。

3. [レガシー サーバ] の隣の [詳細] をクリックし、[telnet] を選択します。その他のデフォルト設定は選択されたままにしておきます。
4. [OK] をクリックして、パッケージのリストに戻ります。
5. [更新] をクリックします。

FTP サーバ パッケージ

Red Hat Enterprise Linux 3 ワークステーション:アドバンスド サーバまたはエンタープライズ サーバから FTP RPM を取得し、RPM コマンドを使用して RPM をインストールします。

Red Hat Enterprise Linux 3 アドバンスド サーバとエンタープライズ サーバ:

1. Gnome グラフィカル インタフェースで、Red Hat システム メニュー アイコン、[システム設定]、[アプリケーションの追加/削除]をクリックします。
2. [アプリケーションの追加/削除] で、[開発ツール] ボックスを選択します。
3. [更新] をクリックします。

MySQL パッケージのインストール

1. Gnome グラフィカル インタフェースで、Red Hat システム メニュー アイコン、[システム設定]、[アプリケーションの追加/削除]をクリックします。
2. [アプリケーションの追加/削除] で、[開発ツール] ボックスを選択します。
3. [更新] をクリックします。

mysql-3.23.58 パッケージ

1. www.mysql.org かLinux配布サイトから MySQL rpm をダウンロードします。
2. 端末のウィンドウを開いて、次を入力します。

```
cd <location of downloaded RPM>
rpm -i mysql-3.23.58-2.3.i386.rpm
```

lm_sensors パッケージ

このパッケージは、インテル® サーバ ボード SE7221BA1、SE7230NH1-E、SE7525RP2、SE7320EP2 のみで必要です。

lm_sensors パッケージのインストールと設定は、次の手順で行います。

1. root としてログインします。

2. 次のパッケージを <http://secure.netroedge.com/~lm78> から `/usr/src/lmsensors` へダウンロードします。
 - a. `i2c-2.9.1.tar.gz`
 - b. `lm_sensors-2.9.1.tar.gz`
3. インテル(R)サーバマネージャ CD の `/mnt/cdrom/ism/Software/linux/32bit/server/lm85` to `/usr/src/lmsensors` から以下のファイルをコピーします。
 - a. `install.sh`
 - b. `lm85.conf`
 - c. `lmsensors.conf`
4. `/usr/src/lmsensors` で、
`./install.sh`
と入力し、`lm_sensors` のインストールと設定を完了します。
5. インテル(R)サーバマネージャ によって、`lm85.conf` ファイルが `/usr/Intel/ism/conf/` にインストールされます。`lm85.conf` を編集して、システムにあるファンの数のみを表示します。デフォルトファイルに CPU、背面、前面、ベースボードの 4 つのファンが表示されます。システムでファンが何台使用されており、シャーシ内に使用可能なファンが何台あるかを確認します。ファンを取り外すには、セミコロンをそのファンのパラグラフの各行の始めに付けてコメントアウトします(下の例を参照)。

```
    ; FANS
    ; file=fan3
    ; label=Front Fan
    ; NominalSpeed=4000
    ; MinThreshold=240
    ; FanCalculation=
```

設定ファイルの編集

snmpd 設定ファイルの編集

SNMP ネットワーク管理アプリケーションのベースボード SNMP サブエージェントを使用する場合、この手順を行います。

手順:

1. テキスト エディタで `/etc/snmp/snmpd.conf` を開きます。
2. 次の行を追加します。

```
# Turn on agentx support
master agentx
```

```
# Enable V2 trap sending
trap2sink localhost <name>
```

3. 設定ファイルに常に次の行が含まれていることが必要です。手順 2 で使用した snmp コミュニティ名に合わせて、<name> を変更します。
rwcommunity <name>
4. 変更を保存します。

ユーザを FTP グループに追加する方法

1. テキスト エディタで Open /etc/group を開きます。
2. FTP を含む行を見つけます。
3. ユーザ名を追加します。複数ユーザ名はカンマ (スペースなし) で分離します。
4. ファイルを保存します。

サービスの起動

vsftpd サービスの起動方法

1. Gnome グラフィカル インタフェースで、Red Hat システム メニュー アイコン、[システム設定]、[サーバ設定]、[サービス] をクリックします。
2. 「vsftpd」サービスのボックスを選択し、[開始] をクリックします。
3. [保存] をクリックします。
4. [終了] をクリックします。

xinetd サービスが起動されたことを確認する方法

1. Gnome グラフィカル インタフェースで、Red Hat システム メニュー アイコン、[システム設定]、[サーバ設定]、[サービス] をクリックします。
2. 「xinetd」サービスのボックスを選択します。
3. 「xinetd」がまだ起動されていない場合、[開始] をクリックします。
4. [保存] をクリックします。
5. [終了] をクリックします。

snmpd と snmptrapd サービスが起動されたことを確認する方法

1. Gnome グラフィカル インタフェースで、Red Hat システム メニュー アイコン、[システム設定]、[サーバ設定]、[サービス] をクリックします。
2. 「snmpd」と「snmptrapd」サービスのボックスを選択します。
3. 「snmpd」と「snmptrapd」がまだ起動されていない場合、[開始] をクリックします。
4. [保存] をクリックします。
5. [終了] をクリックします。

MySQL サービスの起動方法

1. Gnome グラフィカル インタフェースで、Red Hat システム メニュー アイコン、[システム設定]、[サーバ設定]、[サービス] をクリックします。
2. 「MySQL」サービスのボックスを選択し、[開始] をクリックします。
3. [保存] をクリックします。
4. [終了] をクリックします。

新規の MySQL ユーザを追加する方法

1. 端末のウィンドウを開きます。
2. mysql クライアント セッションを開きます。次を入力します。
mysql
3. mysql のプロンプトで、次のコマンドを 1 行に入力し、最後にセミコロンを付けます。
grant all privileges on *.* to '*<ISMmysql>*'@'localhost' identified by '*<ISMpassword>*'
with grant option;
where *<ISMmysql>* is the new mysql user id and *<ISMpassword>* is the mysql password.
4. mysql クライアント セッションを終了します。次を入力します。
quit

付録 C:インテル® EM64T プラットフォーム セットアップ

インテル サーバ マネージャ 8.40 は、インテル EM64T プラットフォーム対応の次のオペレーティング システムでサポートされています。

- Red Hat Enterprise Linux 3 (Intel 3 EM64T Edition), Update 4
- SuSE LINUX Enterprise Server 9 (インテル® EM64T プラットフォーム用), Service Pack 1

注:必要なパッケージの最新リストはリリース ノートを参照してください。

Red Hat Packages (インテル® EM64T エディション) のインストール

インテル サーバ マネージャ 8.40 をサポートするには、デフォルトの Red Hat パッケージと次のパッケージをインストールします。

- xpdf (オフィス/プロダクティビティ パッケージ グループ)
- 開発ツール (デフォルト パッケージ)
- レガシ ソフトウェア開発 (デフォルト パッケージ)
- システム ツール パッケージ グループ: デフォルト パッケージ、plus net-snmp-utils、sysstat
- 互換性 アーキテクチャ サポート (デフォルト パッケージ)
- レガシ ネットワーク サーバ (Linux コンピュータからの複数インストール)
- xorg-x11 6.8.2-1 (インテル® コンピュート ブレード サーバのみ)

表 25.Red Hat Enterprise Linux 3 パッケージ (インテル® EM64T エディション) に最低限必要なバージョン

Red Hat Enterprise Linux 3
インテル サーバ マネージャ 管理対象サーバのインストール
bash-2.05b-29
Mozilla -1.5 以降 (1.7)
net-snmp-5.0.8-11
openssl-0.9.7a-22.1
perl-5.8.0-88.4
perl-CGI-2.81-88.4
perl-DBI-1.32-5
perl-Filter-1.29-3
pygtk2-1.99.16-8
python-2.2.3-5
sudo-1.6.7p5-1
sysstat-4.0.7-4
xinetd-2.3.12-2.3E
lm_sensors-2.9.1 (IPMI 非対応コンピュータのセンサ検出に必要)
libstdc++-3.2.3-47.i386.rpm (インテル コンピュート ブレード サーバに必要)
xorg-x11-deprecated-libs-6.8.2-1.FC3.13.i386.rpm (http://download.fedora.redhat.com/pub/fedora/linux/core/updates/3/i386/ からダウンロード可)(インテル コンピュート ブレード サーバ用)
w3c-libwww-5.4.0-5.i386.rpm (One-boot Flash Update ユーティリティで必要)
インテル サーバ マネージャ管理者コンピュータ
lm_sensors を除く上記全て
*mysql-3.23.58-2.3
*mysql-server-3.23.35
*perl-DBD-MySQL-2.1021-3

注:

- One-Boot Flash Update (OFU) ユーティリティに必要なパッケージについては、インテル サーバ マネージャのリリース ノート (Release_notes.htm) を参照してください。
- vsftpd が実行されており、インテル サーバ マネージャの複数システム インストール用に設定されている必要があります。/etc/vsftpd.conf ファイルを次のように編集します。

```
write_enable=YES
local_enable=YES
anonymous_enable=NO
pasv_enable=YES
```
- インテル サーバ マネージャ管理者コンソールで mysql ユーザ アカウントとパスワードを作成します。アカウントの作成方法は、32 ビット Red Hat Linux のマニュアルを参照してください。
- DPCCLI プロキシ サーバを実行しているコンピュータでは、Telnet サービスが必要です。

5. lm センサをインストールして設定するには、インテル サーバ マネージャのリリース ノートを参照してください。

SuSE LINUX パッケージのインストール

インテル サーバ マネージャ 8.40 をサポートするには、デフォルトの SuSE LINUX パッケージと次のパッケージをインストールします(*の無いパッケージはデフォルトでインストールされます)。

表 26.SuSE LINUX 9 パッケージ (インテル® EM64T バージョン) に最低限必要なバージョン

SuSE LINUX 9 SP1 (インテル EMT64 バージョン)
インテル サーバ マネージャ管理対象サーバのインストール
bash-2.05b-29
*Mozilla -1.5 以降 (1.7 推奨)
net-snmp-5.1-80.3
openssl-0.9.7a-22.1
perl-5.8.0-88.4
*perl-DBI-1.41-28.1
*python-2.2.3
*python-gtk-2.0.0
*python-gnome-2.0.3-2
sudo-1.6.7p5-1
*sysstat-5.00.1-35.1
*xinetd-2.3.13-39.3
*lm_sensors-2.9.1 (IPMI 非対応コンピュータのセンサ検出に必要)
インテル サーバ マネージャ 管理者コンピュータ
lm_sensors を除く上記全て
*mysql-shared-4.0.18-32.1
*mysql-client-4.0.18
*mysql-4.00.18-32.1
*perl-DBD-mysql-2.9003-22.1

注:

- One-Boot Flash Update (OFU) ユーティリティに必要なパッケージについては、インテル サーバ マネージャのリリース ノート (Release_notes.htm) を参照してください。
- vsftpd が実行されており、インテル サーバ マネージャの複数システム インストール用に設定されている必要があります。/etc/vsftpd.conf ファイルを次のように編集します。

```
write_enable=YES
local_enable=YES
anonymous_enable=NO
pasv_enable=YES
```

3. インテル サーバ マネージャ管理者コンソールで mysql ユーザ アカウントとパスワードを作成します。アカウントの作成方法は、32 ビット Red Hat Linux のマニュアルを参照してください。
4. DPCCLI プロキシ サーバを実行しているコンピュータでは、Telnet サービスが必要です。
5. Im センサをインストールして設定するには、インテル サーバ マネージャのリリース ノートを参照してください。

付録 D: インテル(R) サーバ マネージャのアンインストール

インテル(R)サーバマネージャの次のリリースにアップグレードする前に、現在使用しているリリースをアンインストールする必要があります。

uninstall.exe プログラムを使用する

次の手順に従って、uninstall プログラムでローカル システムから インテル(R)サーバマネージャ ソフトウェアをアンインストールしてください。

1. システム管理者の権限でログインします。
2. インテル(R)サーバマネージャ CD を挿入して、ism¥software ディレクトリを参照しプログラムを起動します。
3. [ようこそ] 画面の [アプリケーション ナビゲーション パネル] で [開始] をクリックします。
4. [複数システムの選択] ページでローカル システムを選択します。
5. [今すぐアンインストールする] をクリックして、選択したシステムから インテル(R)サーバマネージャをアンインストールします。
6. [起動] 画面では、アンインストールの進行状況およびフィードバック メッセージを表示します。
7. [システム シャットダウン] 画面で [今すぐ再起動する] または [後で再起動する] を選択します。

リモート システムから インテル(R)サーバマネージャ をアンインストールする

次の手順に従って、1 つ以上のリモート システムおよびローカル システムから インテル(R)サーバマネージャ ソフトウェアのアンインストールを行ってください。インテル(R)サーバマネージャ CD の ism¥Software にある、Windows では uninstall.exe プログラム、Linux では uninstall スクリプトを使用します。

1. システム管理者の権限でログインします。
2. インテル(R)サーバマネージャ CD を挿入して、¥Software ディレクトリにある uninstall.exe プログラムを参照して起動します。Linux システムでは、uninstall スクリプトを参照して、そのスクリプトを起動します。
3. [ようこそ] 画面の [アプリケーション ナビゲーション パネル] で [開始] をクリックします。
4. [複数システムの選択] ページで、インテル(R)サーバマネージャ を削除したい (複数の) システムを選択します。ローカル システムを含む 1 つ以上のシステムを選択可能です。
5. [今すぐアンインストールする] をクリックして、選択したシステムから インテル(R)サーバマネージャ をアンインストールします。
6. [起動] 画面では、アンインストールの進行状況およびフィードバック メッセージを表示します。

7. [システム シャットダウン] ダイアログで (ローカル アンインストールが選択されている場合に表示されます)、
[今すぐ再起動する] または [後で再起動する] を選択します。

用語集

アドバンスドリモート サーバ コントロール (ARSC)

アドバンスドリモート サーバ コントロール アプリケーションは、管理対象サーバのキーボード、ビデオ、マウス コンポーネントに対する完全なコントロールを実現します。この種のコントロールでは、そのシステムでキーボード、モニタ、マウスを使用しているかどうかに関わらず、リモートの管理対象サーバへの仮想的な入力環境が確立されます。アドバンスドリモート サーバ コントロールは、セキュリティに守られた完全なコントロールを提供します。

コマンドライン インタフェース (CLI)

コマンドライン インタフェース (CLI)ユーティリティでは、グラフィカル ユーザ インタフェース (GUI)ではなく、コマンドラインからサーバのコントロールができます。コマンド プロンプトで、またはスクリプト ファイルから CLI コマンドを入力して、リモートでサーバの電源のオン/オフ、リモートでサーバのリセット、コンピュータ識別子のリクエスト、センサの数値の読み取り、および BMC のネットワーク設定の表示などを行うことができます。また、Perl を使用することにより、複数のリモート サーバに対してコマンドが発行できます。

コマンドライン インタフェース (CLI)には、プラットフォーム コントロール モードおよび Serial over LAN (SOL) コンソール リダイレクション モードの 2 つのモードがあります。CLI がプラットフォーム コントロール モードの場合、リモート システムに対して CLI コマンドを発行できます。CLI が SOL コンソール リダイレクションモードの場合、リモート コンソールの出力を含むリモート システムのコンソールで可能なすべてのアクティビティを LAN 接続経由で実行することが可能です。SOL では、サーバのシリアル ポートからのデータを LAN 経由でリダイレクトすることができます。

詳細は、『コマンドライン インターフェース ユーザ ガイド』を参照してください。

インテル(R)サーバマネージャ 管理者コンソール

管理者インストールでは、ネットワークにあるリモート コンピュータを管理できます。つまり、情報の表示、レポートの作成、アラートの受信、管理されている他のコンピュータの電源のオン/オフ切り換えをリモートから実行できます。リモートからコンピュータの再起動、電源オン、または電源オフを実行するには、ネットワーク上で少なくとも 1 台のコンピュータに管理者インストールがインストールされている必要があります。

インテル® サーバ マネージャのアウトオブバンド管理用設定

インテル サーバ マネージャの [エージェントなし] インストール オプションを選択すると、ターゲット サーバはアウトオブバンド管理用のみに設定されるので、サーバ コンソールやサーバ エージェントはインストールされません。アウトオブバンド管理とは、オペレーティング システムおよび電力状態から独立したサーバの管理を意味します。

インテル(R)サーバマネージャ サーバ コンソール

サーバ インストールでは、ローカルのサーバ コンピュータの情報を表示し、アラートを管理できます。このインストールでは、ユーザがほかのコンピュータを表示または管理することはできません。

インテル サーバ マネージャブリッジ エージェント

インテル サーバ マネージャ ブリッジ エージェントは管理対象サーバ上で実行され、インバンド (OS 実行中) とアウトオブバンドの監視および管理機能をインテル サーバ マネージャ 管理者コンソールに提供します。[サーバのインストール (最小エージェント)] を選択すると、インテル サーバ マネージャ ブリッジ エージェントがインストールされます。

One-boot Flash Update ユーティリティ

One-boot Flash Update ユーティリティは、オペレーティング システムの実行中にサーバ上のシステム BIOS およびファームウェア (BMC、FRU、SDR) を更新します。National Semiconductor(R) PC87431x を含むシステムでは、このユーティリティはシステム BIOS のみを更新します。BMC、FRU、SDR の更新は、IMM (インテル(R) マネージメント モジュール) がインストールされているシステムでのみサポートされています。更新処理が完了すると、次のシステムのリセット時に FRU 以外の新しく更新されたシステム BIOS とファームウェアがアクティブになります。FRU は、現在のバージョンに直接プログラムされています。

システム BIOS、BMC、SDR はそれぞれのセカンダリ フラッシュ領域にプログラムされ、更新ユーティリティは BIOS および BMC にユーザがセカンダリ フラッシュ領域を更新したことを示す内部フラグを設定します。システムのリセット後、新しいバージョンのシステム BIOS、BMC、SDR は検証されてアクティブにされます。本ユーティリティは、Windows では telnet クライアントおよびターミナル サービスを、Linux では telnet クライアントとリモート シェルを使用して、セキュリティで守られたネットワーク接続経由で実行することができます。

注: Linux 上でこのユーティリティをインストールするには、w3c ライブラリが必要です。

詳細については、インテル (R) サーバ マネージャ CD の ¥software¥windows¥32bit¥ofu にある『One-Boot Flash Update ユーティリティのインストールおよびユーザ ガイド』を参照してください。

SNMP サブエージェント

SNMP (Simple Network Management Protocol) ベースの管理システムを採用した顧客に対して、インテルでは、SNMP trap、get、set での、選択したサーバ ハードウェアとの通信用に複数の SNMP サブエージェントを提供しています。これらのサブエージェントは、オペレーティング システム (サポートされているバージョンの Windows および Linux) の一部としてインストールされている SNMP マスタ エージェントの SNMP 拡張エージェントです。サーバを監視するために SNMP ベースのサーバ監視システムを使用する場合、管理対象サーバにこれらのサブエージェントをインストールしてください。

SNMP サブエージェントの詳細については、『SNMP サブエージェントのインストールと設定ガイド』を参照してください。

注: SNMP サブエージェントは被管理サーバにのみ必要であり、管理コンソール システムには必要ではありません。インテル (R) サーバ マネージャ インストールの枠組みでは、コンソール システムが管理可能なサーバとして検出された場合 (つまり、管理可能なサーバを使用してコンソール ソフトウェアを実行している場合) を除き、インストール対象のターゲット システムとしてそのシステムが選択されていても、管理用のコンソール システムにサブエージェントをインストールすることはありません。

インデックス

B

bcp (Back-end Port service), Linux. 「マネージメント エージェント, ISM」を参照

BSA (インテル ブートストラップ エージェント). *See* management agents, ISM

C

cba8 (コモン ベース エージェント) サービス, Linux. 「マネージメント エージェント, ISM」を参照

F

ftp

Linux FTP グループ, ユーザの追加, 87

FTP

FTP サーバ パッケージの Linux へのインストール, 85

I

Intel ISM WDT (ウォッチドッグ タイマー リセット サービス). 「マネージメント エージェント, ISM」を参照

Intel® Server Maintenance and Reference (SMaRT) ツール, 57

IP アドレス

ipsync サービス, Linux. 「マネージメント エージェント, ISM」を参照

IPMI

ウォッチドッグ タイマー. 「マネージメント エージェント, ISM」を参照

仕様の URL, xiii

ipsync サービス, Linux. 「マネージメント エージェント, ISM」を参照

ISM Windows ブリッジ エージェント (LSM_WBA). 「マネージメント エージェント, ISM」を参照

ISM セットアップ

Linux で開始, 81

ログ ファイル, 77

ISM セットアップの前提条件 ISM せつとあつぷのぜんていじょうけん, 5

ISM の機能. *See* ISM, features

ISM をアンインストールする, 93

K

kernel-hugemem パッケージ

Linux へのインストール, 84

L

LANDesk メッセージ ハンドラ サービス. 「マネージメント エージェント, ISM」を参照

lbridget サービス, Linux. 「マネージメント エージェント, ISM」を参照

ldipmidaemon サービス, Linux. 「マネージメント エージェント, ISM」を参照

Linux

ftp. 「ftp」を参照

FTP サーバ パッケージ. 「FTP」を参照

ISM セットアップの開始 Linux

ISM セットアップのかいし, 81

kernel-hugemem パッケージ. 「kernel-hugemem パッケージ」を参照

lbridget. 「マネージメント エージェント, ISM」を参照

ldipmidaemon サービス. 「マネージメント エージェント, ISM」を参照

lm-sensors パッケージ. 「lm-sensors パッケージ」を参照

ismipmisensord サービス. 「マネージメント エージェント, ISM」を参照

MySQL. 「MySQL」を参照

MySQL クライアント パッケージ. 「MySQL」を参照

perl. 「perl-CGI」を参照

Red Hat Linux インストール中にパッケージをインストールする, 82

snmpd. 「SNMP」を参照

snmpd 設定ファイル. 「SNMP, snmpd」を参照

snmptrapd. 「SNMP」を参照

vsftpd. 「vsftpd」を参照

w3c-libwww パッケージ. 「w3c-libwww パッケージ」を参照

xinetd. 「xinetd」を参照

カーネル開発ツール パッケージ. 「カーネル開発ツール パッケージ」を参照

グラフィカル インターネット パッケージ. 「グラフィカル インターネット パッケージ」を参照

システム ツール パッケージ. 「システム ツール パッケージ」を参照

レガシー サーバ パッケージ. 「レガシー サーバ パッケージ」を参照

レガシー ソフトウェア開発パッケージ. 「レガシー ソフトウェア開発パッケージ」を参照

開発ツール パッケージ. 「開発ツール パッケージ」を参照

lm-sensors パッケージ

インストール, 85

ism (Intel ISM service), Linuxism (インテル ISM サービス), Linux. 「マネージメント エージェント, ISM」を参照

LSM_WBA (ISM Windows ブリッジ エージェント). 「マネージメント エージェント, ISM」を参照

ismipmisensord サービス, Linux. 「マネージメント エージェント, ISM」を参照

M

Mozilla

インストール. 「グラフィカル インターネット パッケージ」を参照

MySQL

Linux へのインストール, 85

クライアント パッケージの Linux へのインストール, 85

新規ユーザを追加する, 88

起動, 88

P

pds2 (Ping Discovery Service), Linux. 「マネージメント エージェント, ISM」を参照

perl-CGI

Linux へのインストール, 82

S

SE7221BA1-E, インテル(R) サーバ ボード

lm-sensors の Linux へのインストール. 「lm-sensor」を参照

SMaRT ツール SMaRT ツール, 57

SNMP

snmpd 設定ファイル, 編集, 86

snmpd, Linux で起動する, 88

snmptrapd, Linux で起動する, 88

インテル サーバ マネージャ SNMP サービス. 「マネージメント エージェント, ISM」を参照

snmpd. 「SNMP」を参照

snmptrapd. 「SNMP」を参照

SSM (Intel System Space Manager). 「マネージメント エージェント, ISM」を参照

U

USM (ユーザ スペース マネージャ). 「マネージメント エージェント, ISM」を参照

V

vsftpd, 87

W

w3c-libwww パッケージ

Linux へのインストール, 83

Web サーバ

Linux cba8 サービス. 「マネージメント エージェント, ISM」を参照

Windows XP

常駐エージェント用のファイアウォール例外, 76

X

xinetd, 87

xinetd service, Linux. 「マネージメント エージェント, ISM」を参照

イ

インテル サーバ マネージャ SNMP サービス. 「マネージメント エージェント, ISM」を参照

インテル サーバ マネージャの新機能, ix

インテル サーバ製品 Web サイトの URL, x

インテル システム スペース (SSM) マネージャ. 「マネージメント エージェント, ISM」を参照

インテル ブートストラップ エージェント. 「マネージメント エージェント, ISM」を参照

インテル(R) サーバ マネージャ (ISM)

機能, 75

ウ

ウォッチドッグ サービス, Linux. 「マネージメント エージェント, ISM」を参照

ウォッチドッグ タイマー. 「マネージメント エージェント, ISM」を参照

カ

カーネル開発パッケージ

Linux へのインストール, 83

グ

グラフィカル インターネット パッケージ

Linux へのインストール, 84

シ

システム ツール パッケージ

Linux へのインストール, 84

バ

バージョン 8.40 の新機能, ix

パ

パスワード, ISM で必要パスワード, ISM でひつよう passwords_range, 78

レ

レガシー サーバ パッケージ

Linux へのインストール, 84

レガシー ソフトウェア開発パッケージ

Linux へのインストール, 83

ロ

ログ ファイル. 「ISM セットアップ, ログ ファイル」を参照

常

常駐エージェント. 「マネージメント エージェント, ISM」を参照

開

開発ツール パッケージ

Linux へのインストール, 83